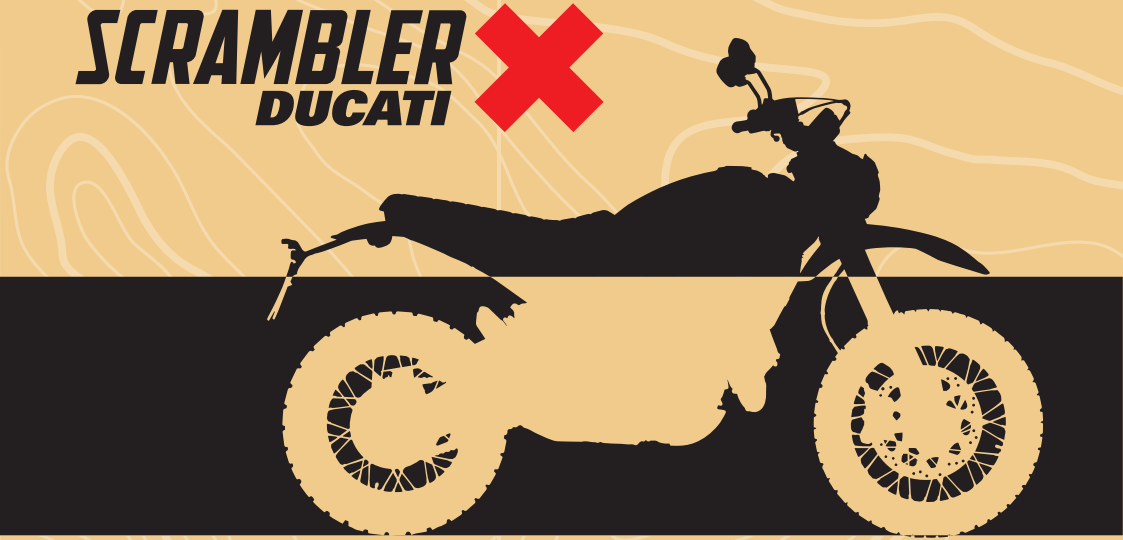
SCRAMBLER DUCATI



オーナーズマニュアル

オーナーズマニュアル

日本語

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。
所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。
本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は 本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで (書面による) 許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

概要　7
安全性ガイドライン　7
本マニュアルで使用されている警告シンボル　8
用途　8
ライダーの義務　9
ライダーの教育　12
服装　12
安全のための"ベストプラクティス"　13
燃料の補給　15
最大積載時の運転　15
車両への積載に関する注意　16
危険物 - 警告　16
車両識別番号　19
エンジン識別番号　20

インストルメントパネル (ダッシュボード)　21
インストルメントパネル　21
取扱説明書内で使用される頭字語および略語　24
技術用語集　25
機能ボタン　26
パラメーターの表示　27
主な機能とサブ機能　31
車両スピード　33
エンジン回転数表示 (RPM)　34
ギア　35
燃料レベル　36
時計　37
機能メニュー　38
オドメーター (TOT)　39
トリップメーター 1 (TRIP 1)　40
トリップメーター 2 (TRIP 2)　42
航続可能距離 (RANGE)　44
ヒーテッドグリップ (H. GRIPS) ー アクセサリー　45
外気温 (T-AIR)　47
ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF)　48
音楽プレーヤー操作 (PLAYER) ー アクセサリー　51
通話操作 (CALLS) ー アクセサリー　58

設定メニュー (SETTING MENU)　60
設定メニュー - ライディングモードの設定 (RIDING MODE)　63
設定メニュー - PIN コード：登録 (PIN CODE)　66
設定メニュー - PIN コード：変更 (PIN CODE)　66
設定メニュー - 時計の設定 (CLOCK SETTING)　75
設定メニュー - 日付の設定 (DATE SETTING)　79
設定メニュー - サービス情報 (SERVICE INFO)　85
設定メニュー - バックライトの調整 (BACKLIGHT)　87
設定メニュー - DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL CONTROL)　88
設定メニュー - バッテリー表示 (BATTERY)　89
設定メニュー - 単位の設定 (UNITS SETTING)　90
設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS)　94
設定メニュー - エンジン回転数表示 (RPM)　95
設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (BLUETOOTH)　96
インフォテインメント ー アクセサリー　102
メンテナンス表示 (SERVICE)　108
OIL SERVICE ゼロの表示　109
ANNUAL SERVICE カウントダウン 30 表示　110
ANNUAL SERVICE 表示　111
DESMO SERVICE カウントダウン 1000 表示　110
DESMO SERVICE 表示　113
注意 / 警告　114
エンジンの過熱　117
オイル過熱時のエンジン制限　118
DRL AUTO / MANUAL 表示 ー アクセサリー　120
サイドスタンドの状態表示　121
エラー　122
ライトコントロール　123
イモビライザーシステム　129
キー　130
キーの複製　131
PIN CODE による車両の解除　132

運転時に必要なコマンド　136

コマンド類の配置　136
イグニッションスイッチ / ステアリングロック　137
ハンドルバー左側スイッチ　138
クラッチレバー　139
ハンドルバー右側スイッチ　141
スロットルグリップ　142
フロントブレーキレバー　143
リアブレーキペダル　144
ギアチェンジペダル　145
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整　146

主要構成部品 / 装備　148

車両上の配置　148
燃料フィラープラグ　149
シートロック　150
サイドスタンド　151
USB コネクター　152
フロントフォーク調整　153
リアショックアブソーバーの調整　155

運転の方法　158

慣らし運転の方法　158
走行前の点検事項　160
ABS 装置　162
エンジンの始動　163
車両の発進　165
ブレーキ操作　166
車両の停止　168
パーキング　169
燃料の補給　170
付属アクセサリー　172

主な整備作業とメンテナンス　173

ブレーキフルードレベルの点検　173
エアフィルターの交換　174
ブレーキパッドの摩耗点検　175
バッテリーの充電　176
ジョイント部の潤滑　180
スロットルケーブルの調整　181
トランスミッションチェーン張力の点検　182
チェーンの潤滑　184
ヘッドライドの電球の交換　189
ヘッドライトの光軸調整　194
リアビューミラーの調整　196
タイヤ　201
エンジンオイルレベルの点検　204
スパークプラグの清掃と交換　205
車両の清掃　206
長期間の保管　208
重要注意事項　208

メンテナンスプログラム　209

メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス　209
メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス　212

テクニカル仕様　213

重量　213

サイズ　214
補給　215
エンジン　216
タイミングシステム　217
性能データ　218
スパークプラグ　218
燃料供給　218
ブレーキ　218
トランスミッション　220
フレーム　221
ホイール　221
タイヤ　221
サスペンション　221
エキゾーストシステム　221
カラーバリエーション　221
エレクトリカルシステム　223

定期点検メモ　229
定期点検メモ　229

概要

安全性ガイドライン

この度は Ducati 製品をご購入いただきありがとうございます。お客様をドゥカティストの仲間としてお迎えできることは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクを日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることと思います。
Ducati モーターホールディング社は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っております。

お客様のモーターサイクルは、Ducati モーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものです。定期点検を必ず実施し、純正スペアパーツを使用することで品質を維持することが大切です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターでご覧いただけるワークショップマニュアルに記載されております。
お客様ご自身の安全のため、また製品の安全性、信頼性を保証するために、メンテナンスプログラムのすべての作業を Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施していただくことを強くお薦めしますページ 209 参照。

Ducati の熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具を備え、最適な互換性、円滑な作動、ロングライフを保証する Ducati 純正パーツのみを使用し、最善のサービスを提供いたします。

すべての Ducati モーターサイクルには保証書が付属しております。
車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。
車両や部品の一部であっても改造または変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり不十分であった場合、また純正ではないスペアパーツや Ducati が承認していないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全を守ることは非常に重要です。お客様が責任を持ってモーターサイクルをご使用になられますようお願いいたします。
モーターサイクルを初めてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後までよくお読みになり、記載されているガイドラインに正しく従ってください。正し

い使用方法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先の正規ディーラーにお問い合わせください。

本マニュアルで使用されている警告シンボル

お客様または他の人に負わせる可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、および警告または重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ

警告
これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くおそれがあります。

重要
車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。

参考
作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は、車両の進行方向に向かっての左右を意味します。

用途

警告
本モーターサイクルはオンロードとオフロードでの使用が可能ですが、オフロードの競技用サーキットでの使用はできません。

警告
本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、パッセンジャーを一人乗せることができます。

警告
ライダー、パッセンジャー、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 380kg / 837.7lb を超えないようにしてください。

本車両には M+S カテゴリーのタイヤが装着されています。ドゥカティ社推奨タイヤ： Pirelli Scorpion Rally。

警告

M+S カテゴリータイヤ装着時の最高速度

車両の最高速度はタイヤに規定されている最高速度を上回っていることがあります。スピードの出し過ぎはタイヤを損傷させ、事故の原因になるおそれがあります。タイヤに規定されている最高速度を守るように注意してください。ドゥカティ社推奨タイヤ Pirelli Scorpion Rally などの M+S カテゴリーのタイヤを装着して走行する場合は、タイヤの速度記号に相当する速度を超えないようにしてください。Pirelli Scorpion Rally の最高速度は 190 km/h (118 mph) です。

警告

M+S カテゴリーのタイヤを装着している場合は、190 km/h (118 mph) を超える速度で走行しないでください。

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

警告

ハンドルブレースは、アクセサリーのサポートのみを目的とした部品ですので、ハンドルブレースを持ってバイクを持ち上げたり動かしたりしないでください。

ライダーの義務

運転者は運転免許証を所持していなければなりません。

警告
無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

アルコールまたは薬物の影響を受けている状態で運転しないでください。

警告
アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

医師から副作用についての説明を受けずに、運転前に薬を服用しないでください。

警告
薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

一部の国では保険への加入が義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

運転者および同乗者の安全を守るため、一部の国では基準適合ヘルメットの着用が法律で義務付けられています。

警告
現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

警告
事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れていること、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国の基準適合マークが貼付されてることを確認してください。道路交通法は各国で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

警告
付属のヘッドライトグリル(1)は、一般道路走行用の保安基準に適合しておりません。

ヘッドライトグリル(1)は、クローズドサーキットにおける競技車両専用に製作された製品です。一般道路での使用は、法律により禁じられています。

ライダーの教育

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

警告
ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクルを運転する際に着用する装備は安全を確保する上で大変重要な役割を果たします。モーターサイクルは自動車のように乗員を衝撃から守ることはできません。

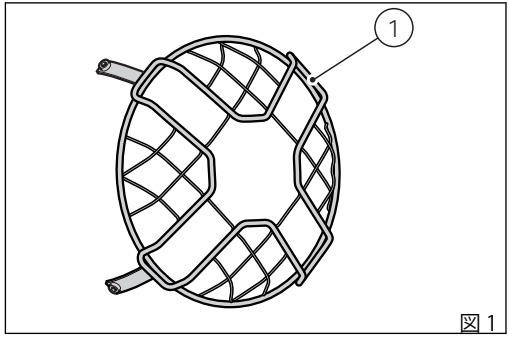


図 1

適切な装備とは、ヘルメット、目を保護するもの、グローブ、ブーツ、長袖ジャケット、ロングパンツからなります。

- ヘルメットは「ライダーの義務」の章に記載されている要件を満たしていなければなりません。シールドが付いていないモデルの場合は、適切なゴーグルを着用してください。
- グローブは革製もしくは摩擦に強い素材を用いたもので、5 本指のものを着用してください。
- 運転する際のブーツやシューズは、アンチスリップソールとアンクルプロテクターを装備しているものを着用してください。

- ジェケットとパンツ、もしくはプロテクトスーツについては、革製のものか摩擦に強い素材を用いたもので、視認性を高めるカラーインサートが付いているものを着用してください。

重要
車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。

重要
安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。

重要
パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための"ベストプラクティス"

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

重要
慣らし運転期間中は、本冊子の "使用規定" の章に記載されている指示に従ってください。
この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

警告
運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください (ページ 160 を参照)。

警告
これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

警告
エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。
排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。
走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

重要
ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

重要
走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

重要
パッセンジャーはシート下のフレームの所定のハンドルバーを常に両手で握ってください。

重要
私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要
相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要
右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要
モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要
タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。
トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告
エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告
モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。
給油中は絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。
エンジンおよびエキゾーストパイプに燃料がかからないように注意してください。
給油の際は燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。
給油中は燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。

警告
この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

警告
燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹸で洗ってください。

警告
燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。
車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。

警告
サイドバッグ装着時、トップケース装着時、サイドバックとトップケース装着時の最高速度は 160 km/h (99 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

警告
最大許容重量を超えないようにしてください。また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意

重要
積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。

重要
車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。

重要
バッグなどの荷物は車体にしっかり固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。

重要
車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。

警告
タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 201 の"タイヤ"の段落を参照してください。

危険物 - 警告

使用済みエンジンオイル

警告
使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹸で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキシステムの清掃に圧縮空気を噴射したり、乾いたブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード

警告
車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

エンジンクーラントに含まれるエチレングリコールは特定の条件下において可燃性があり、その炎は肉眼では見えません。エチレングリコールが発火した場合、その炎が肉眼では見えないため重大な火傷につながるおそれがあります。

警告
エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかからないようにしてください。

バッテリー

警告

バッテリーは爆発性ガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリーを充電する際は、作業エリアが適切に換気されていること、気温が 40° C を下回っていることを確認してください。バッテリーは開けないでください。本バッテリーには酸性液やその他の液体を充填する必要はありません。

車両識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄にご自身のモーターサイクルのフレーム番号 (図 2) を控えておくことをお勧めします。

フレーム　N.

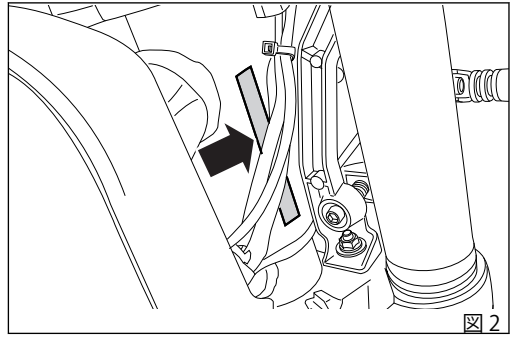


図 2

エンジン識別番号

参考
これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄にご自身のモーターサイクルのエンジン番号 (図 3) を控えておくことをお勧めします。

エンジン　N.

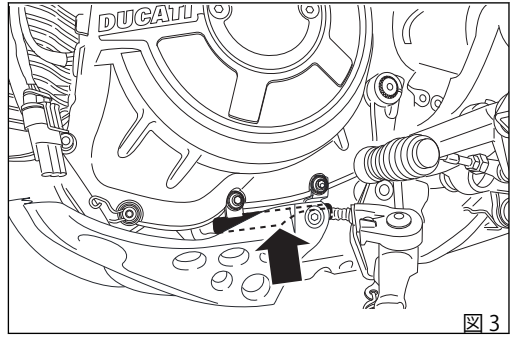


図 3

インストルメントパネル (ダッシュボード)

インストルメントパネル

1) LCD ディスプレイ。

2) タコメーター。
1 分間のエンジン回転数を表示します。

3) ニュートラルランプ N (緑)
ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

4) ハイビーム表示灯 (青)
ハイビーム点灯時およびフラッシュ起動時に点灯します。

5) エンジンオイル圧警告灯 (赤)
エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。
"KEY-ON" 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

重要
エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

6) リザーブ燃料警告灯 (琥珀色)
燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します (「補給」をご覧ください)。

7) ターンインジケーター表示灯 (緑)
ターンインジケーターの作動中、左右いずれかの表示灯が点滅します。ハザード作動中は、左右の表示灯が同時に点滅します。

8) "エンジン/車両診断 - MIL" ランプ (琥珀色)
エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

9) ABS ランプ (琥珀色)
ABS 停止もしくはエラー時に点灯します。

10) OVER REV / イモビライザー停止 / 盗難防止ランプ (赤)
オーバーレブ：

- ランプ消灯 – リミッターの介入なし
- ランプ点灯 – リミッター介入の第一起点
- ランプ点滅 – リミッター介入

参考

エンジンコントロールユニットの各キャリブレーションで起点値とリミッター値の設定が異なる場合があります。

イモビライザー / 盗難防止装置：

- ランプ点滅 – 車両オフ (Key-OFF) 状態
- ランプ消灯 – 車両オン (Key-ON) 状態、または 12 時間以上車両オフ (Key-OFF) 状態

11) 一般的エラー警告灯
車両にエラーがある場合や他のコントロールユニットに起因するエラーが存在する場合に点灯します。

12) DRL ランプ (緑) (装備している場合のみ)

- ランプ消灯 – DRL 機能が作動していない
- ランプ点灯 – DRL 機能が作動している
- ランプ点滅 – DRL 機能を起動したあと、インストルメントパネルがエラーを検出した

重要

ディスプレイに "TRANSPORT MODE" の文字が表示されている場合は、直ちにドゥカティ正規ディーラーにご連絡ください。正規ディーラーにてこの項目を削除し、バイクの完全な機能の保証を受けてください。

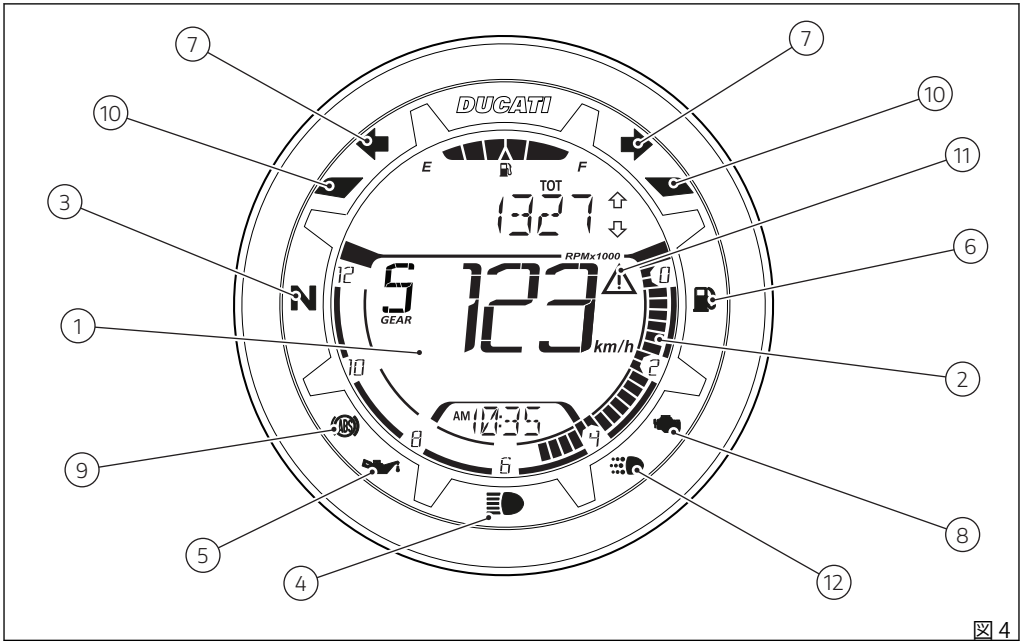

DUCATI
E
F
TOT
1327
RPMx1000
12
0
N
5
GEAR
123
km/h
10
2
AM
10:35
8
4
6
1
2
3
4
5
6
7
7
8
9
10
10
11
12

図 4

取扱説明書内で使用される頭字語および略語

ABS
アンチロックブレーキシステム
CAN
コントローラーエリアネットワーク
DDA
ドゥカティデータアナライザー
DSB
インストルメントパネル
ECU
エンジンコントロールユニット

技術用語集

アンチロックブレーキシステム (ABS) 9.1MP

ABS 9.1MP はデュアルチャンネルの次世代システムです。リアホイールのリフティングを制御するインテグラルブレーキにより、制動距離を短くするだけでなく、制動時の高い安定性を確保します。

機能ボタン

1) コントロールボタン UP " ⇧ " (メニュー操作)
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン " ⇧ "。

2) コントロールボタン DOWN " ⇩ " (メニュー操作)
インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン " ⇩ "。

3) フラッシャーランプボタン
ボタンを押すとハイビームが点滅します。

4) ターンインジケーター作動 / メニュー決定ボタン " ○ "
このボタンは通常ターンインジケーターの作動に使用しますが、メニュー決定 " ○ " にも使用します。

5) DRL ボタン (アクセサリー)
このボタンで DRL ライトを起動 / 解除します。

6) ハザードボタン
4 つのターンインジケーターの起動 / 解除に使用するボタン (ハザード機能)。

7) ロービーム / ハイビームライトボタン
このボタンでロービームライトとハイビームライトを起動 / 解除します。

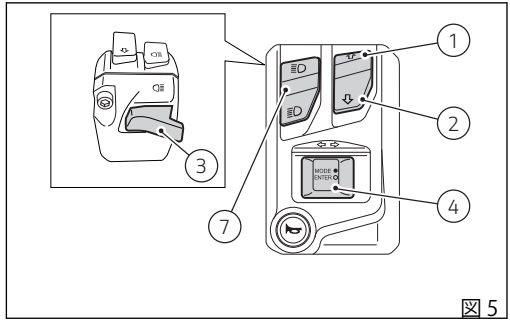


図 5

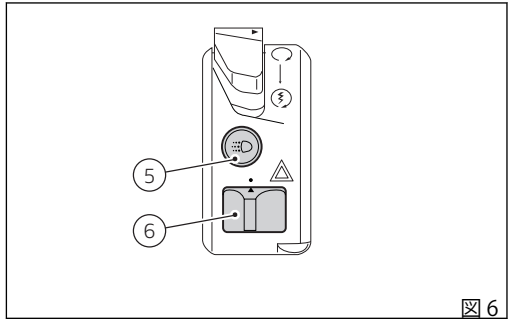


図 6

パラメーターの表示

インストルメントパネル起動時に、初期点検としてランプとディスプレイの点検が次のように実施されます。
ランプが順番に点灯し、ディスプレイにはソフトウェアバージョンが表示されるとともに、タコメーターとスピードメーターのバーが徐々に点灯します。
点検が終了すると、インストルメントパネルは所定の機能が表示されるメイン画面 ("スタンダードスクリーン") に移り、警告がある場合は警告灯が点灯します。

点検中に車両速度が 5 km/h (3 mph) (実速度) を超えると、インストルメントパネルはランプとディスプレイの点検を直ちに中断し、メイン画面を表示します。

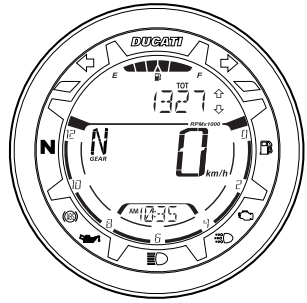


図 7

メイン画面には以下の情報が表示されます。

1) 車両スピード
2) ギア表示
3) タコメーター
4) 燃料レベル
5) メニュー
6) 時計
7) DRL ステータス表示 (装備している場合)
8) Bluetooth およびインフォテインメント (装備している場合)
9) ヒーテッドグリップ (装備している場合)
10) ライディングモード “OFF ROAD” (設定メニューから起動した場合)

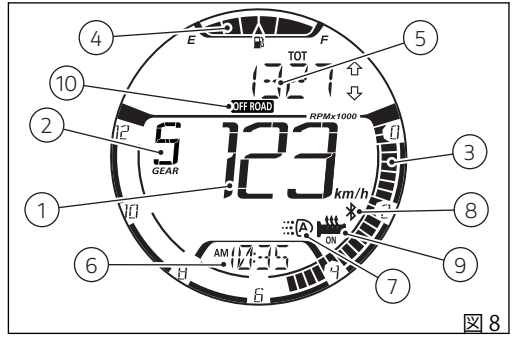


図 8

以下の機能が有効な時は、これらの詳細情報が表示されます。

- 注意 / 警告表示 (Warning)
- サイドスタンドの状態 (Side Stand)
- SERVICE 表示
- SERVICE カウントダウン表示

左側スイッチのボタン (1) またはボタン (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 航続可能距離 (RANGE)
- ヒーテッドグリップ (H. GRIPS) (装備、起動している場合)
- 外気温 (T-AIR)
- ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF) – ライディングモード “OFF ROAD” が起動している場合のみ
- PLAYER – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
- CALLS – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ。
- 設定メニュー (SETTING MENU)

各種機能がスクロール表示できる時は、メニューの右側に UP ⇧ および DOWN ⇩ 矢印が現れます。矢印はそれぞれ左側スイッチのボタン (1) とボタン (2) に相当します。丸印 ○ の表示は、左側スイッチのボタン

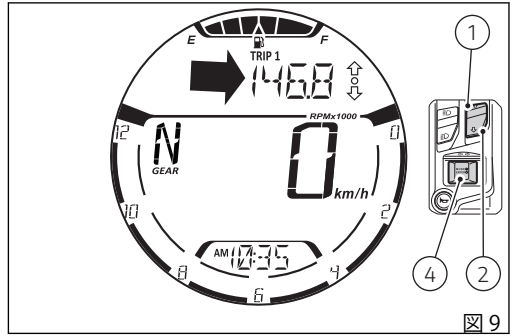


図 9

(4) を押して表示された機能を操作できることを示します。例えばトリップメーター 1 (TRIP 1、ページ 40) のリセットです。

インストルメントパネルには Key-OFF 時に使用していたメニューの設定が記憶されます。
次に Key-ON した時、インストルメントパネルのメニューに 10 秒間 "オドメーター" 機能が表示され、その後前回の Key-OFF 時に保存した機能が表示されます。この最初の 10 秒間にボタン (1) またはボタン (2) を押すと、オドメーター (TOT) の 10 秒間の強制表示が中止され、前回の Key-OFF 時に保存した機能が表示されます。

急な Key-OFF (電源供給が突然途絶えた) の場合、次の Key-ON 時にインストルメントパネルはメニュー内にオドメーター (TOT) 機能を表示します。

主な機能とサブ機能

スタンダードスクリーンに表示される機能：

メイン機能

- 車両スピード
- エンジン回転数表示 RPM
- メニューには以下の機能が表示されます。
  - オドメーター (TOT)
  - トリップメーター 1 (TRIP 1)
  - トリップメーター 2 (TRIP 2)
  - 航続可能距離 (RANGE)
  - ヒーテッドグリップ (H.GRIPS) (装備している場合)
  - 外気温 (T-AIR)
  - ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF) – ライディングモード “OFF ROAD” が起動している場合のみ
  - 音楽プレーヤー操作 (PLAYER) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
  - 通話操作 (CALLS) – Bluetooth モジュールが搭載されており、少なくとも 1 台のスマートフォンが接続されている場合のみ
  - 設定メニュー

設定メニューのうち以下の機能はユーザーによる変更が可能です。

- ライディングモードの設定 (RIDING MODE)
- PIN コード：登録 (PIN CODE)
- PIN コード：変更 (PIN CODE)
- 時計の設定 (CLOCK SETTING)
- 日付の設定 (DATE SETTING)
- サービス情報 (SERVICE INFO)
- バックライトの調整 (BACKLIGHT)
- DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL CONTROL)
- バッテリー表示 (BATTERY)
- 単位の設定 (UNITS SETTING)
- ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS)
- エンジン回転数表示 (RPM)
- Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (BLUETOOTH)

サブ機能

- インフォテインメント ー アクセサリー
- メンテナンス表示 (SERVICE)
- OIL SERVICE ゼロの表示
- ANNUAL SERVICE カウントダウン 30 表示
- ANNUAL SERVICE 表示

- DESMO SERVICE カウントダウン 1000 表示
- DESMO SERVICE 表示
- 注意 / 警告
- エラー表示
- エンジンの過熱
- オイル過熱時のエンジン制限
- DRL AUTO / MANUAL 表示 ー アクセサリー
- サイドスタンドの状態表示
- PIN CODE による車両の解除

車両スピード

この機能は車両速度 (km/h または mph) を表示します。
インストルメントパネルは車両の実速度 (km/h で算出) 情報を受信し、それに 5% 上乗せしたデータを設定した単位 (km/h または mph) で表示します。
表示最高速度は 299 km/h (186 mph) です。

以下の場合には "- - -" と単位が表示されます。

- 速度が 299 km/h (186 mph) を超えた場合、またはインストルメントパネルが速度情報を受信しない場合 ("- - -" 点灯)
- リアスピードセンサーに異常がある場合 ("- - -" 点滅)

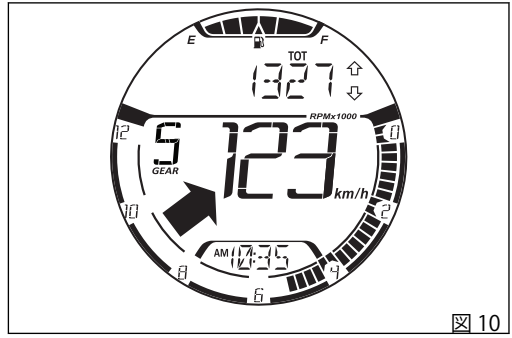


図 10

エンジン回転数表示 (RPM)

この機能はエンジン回転数をバーグラフで表示します。
エンジン回転数データは、回転数に相当するバーグラフの目盛りが右から左へ点灯して表示されます。

リミッター手前の起点値に達すると、該当する警告灯 (警告灯 10、図 4) が点灯します。

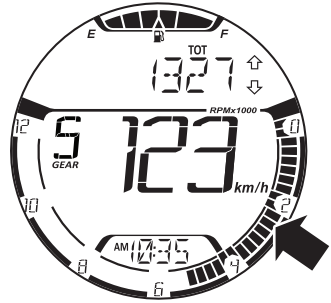


図 11

ギア

この機能は車両のギアに関する情報を表示します。ギアが挿入されている時は 1 から 6 の値が表示され、ニュートラルの時は "N" の文字が表示され、ニュートラルランプ (ランプ 2、図 4) が点灯します。

以下のような場合には線 “-” が表示されます。

- インストルメントパネルがギアデータを受信できない場合は、線 “-” とニュートラルランプ (ランプ 2、図 4) が点滅します。

- エラーが発生した場合は、線 “-” が点灯し、ニュートラルランプ (ランプ 2、図 4) が点滅します。

- ギアデータが不安定な場合は、線 “-” が点灯します。

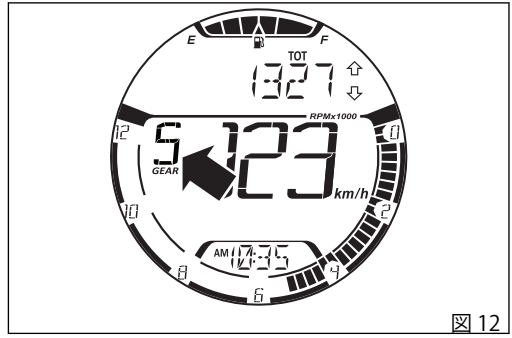


図 12

参考

線 “-” が点灯し、ニュートラルランプが消えている場合は、ギアが機械的に安定した位置にない可能性があります。この場合は、ギアが正しく表示されるまでギアを操作してください。

燃料レベル

この機能は燃料残量を表示します。
リザーブ警告灯 (ランプ 6 図 4) は、レベルが目盛 2 まで下がると点灯します。
さらにレベルが下がると、燃料ポンプマークが点滅を始め、文字 “E”、“F” とインジケーター “ ▲ ” が点滅します。

重要

燃料がリザーブ状態に入りランプが点灯している場合は、給油の際に車両を停止 (Key-OFF) することが推奨されます。車両を停止せずに (Key-ON でエンジン OFF の状態) 給油を行うと、燃料データがすぐに更新されないことがあります。

参考

レベルセンサーにエラーや異常が発生した場合は、目盛りは表示されません。代わりに、燃料ポンプマーク、文字 “E”、“F” とインジケーター “ ▲ ” が点滅します。

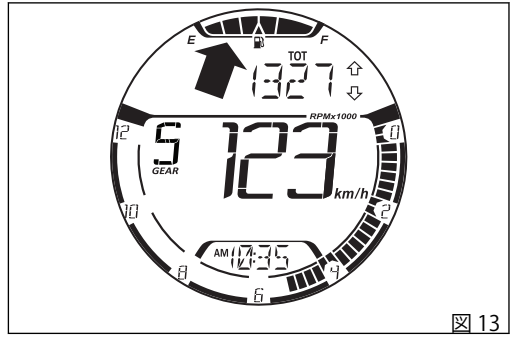


図 13

時計

インストルメントパネルは時間を次のように表示します。

- hh (時間) : mm (分)
- AM または PM の文字。

電源の供給が中断 (バッテリー OFF) すると、時間表示の代わりに 3 本の破線 “– :– –” と “AM” の文字が表示されます。

時間は設定メニューから設定することができます。

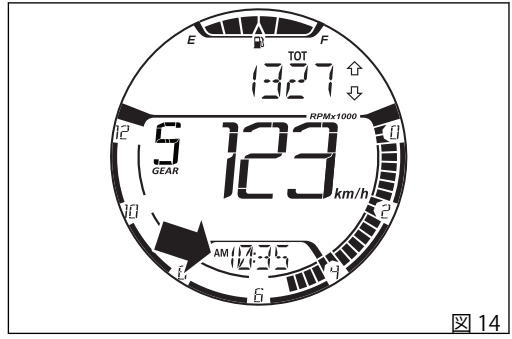


図 14

機能メニュー

左側スイッチのボタン (1) またはボタン (2) を押すと、メイン画面にメニュー内の機能をスクロール表示することができます。
メニューには以下の機能が表示されます。

- オドメーター (TOT)
- トリップメーター 1 (TRIP 1)
- トリップメーター 2 (TRIP 2)
- 航続可能距離 (RANGE)
- ヒーテッドグリップ (H.GRIPS) – 起動している場合のみ
- 外気温 (T-AIR)
- 設定メニュー (SETTING MENU)
- PLAYER (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)
- CALLS (Bluetooth モジュールが搭載されており、スマートフォンが接続されている場合のみ)

各種機能がスクロール表示できる時は、メニュー枠内の左側に UP ⇧ および DOWN ⇩ 矢印が現れます。矢印はそれぞれ左側スイッチのボタン (1) とボタン (2) に相当します。丸印 ○ の表示は、左側スイッチのボタン (4) を押して表示する機能と統合できることを示します。例えばトリップメーター 1 (TRIP 1、 ページ 40) のリセットです。

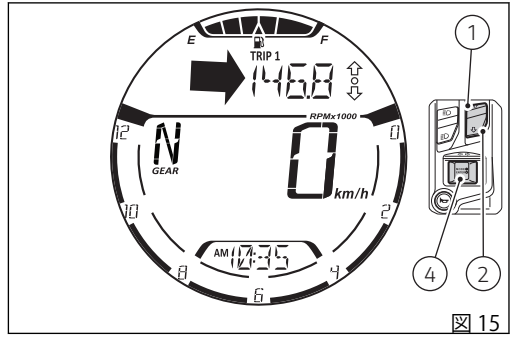


図 15

オドメーター (TOT)

オドメーターは車両の総走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
オドメーターに対応する数値 (キロ またはマイル) は、"TOT" の文字と単位で表示されます。最大値 (199999 km または 199999 mi) に達するとインストルメントパネルにその値が表示されたままになります。
オドメーターの値は常に保存され、いかなる理由でもリセットすることはできません。

電源の供給が中断 (バッテリー OFF) してもデータは消去されません。

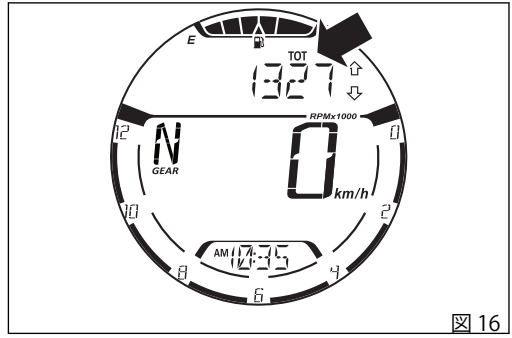


図 16

参考

オドメーター機能で点線 " ----- " が点滅表示される場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

トリップメーター 1 (TRIP 1)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
TRIP 1 の値 (キロまたはマイル) は、"TRIP 1" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

ボタン (4) を押すと、TRIP 1 がリセットされます。

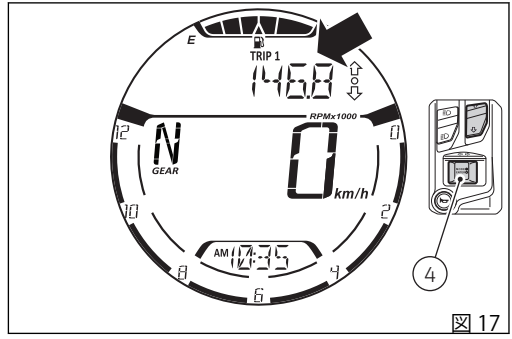


図 17

TRIP 1 のリセット

トリップメーターの表示中にボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに "RESET" の文字が表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずにトリップメーターの表示に戻ります。
一方、ボタン (4) を押した場合は、TRIP 1 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは “0.0” と設定単位の表示に戻ります。

TRIP 1 のデータは、設定メニュー (ページ 90) から手動で単位を変更した場合とバッテリーの接続が切れた場合にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

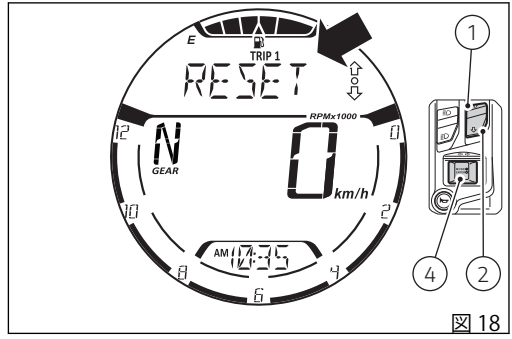


図 18

トリップメーター 2 (TRIP 2)

トリップメーターは車両の部分走行距離を設定単位 (キロまたはマイル) でカウント、表示します。
TRIP 2 の値 (キロまたはマイル) は、"TRIP 2" の文字と単位で表示されます。

データが最大値 9999.9 km または 9999.9 mi を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

ボタン (4) を押すと、TRIP 2 がリセットされます。

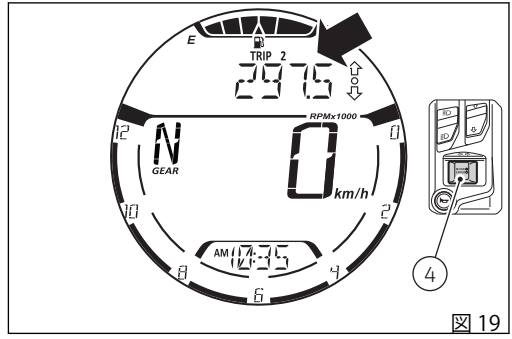


図 19

TRIP 2 のリセット

トリップメーターの表示中にボタン (4) を押すと、インストルメントパネルに "RESET" の文字が表示されます。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、データをリセットせずにトリップメーターの表示に戻ります。
一方、ボタン (4) を押した場合は、TRIP 2 のデータがリセットされます。インストルメントパネルは “0.0” と設定単位の表示に戻ります。

TRIP 2 のデータは、設定メニュー (ページ 90) から手動で単位を変更した場合とバッテリーの接続が切れた場合にも自動的にリセットされ、新しく設定した単位でゼロから再びカウントを始めます。

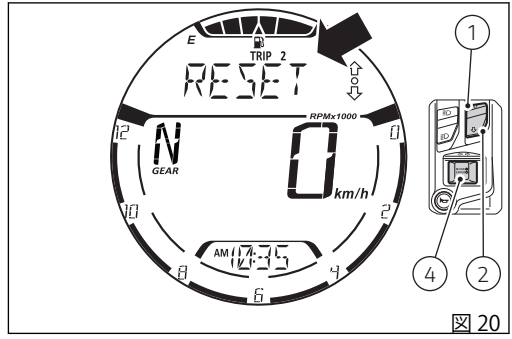


図 20

航続可能距離 (RANGE)

この機能はフューエルタンク内の燃料レベルで走行できる航続可能距離をキロまたはマイルで表示します。データは"RANGE"の文字と単位(キロまたはマイル)で表示されます。

この機能にエラーが検知されると、インストルメントパネルは 3 本の破線 "- - -" を点滅させます。
インストルメントパネルが単位情報を受信できない場合は、デフォルト単位を点滅表示します。

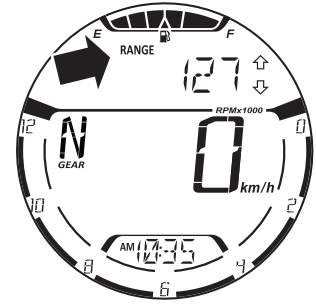


図 21

ヒーテッドグリップ (H. GRIPS) ー アクセサリー

ヒーテッドグリップを装備している場合にのみ表示され、ヒーテッドグリップの作動、停止、調整が可能です。

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、機能メニュー内の“H.GRIPS” 機能を選択します 。ディスプレイにはヒーテッドグリップの現在設定されているレベルが表示されます。設定は“OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH” です。

ボタン (4) を押してレベルを設定することができます。インストルメントパネルはヒーテッドグリップのレベル設定手順に入ります。現在のレベルが点滅し、"EXIT" 表示の前に下向きの黒色矢印が表示されます (図 23)。
ボタン (1) またはボタン (2) を押すたびに、現在のレベルから別のレベルにスライドしながら点滅表示されます。表示される設定は“OFF”、“LOW”、“MED”、“HIGH” です。

新しいレベルを設定せずに手順を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間長押しします。
そうではなく、点滅表示されているレベルを選択して設定を終了するには、ボタン (4) を押します。

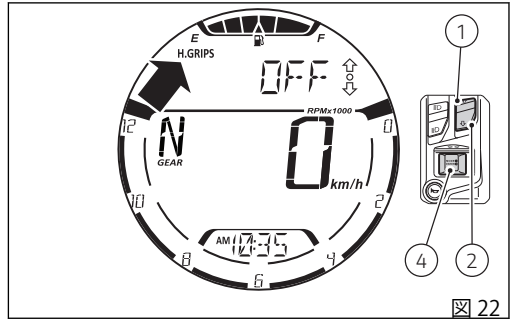


図 22

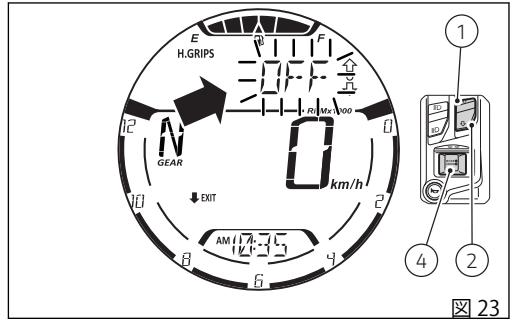


図 23

“OFF” 以外のレベルを選択した場合は、メイン画面にヒーテッドグリップのマークが現れます。このマークが点灯すると、ヒーテッドグリップの加熱準備ができていることを示します。

ヒーテッドグリップが実際に作動する (加熱される) のは、エンジン稼働中に一定の回転数が維持されている場合のみです。これはバッテリーに負荷がかからないようにするためです。。
ヒーテッドグリップが実際に作動すると、ヒーテッドグリップマークの下に “ON” の文字が現れます。
(図 25)

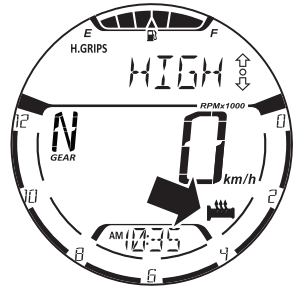


図 24

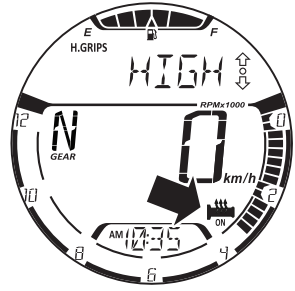


図 25

外気温 (T-AIR)

インストルメントパネルは検出した外気温を "T AIR" の文字と単位 (° C または ° F) で表示します。

温度データは -39° C (-38° F) ～ +124° C (+255° F) の場合に表示されます。
温度が -39° C (-38° F) 未満あるいは +124° C (+25% ° F) を超えると、" - - - " と単位が表示されます。

インストルメントパネルが気温のデータを受信しない場合、単位と共に 3 本の破線 "- - -" が固定表示されます。

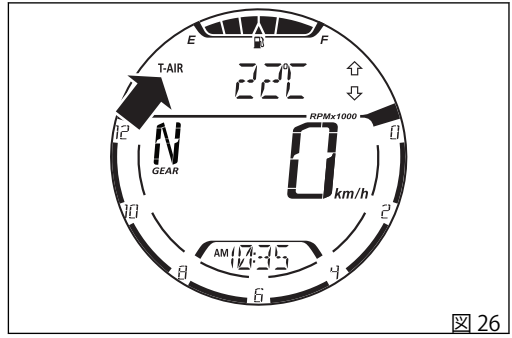


図 26

参考

エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF)

この機能は ABS システムの起動または解除を行います。ライディングモード “OFF-ROAD” (ページ 63) を設定している場合にのみ表示されます。

ABS システムが起動している場合は、“ABS:OFF” (図 27) の文字が表示されます。一方、ABS システムが解除されている場合は、“ABS:ON” (図 28) の文字が表示されます。

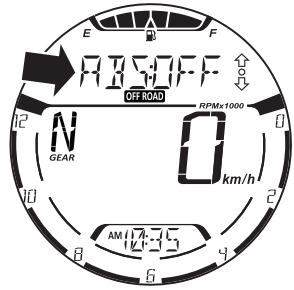


図 27

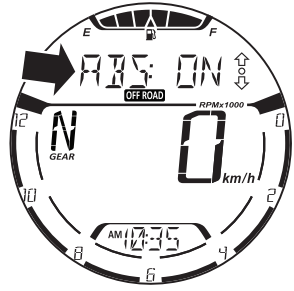


図 28

ABS システムの解除

車両の速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、ABS システムを解除することができます。
ABS システムを解除するには、ボタン (1) またはボタン (2) を押して “ABS:OFF” 機能を選択し、ボタン (4) を押してください。
ボタン (4) を押した後、ディスプレイには “ABS:OFF” (図 30) の代わりに “WAIT” の文字が 2 秒間現れます。2 秒後、ABS システムが正常に解除されると、前の画面に戻り “ABS: ON” の文字が表示されます。

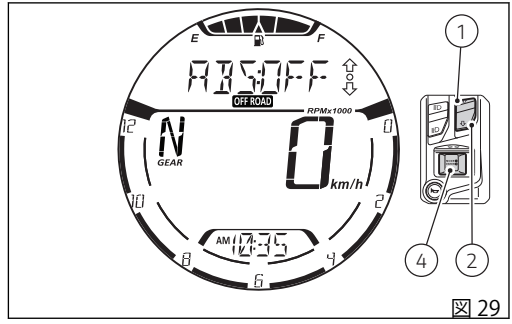


図 29

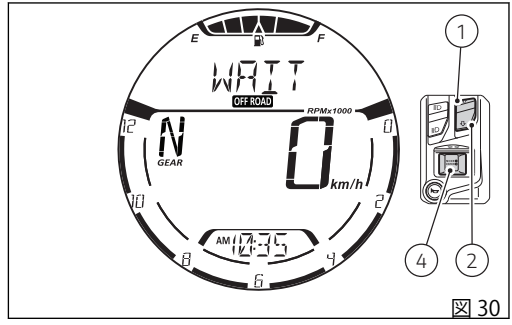


図 30

参考
ABS システムが解除されている時は、関連する ABS ランプが点灯します。

参考
ABS システムのステータス変更中にインストルメントパネルがエラーを検出した場合は、"WAIT" の文字の代わりに "ABS:ERR" の文字が 3 秒間点滅し、機能画面に戻り ABS システムの前のステータスが表示されます。もう一度操作を繰り返してください。

ABS システムの起動

車両の速度が 5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、ABS システムを起動することができます。
ABS システムを起動するには、ボタン (1) またはボタン (2) を押して “ABS: ON” 機能を選択し、ボタン (4) を押してください。
ボタン (4) を押した後、ディスプレイには “ABS: ON” (図 32)　の代わりに “WAIT” の文字が 2 秒間現れます。2 秒後、ABS システムが正常に起動されると、前の画面に戻り “ABS:OFF” の文字が表示されます。

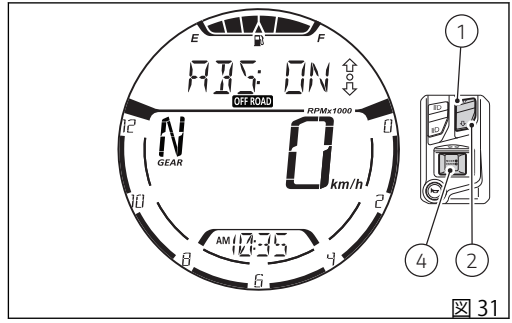


図 31

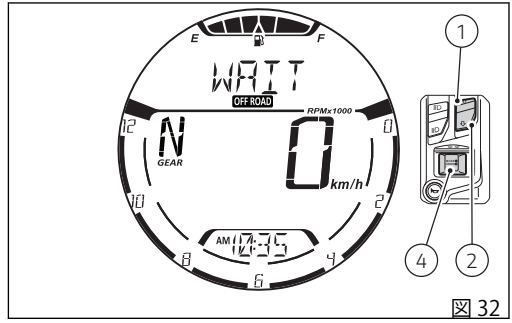


図 32

参考
ABS システムのステータス変更中にインストルメントパネルがエラーを検出した場合は、"WAIT" の文字の代わりに "ABS:ERR" の文字が 3 秒間点滅し、機能画面に戻り ABS システムの前のステータスが表示されます。もう一度操作を繰り返してください。

音楽プレーヤー操作 (PLAYER) ー アクセサリー

この機能は音楽プレーヤー操作を有効、無効にします。
Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。
機能を “OFF” (図 33) または “ON” (図 34) に設定します。

重要

インストルメントパネルに Bluetooth 接続しているスマートフォンの接続が切れたり電源が切れたりした場合は、「音楽プレーヤー操作 (PLAYER)」はメニューの機能リストには表示されません。スマートフォンがインストルメントパネルに Bluetooth 接続された時に、再び表示されます。

参考

スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、音楽はヘルメットのイヤホンを通して再生されます。

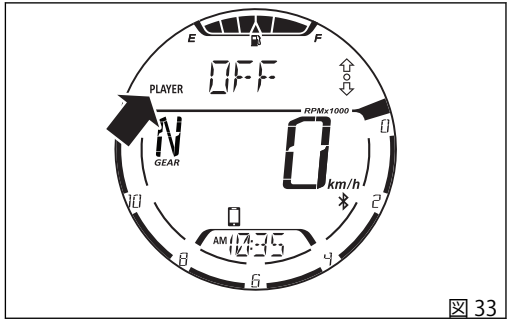


図 33

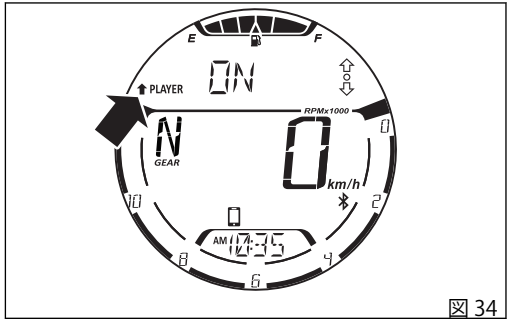


図 34

音楽プレーヤー操作の起動 (OFF から ON)

音楽プレーヤー操作が “OFF” に設定されている場合、ボタン (4) を押すとプレーヤー操作が起動します。音楽プレーヤー操作が起動中は、接続しているスマートフォンで再生中の曲のタイトル (A、図 36)、可能な操作 (B、図 36)、“EXIT” の表示とその前に下向きの黒色矢印 (C、図 36) がディスプレイに表示されます。

完全な曲名は一度だけ右から左にスクロールで表示され、その後は曲名の最初の 6 文字だけが表示されます。曲タイトルが利用できない場合は、“NOT AVAILABLE” の文字が表示されます。

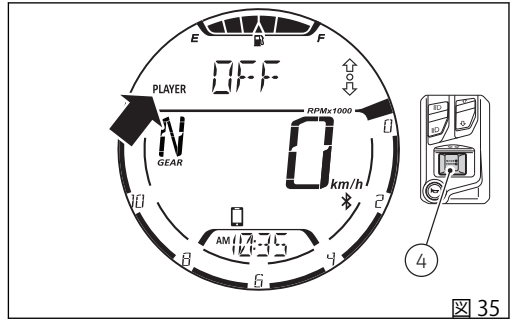


図 35

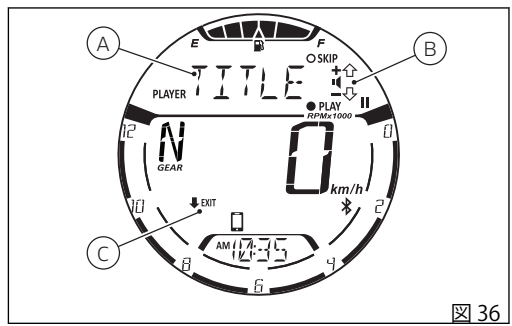


図 36

音楽プレーヤー操作

操作が起動している時、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) は音楽プレーヤー操作専用ボタンになります。具体的には：

- 再生 / 一時停止：ボタン (4) を 2 秒間押します。
- “SKIP” (次の曲に移動)：ボタン (4) を短く押します。
- “+” (音量を上げる)：ボタン (1) を短く押します。ボタンを押している間は “+” マークが消えて、ボタンが押されたことを示します。
- “-” (音量を下げる)：ボタン (2) を短く押します。ボタンを押している間は “-” マークが消えて、ボタンが押されたことを示します。
- “EXIT” (音楽プレーヤー操作から出る)：ボタン (2) を 2 秒間押します。

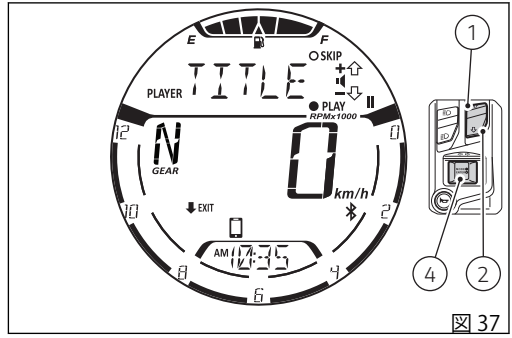


図 37

再生 / 一時停止

曲の一時停止中 (A) は、ディスプレイにはマーク“ ⏸ ”と黒色丸印“ ● ”の横に“PLAY”の文字が表示されます。これは、ボタン (4) を 2 秒間押して再生を再開できることを示します。

曲の再生中 (B) は、ディスプレイにはマーク“ ▶ ”と"PAUSE" の横に黒色丸印“ ● ”が表示されます。これは、ボタン (4) を 2 秒間押して一時停止できることを示します。

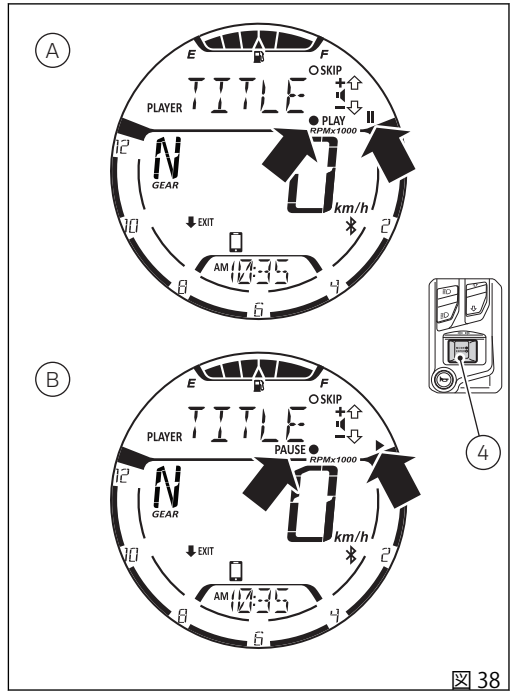


図 38

起動中の音楽プレーヤー操作から出る (ON)：

曲の再生中など音楽プレーヤー操作を起動したままプレーヤー操作から出るには、ボタン (2) を 2 秒間押します。その後、ディスプレイには上向き黒色矢印の横に “PLAYER” の表示、“ON” の文字、白色丸印 “ ∘ ” が 3 秒間点滅します (図 39)。

3 秒が経過すると、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) の機能が音楽プレーヤー操作ではなく、通常のインストルメントパネル操作に戻ります。

“音楽プレーヤー操作 (PLAYER)” 機能を起動 (ON) すると、メニュー内に上向き黒色とその横に “PLAYER” の表示、“ON” の文字が現れます (図 40)。

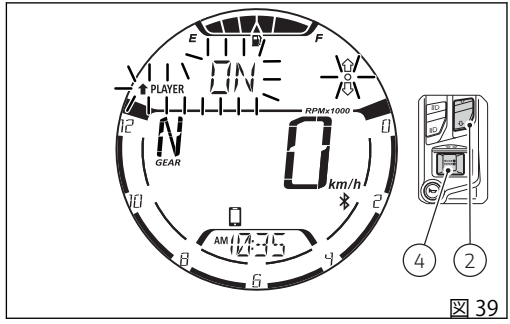


図 39

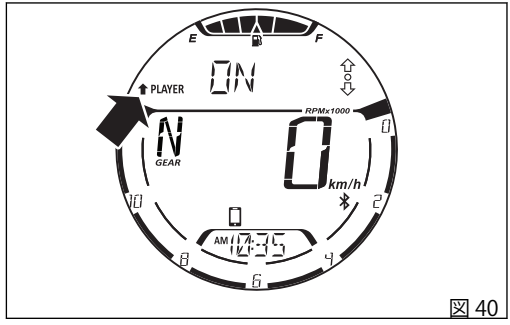


図 40

音楽プレーヤー操作に戻る (ON)：

音楽プレーヤーを起動 (ON) した後で別の機能に切り替えるために一旦プレーヤー操作から出た場合、再び音楽プレーヤー操作に戻るには、メニューに “音楽プレーヤー操作 (PLAYER)” 機能を表示してからボタン (1) を 2 秒間押してください (図 41)。

音楽プレーヤー操作に再びアクセスすると、ボタン (1)、ボタン (2)、ボタン (4) は音楽プレーヤー操作専用ボタンに戻ります (図 42)。

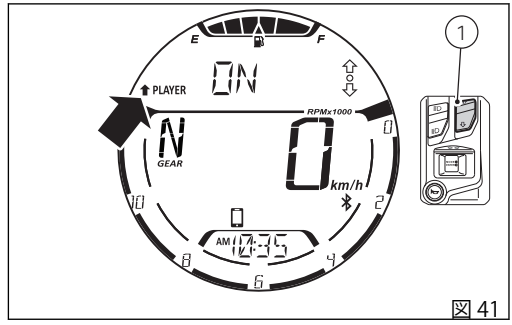


図 41

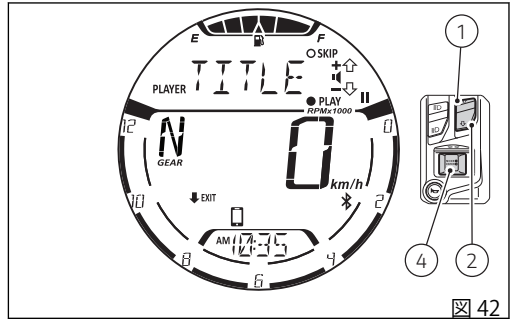


図 42

音楽プレーヤー操作の停止 (ON から OFF)：

音楽プレーヤー操作を “OFF” に設定するには、メニューから PLAYER を選択します (図 43)。この場合、曲の再生中であっても再生が中止されます。
機能には “ON” の文字が表示されています。この時点でボタン (4) を押します。

これで、音楽プレーヤー操作が “OFF” に設定されます (図 44)。

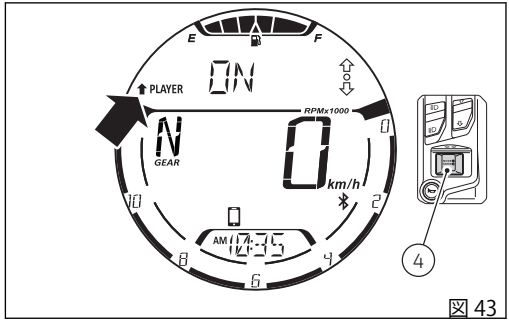


図 43

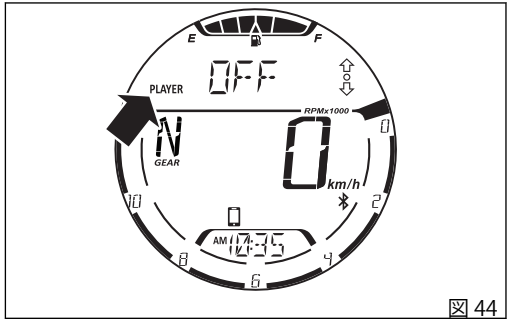


図 44

通話操作 (CALLS) ー アクセサリー

この機能は不在着信、発信、着信の履歴を表示します。Bluetooth コントロールユニットを搭載し、スマートフォンが接続されている場合にのみ利用できます。

ボタン (4) を押して履歴一覧を表示します。
機能に入ると、ディスプレイに直前の通話相手の名前または電話番号が表示されます (図 46)。

インストルメントパネルは、Bluetooth 接続されているスマートフォンから履歴一覧情報を直接受け取ります。
発信、受信、不在着信の履歴は最大 7 件まで表示されます。

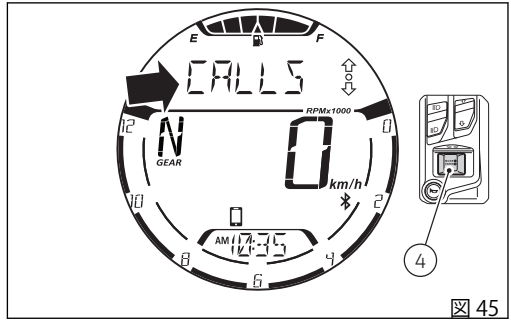


図 45

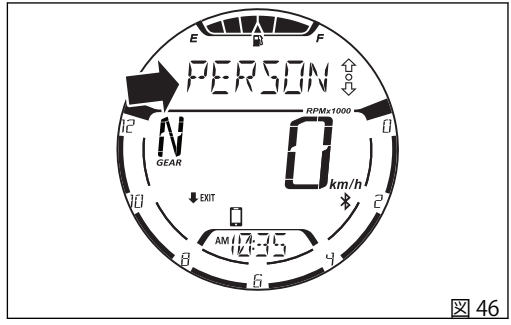


図 46

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、通話一覧をスクロールすることができます。一覧から選択した電話番号 / 名前に発信するには、ボタン (4) を押します。詳しくは “インフォテインメント – 通話中” (ページ 104) を参照してください。

通話履歴が何もない場合は、ディスプレイに "EMPTY" の文字が表示されます (図 48)。この場合は機能を終了します。

機能を終了して前の画面に戻るには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

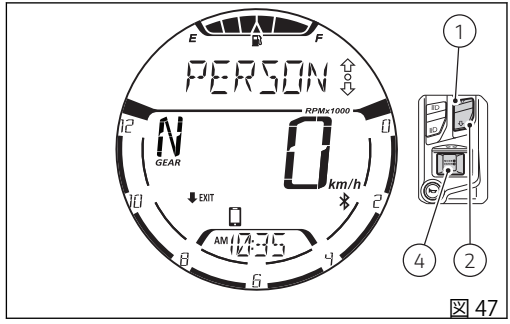


図 47

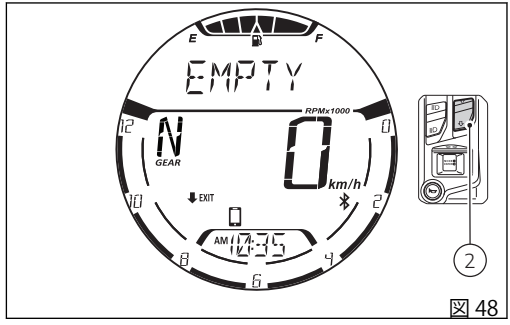


図 48

設定メニュー (SETTING MENU)

このメニューではいくつかの車両機能のON/OFFおよび設定を行います。

安全上の理由により、車両の実速度が5 km/h (3 mph) 以下の場合に限り、このメニューに入ることができます。
設定メニュー (SETTING MENU) が表示されている時に車両の実速度が5 km/h (3 mph) を超えると、インストルメントパネルは自動的に設定メニュー (SETTING MENU) を終了し、メイン画面を表示します。

設定メニュー (SETTING MENU) に入るには、ボタン (1) またはボタン (2) でメニュー内の項目 "SETTING MENU" を選択し、ボタン (4) を押します。

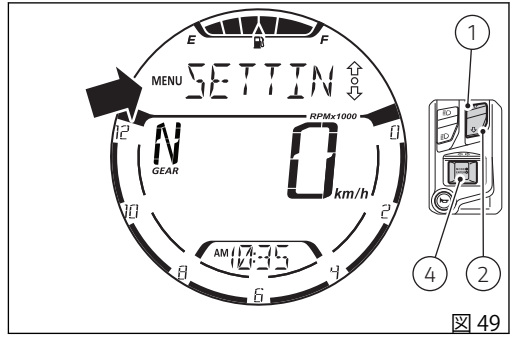


図 49

参考

走行速度が5 km/h (3 mph) 以下の時にのみ丸印 ○ が表示されます。速度5 km/h (3 mph) 以下で走行中に突然5 km/h (3 mph) を超えた場合は、丸印 ○ は消えます。その後、走行速度が5 km/h (3 mph) 以下に戻ると再び点灯します。

SETTING MENU に入ると、ディスプレイの表示モードが以下のように変わります。

- "MENU" 表示とその前に歯車マーク “ ✿ ”
- 1 番目の機能名
- 矢印 “ ⇧ ”、“ ⇩ ” と丸印 “ ○ ”
- “EXIT” 表示とその前に下向きの黒色矢印 “ ⬇ ”

SETTING MENU には以下の機能が表示されます。

- RIDING MODE (ライディングモード)
- PIN CODE (PIN コード)
- CLOCK SETTING (時計の設定)
- DATE SETTING (日付の設定)
- SERVICE INFO (サービス情報)
- BACKLIGHT (バックライト)
- DRL CONTROL – DRL 機能を搭載している場合のみ
- BATTERY (バッテリー)
- UNITS SETTING (単位の設定)
- TURN INDICATORS (ターンインジケーター)
- RPM
- BLUETOOTH – Bluetooth モジュールを搭載している場合のみ

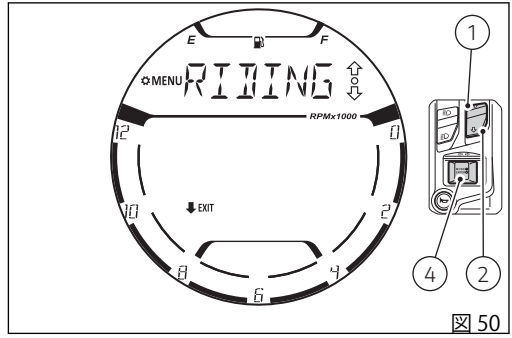


図 50

重要
安全のために、このメニューは車両が停止している状態で使用してください。

ボタン (1) および (2) を押すと、設定メニュー (SETTING MENU) の上記機能を一つずつ表示することができます。ボタン (2) を押すと次の機能が、ボタン (1) を押すと前の機能が強調表示されます。
機能名が右から左にスクロールして表示されます。
希望の機能を表示した後、ボタン (4) を押すと、選択した機能に対応するメニューページが開きます。

機能が装備されていない場合や一時的に解除されている場合は、メニューページにアクセスできません。

設定メニュー (SETTING MENU) を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

設定メニュー - ライディングモードの設定 (RIDING MODE)

この機能からライディングモード “JOURNEY” または “OFF ROAD” に設定します。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"RIDING MODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

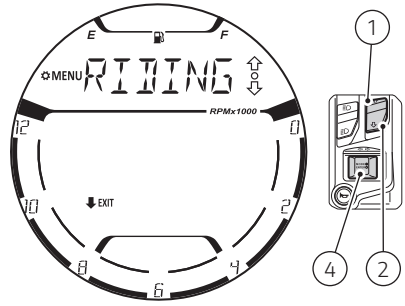


図 51

この機能に入ると、現在設定されているライディングモード名が次のようにインストルメントパネルにスクロールで表示されます。“JOURNEY” (図 52) または “OFF ROAD” (図 53)。
ボタン (1) とボタン (2) を使用して、希望するライディングモードを選択します。
ボタン (4) を押すと、選択したライディングモードを確定します。

続いて、ディスプレイには設定したライディングモードが表示されます (スクロールはしません)。この場合には、ボタン (2) を長押しして機能を終了し、設定メニューのメインページに戻ることができます。あるいは、ボタン (1) またはボタン (2) を押して、もう一度ライディングモードの選択を繰り返すことができます。

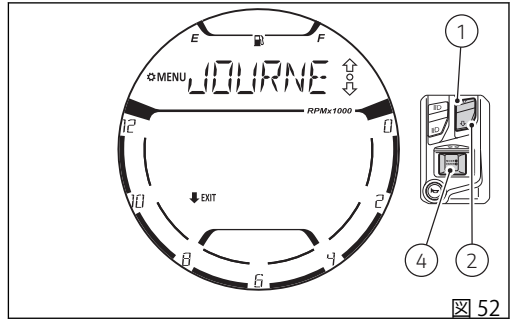


図 52

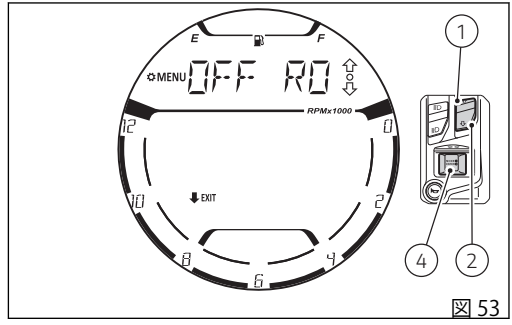


図 53

ライディングモード OFF ROAD を選択すると、ディスプレイのスタンダード画面には “OFF ROAD” (図 54) の文字が表示され、機能メニュー内には “ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF)” (図 55) 機能がリスト表示されます。

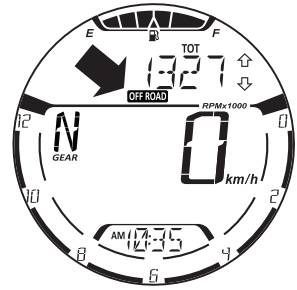


図 54

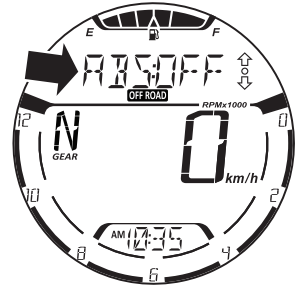


図 55

設定メニュー - PIN コード：登録 (PIN CODE)

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。PIN CODE は最初車両に登録されていませんので、ユーザーが 4 桁の PIN をインストルパネルに入力して有効にします。これを行わないと、不具合が生じた場合に一時起動することができません。

PIN CODE の変更については、“設定メニュー - PIN コード：変更 (PIN CODE)” (ページ 66) を参照してください。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" の手順に従います。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定 (登録) しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の "リセット" を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE 機能を有効にし、PIN CODE を入力するには、設定メニュー (SETTING MENU) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"PIN CODE" を選択します。

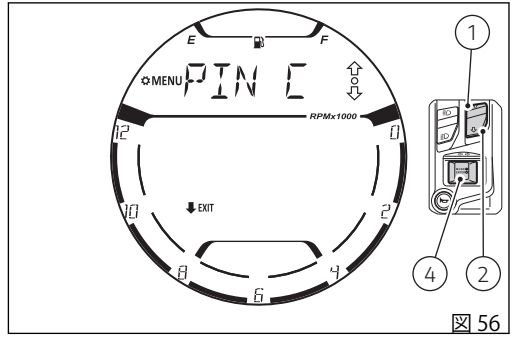


図 56

機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、ディスプレイに "N:"(NEW) が表示され、4 本の破線 "- - - -" (A) が点滅します。
PIN CODE を登録せずに機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。
一方、4 本の破線 “- - - -” が点滅している状態でボタン (4) を押すと、PIN CODE の入力に進みます。

参考
機能に入った時に "O : " (OLD) が表示され、点線 "- - - -" が点滅する場合は、 PIN がすでに存在し、従ってこの機能が有効な状態であることを示します。

PIN CODE の入力 (B)：

1) 左から 1 桁目の数字 “0” だけが点滅します
2) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定すると、点滅が次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

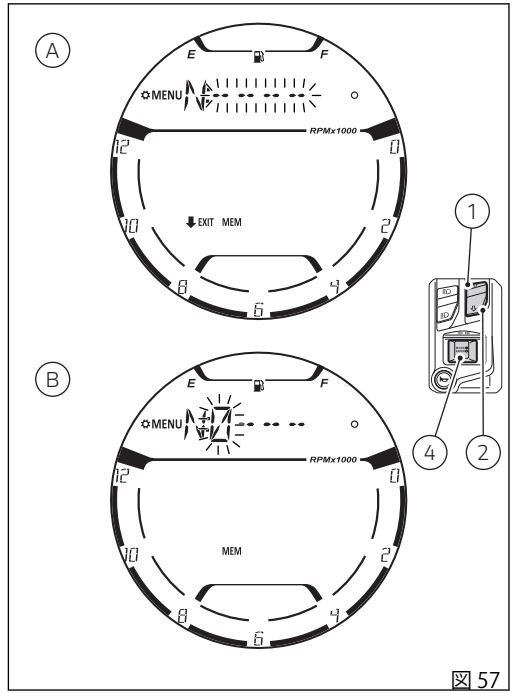


図 57

参考

数字の入力中は、最後の桁を入力するまで、ボタン (2) を 2 秒間押して機能を終了することはできません。そのため、最後の桁を入力するまで、“EXIT” の文字と下向きの黒色矢印は表示されません。

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEM" (A) の文字枠が点滅します。

ボタン (2) を 2 秒間押すと、PIN CODE を登録せずに機能を終了します。

一方、PIN CODE を登録する場合は、"MEM" の文字枠が点滅している時にボタン (4) を押します。インストルメントパネルは PIN CODE を保存し、"MEM OK" (B) の文字を 2 秒間表示します。その後、自動的に SETTING MENU の前のページに戻ります。

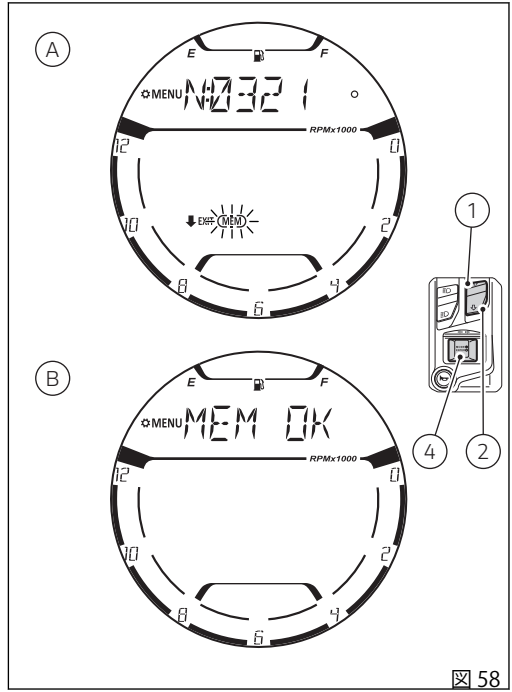


図 58

設定メニュー - PIN コード：変更 (PIN CODE)

この機能で PIN CODE の有効化または変更を行います。

新たに PIN CODE を登録するには、“設定メニュー - PIN コード：登録 (PIN CODE)” (ページ 66) を参照してください。

不具合が生じた際に車両を一時的に起動するには、"PIN CODE による車両の解除" の手順に従います。

すでに登録されている PIN を変更するには、SETTING MENU に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"PIN CODE" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

PIN コードを変更するには、旧 PIN CODE を入力してから新 PIN CODE を入力します。

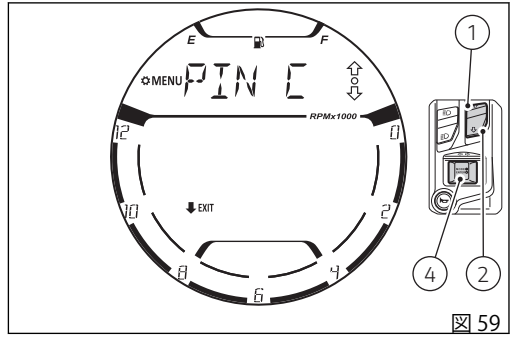


図 59

旧 PIN CODE の入力：

参考
機能に入った時に "N : " (NEW) が表示され、点線 "- - - -" が点滅する場合は、PIN CODE が登録されたことがないことを示します。PIN CODE を登録してください。

機能に入ると、ディスプレイに "O:"(OLD) が表示され、4 本の破線 "- - - -" が点滅します (A) 。
PIN CODE を入力せずに前の画面に戻るには、ボタン (2) を 2 秒間押します。
一方、4 本の破線 “- - - -” が点滅している状態でボタン (4) を押すと、旧 PIN CODE の入力に進みます。

1) 左から 1 桁目の数字 “0” だけが点滅します (B)。
2) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定すると、点滅が次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

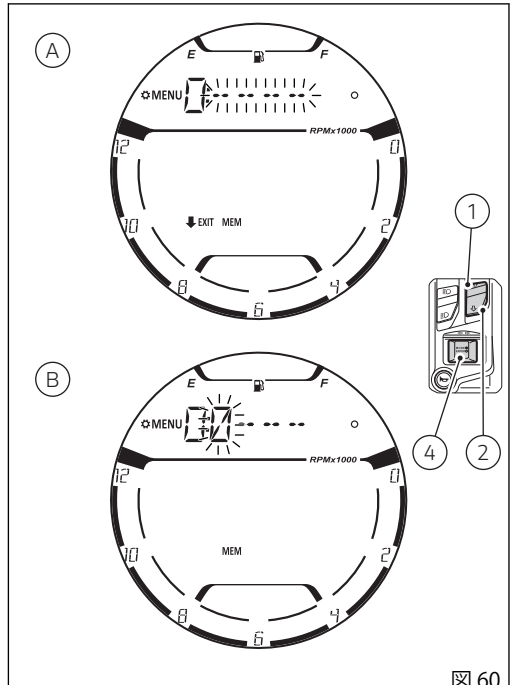


図 60

参考

数字の入力中は、最後の桁を入力するまで、ボタン (2) を 2 秒間押して機能を終了することはできません。そのため、最後の桁を入力するまで、“EXIT” の文字と下向きの黒色矢印は表示されません。

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、インストルメントパネルは入力された PIN を検証します。

- PIN CODE が正しくない場合、インストルメントパネルは "ERROR" を 2 秒間点滅表示し、その後旧 PIN CODE を入力する点線 "- - - -" を再び強調表示します (A、図 60)。もう一度 PIN CODE を入力してください。
- PIN CODE が正しい場合は、インストルメントパネルは "OK" を 2 秒間点滅表示し、その後新 PIN CODE 入力画面に進みます。

新 PIN CODE の入力：

ディスプレイに "N:"(NEW) が表示され、4 本の破線 "- - - - -" (A) が点滅します。
新しい PIN CODE を入力せずに機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。
一方、4 本の破線 "- - - -" が点滅している状態でボタン (4) を押すと、新 PIN CODE の入力に進みます。

1) 左から 1 桁目の数字 "0" だけが点滅します (B)。
2) ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。
3) ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
4) ボタン (4) を押して数字を決定すると、点滅が次の桁に移動します。

この手順を繰り返し、新 PIN CODE の 4 桁すべての数字を決定します。

参考
数字の入力中は、最後の桁を入力するまで、ボタン (2) を 2 秒間押して機能を終了することはできません。そのため、最後の桁を入力するまで、"EXIT" の文字と下向きの黒色矢印は表示されません。

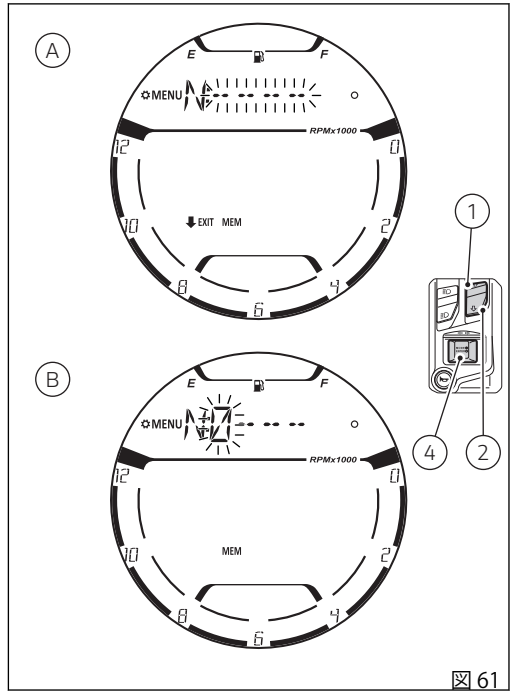


図 61

ボタン (4) を押して最後の桁を決定すると、"MEM" (A) の文字枠が点滅します。

ボタン (2) を 2 秒間押すと、新 PIN CODE を保存せずに機能を終了します。

一方、新 PIN CODE を保存する場合は、"MEM" (A) の文字枠が点滅している時にボタン (4) を押します。インストルメントパネルは新 PIN CODE を保存し、"MEM OK" (B) の文字を 2 秒間表示します。その後、自動的に SETTING MENU の前のページに戻ります。

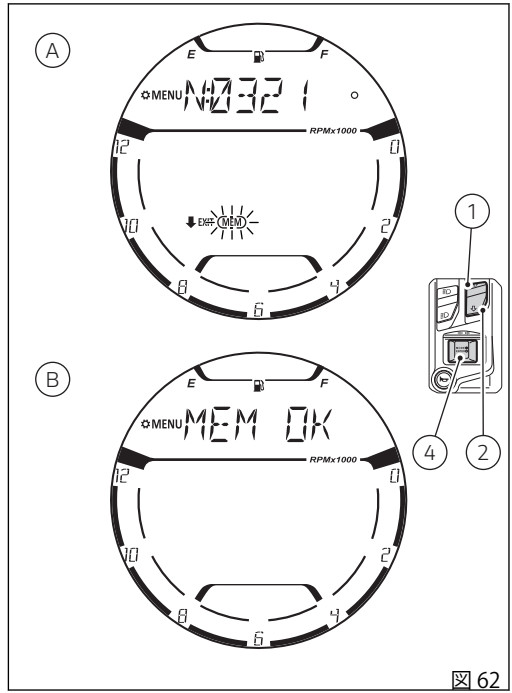


図 62

設定メニュー - 時計の設定 (CLOCK SETTING)

この機能は時計の調整と設定を行います。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"CLOCK SETTING" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

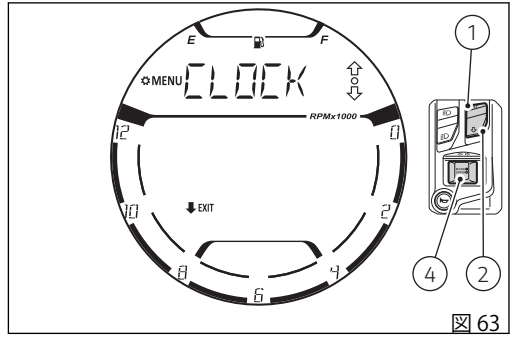


図 63

参考
バッテリーが切断される度に時計の情報はリセットされますでの、ユーザーは再度設定する必要があります。

参考
時計を初めて設定する場合には、時間は "AM" で表示され、「時」「分」の値には “- -” が表示されています。

設定が可能な項目は以下のように表示されます。

- AM / PM
- 時間
- 分

機能に入ると、現在の設定時刻が表示され、コロン「:」が点滅します (図 64)。
時刻の設定または変更を行わずに機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。
時計の設定を進めるには、ボタン (4) を押します。

AM / PM の設定

最初に変更できるパラメーターは AM / PM です。現在の設定データが点滅して表示されます (図65)。ボタン (1) および (2) で "AM" と "PM" を切り替えます。
ボタン (4) を押して選択した値を決定すると、時間の設定に移ります。

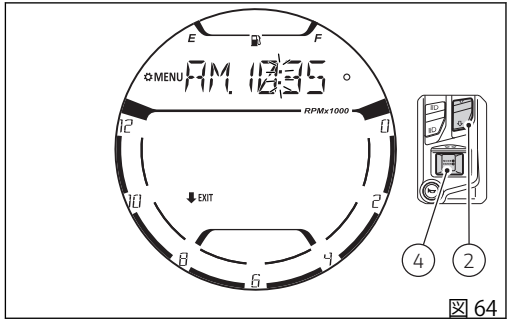


図 64

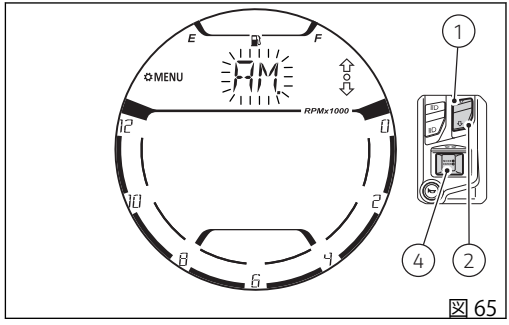


図 65

時間の設定

ディスプレイに表示される現在の設定時刻の時間が点滅します。

ボタン (1) を 1 回押すたびに、1 時間ずつ値が進みます。 ボタン (1) を長押しすると、1 秒ごとに 1 時間ずつ値が進みます (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 時間ずつ値が戻ります。 ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 時間ずつ値が戻ります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (4) を押して値を決定すると、分の設定に移ります。

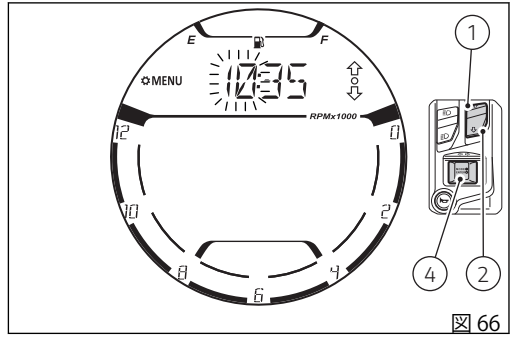


図 66

分の設定

ディスプレイに表示される現在の設定時刻の分が点滅します。

ボタン (1) を 1 回押すたびに、1 分ずつ値が進みます。ボタン (1) を長押しすると、1 秒ごとに 1 分ずつ値が進みます。ボタン (1) を 5 秒以上押し続けると、高速で値が大きくなります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (2) を 1 回押すたびに、1 分ずつ値が戻ります。ボタン (2) を長押しすると、1 秒ごとに 1 分ずつ値が戻ります。ボタン (2) を 5 秒以上押し続けると、高速で値が小さくなります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (4) を押すと分の値が点滅を止め、設定モードを終了します。この時点で、インストルメントパネルには今設定した時刻が表示されています (図 68)。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

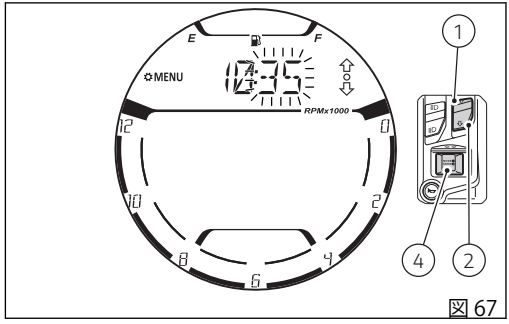


図 67

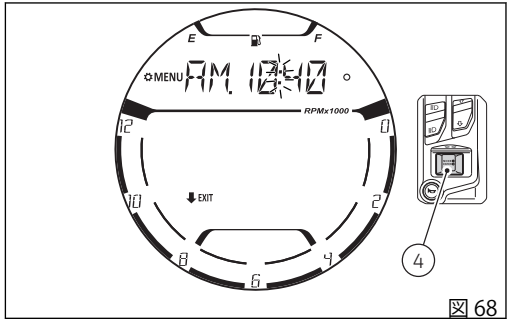


図 68

設定メニュー - 日付の設定 (DATE SETTING)

この機能は日付の調整と設定を行います。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"DATE SETTING" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

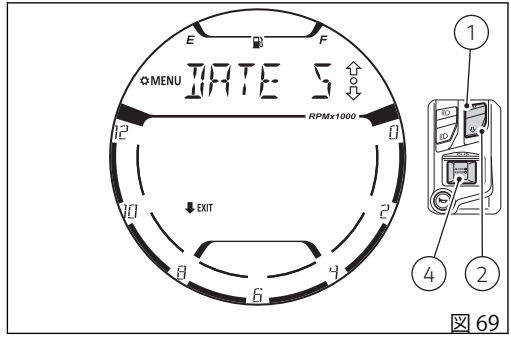


図 69

重要

バッテリーが切断されるたびにカレンダー情報はリセットされるので、その都度設定する必要があります。

参考

日付を初めて設定する場合、「年」の値には “- - - -”、「月」「日」の値には “- -” が表示されています。

設定が可能な項目は以下のように表示されます。

- Y.- 年
- M. - 月
- D. - 日

機能に入ると、現在の設定「年」とその前に “Y.” の文字が表示されます。(図 70)。

日付を変更せずに機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、“Y.” の文字が点滅を始めます (図 71)。この時点で、ボタン (1) またはボタン (2) を使用して、現在設定されている “Y.” (年)、“M.” (月)、“D.” (日) の項目 (点滅) をスクロール表示することができます。

値を設定または変更するには、設定したい項目 (“Y.”、“M.”、または “D.”) が点滅している時にボタン (4) を押してください。

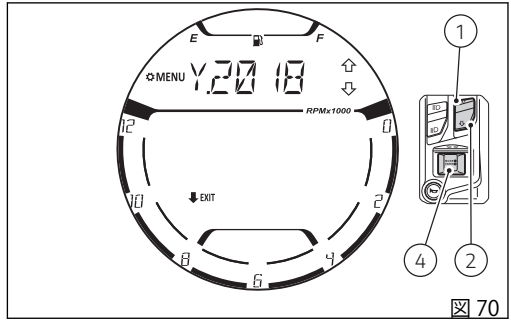


図 70

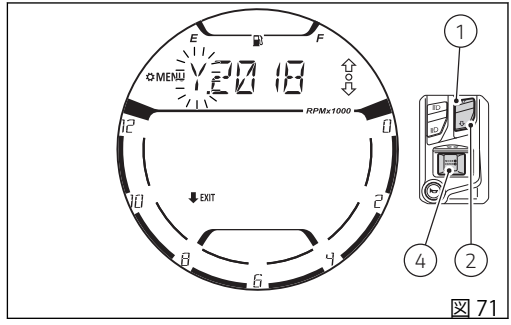


図 71

年 (Y.) の設定：

機能に入ると、“Y.” の文字の代わりに年に相当する数字が点滅します。

ボタン (1) を押すたびに、1 年ずつ値が進みます。ボタン (1) を押し続けると、1 秒につき 1 年ずつ値が進みます (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (2) を押すたびに、1 年ずつ値が戻ります。ボタン (2) を押し続けると、1 秒につき 1 年ずつ値が戻ります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

年の値は「2018」より小さい値、「2099」より大きい値には設定できません。年の値を進めて「2099」に達すると、表示は「2018」に戻ります。同様に、年の値を戻して「2018」に達すると、表示は「2099」に戻ります。
ボタン (4) を押すと調整が終了し、“Y.” の文字が再び点滅を始め、別の項目にスクロールすることができます。

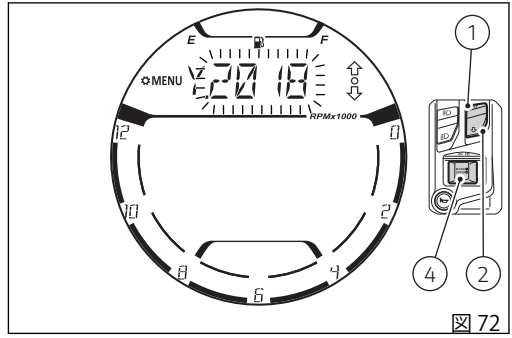


図 72

月 (M.) の設定：

機能に入ると、“M.” の文字の代わりに月に相当する数字が点滅します。

ボタン (1) を押すたびに、1 か月ずつ値が進みます。ボタン (1) を押し続けると、1 秒につき 1 か月ずつ値が進みます (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (2) を押すたびに、1 か月ずつ値が戻ります。ボタン (2) を押し続けると、1 秒につき 1 か月ずつ値が戻ります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (4) を押すと調整が終了し、“M.” の文字が再び点滅を始め、別の項目にスクロールすることができます。

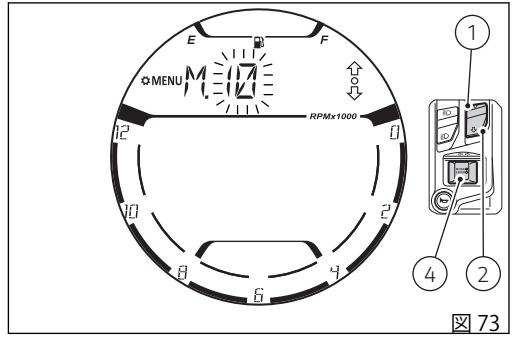


図 73

日 (D.) の設定：

機能に入ると、“M.” の文字の代わりに日に相当する数字が点滅します。

ボタン (1) を押すたびに、1 日ずつ値が進みます。ボタン (1) を押し続けると、1 秒につき 1 日ずつ値が進みます (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (2) を押すたびに、1 日ずつ値が戻ります。ボタン (2) を押し続けると、1 秒につき 1 日ずつ値が戻ります (ボタンを押し続けている間、数字は点滅しません)。

ボタン (4) を押すと調整が終了し、“D.” の文字が再び点滅を始め、別の項目にスクロールすることができます。

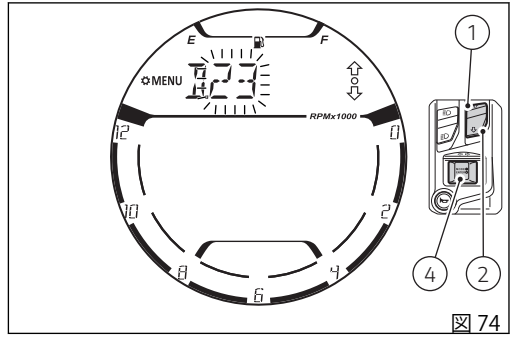


図 74

参考

データ欄 (“Y.”、“M.”、“D.”) のいずれかの値を設定中は、ボタン (2) を 2 秒間押して “DATE SETTING” 機能を終了することはできません。

日付の保存：

ボタン (2) を 2 秒間長押しして “DATE SETTING” 機能を終了した時点で、日付が保存されます。
入力された日付が無効なデータである場合、入力された日付がインストルメントパネル内部の日付 (SERVICE DATE) よりも前の日付である場合、または日付フィールドのいずれかが入力されていない (-) 場合には、2 秒後にインストルメントパネルに 4 秒間、“WRONG” の文字と “DATE” の文字が交互に表示されます。4 秒後、インストルメントパネルは “DATE SETTING” 機能の最初に戻り、もう一度日付の変更または設定ができるようになります (図 70)。

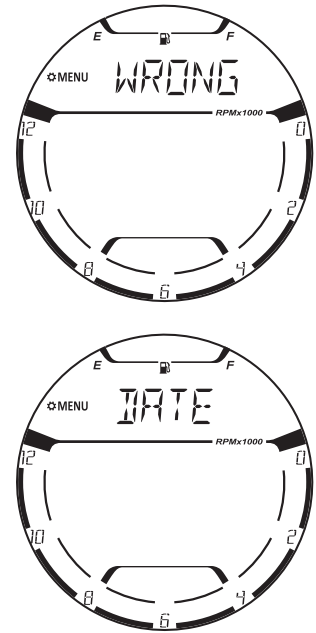


図 75

設定メニュー - サービス情報 (SERVICE INFO)

この機能は Desmo Service、Oil Service 期限までの走行距離 (キロまたはマイル) と Annual Service の期限日を表示します。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"SERVICE INFO" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、最初に表示される情報は “Desmo Service” です (図 77)。

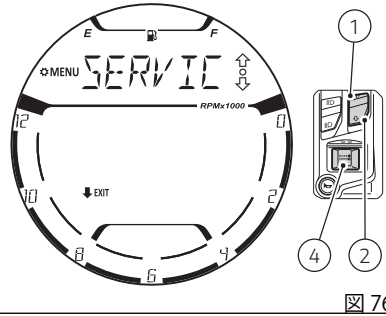


図 76

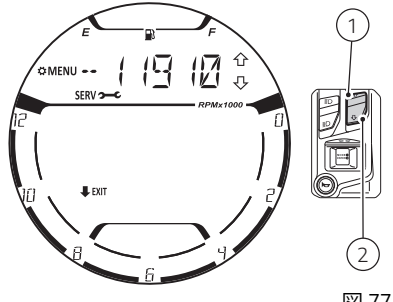


図 77

ボタン (1) またはボタン (2) を押すと、“Oil Service” 情報 (図 78)、“Annual Service” 情報 (図 79) の順で表示され、再び “Desmo Service” 情報 (図 77) の表示に戻ります。
機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

参考
最初の 1,000 km (600 mi) では、“OIL SERVICE” 画面には OIL SERVICE ZERO のカウントダウンが表示されます。オドメーターが 1,000 km (600 mi) を超えてもリセット (カウントダウンのリセット) しないと、OIL SERVICE ZERO がリセットされるまで “0” の表示が続きます。

参考
ANNUAL SERVICE 情報が利用できない場合は、点線 “ - -. - -. - - ” が表示されます。

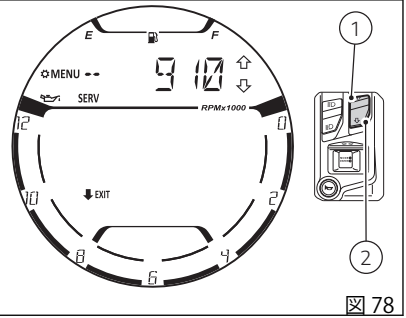


図 78

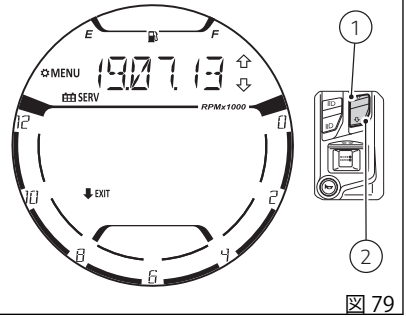


図 79

設定メニュー - バックライトの調整 (BACKLIGHT)

この機能ではバックライトの明るさを調整することができます。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"BACKLIGHT" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定値が点滅表示されます (図 81)。
ボタン (1) および (2) を使って選択できる設定を点滅、スクロールさせて選択することができます。選択できる設定は、“AUTO”、“HIGH”、“MEDIUM”、“LOW” です。
設定できる値をスクロールすると、バックライトの明るさも連動して変わります。
ボタン (4) を押して選択した値を決定します。
設定値に基づいてインストルメントパネルはバックライトの明るさを調整します。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

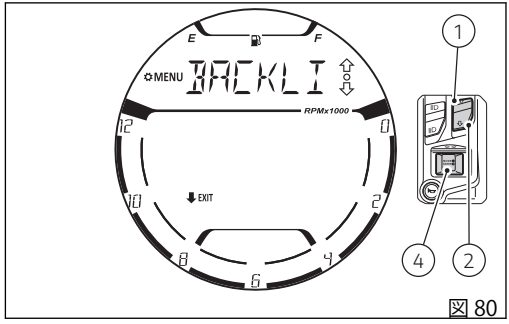


図 80

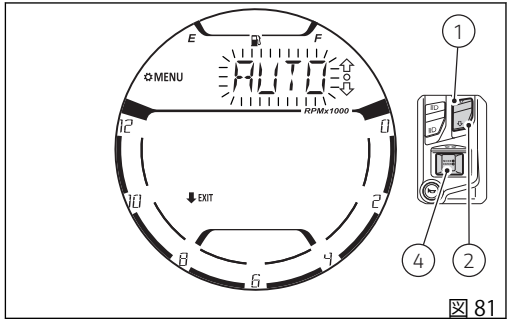


図 81

設定メニュー - DRL モード設定 ー アクセサリー (DRL CONTROL)

この機能は DRL 制御を自動モード (AUTO) または手動モード (MANUAL) に設定でき、DRL を装備している場合にのみ利用できます。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"DRL CONTROL" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定値が表示されます (図 83)。
ボタン (1) および (2) を使って選択できる設定を点滅、スクロールさせて選択することができます。選択できる設定は、“AUTO”、“MANUAL" です。
ボタン (4) を押して選択した値を決定します。

“AUTO” モードに設定すると、インストルメントパネルのメイン画面にマーク “ ⊞Ⓐ ” が表示されます。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

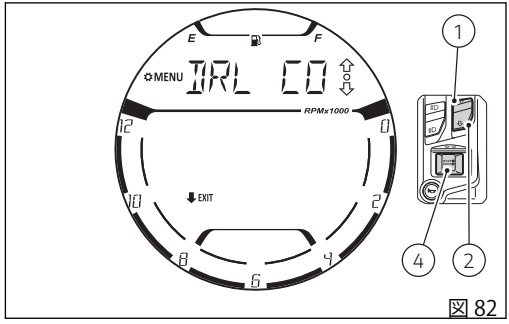


図 82

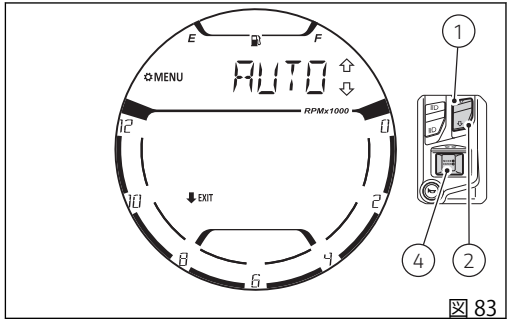


図 83

設定メニュー - バッテリー表示 (BATTERY)

この機能はバッテリー電圧インジケーターを表示します。

「SETTING MENU」（設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"BATTERY" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、バッテリー電圧 (図 85) が次のように表示されます。

- バッテリー電圧が 11.8〜14.9 V の場合、固定表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0〜11.7 V の場合、もしくは 15.0〜16.0 V の場合は点滅して表示されます。
- バッテリー電圧が 11.0 V を下回る場合は、インストルメントパネルに "LOW" の文字が点滅します。
- バッテリー電圧が 16.1 V 以上の場合、インストルメントパネルに "HIGH" の文字が点滅します。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

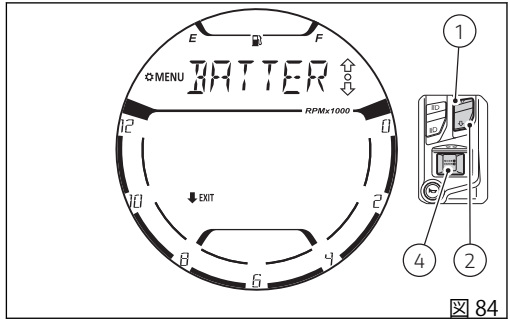


図 84

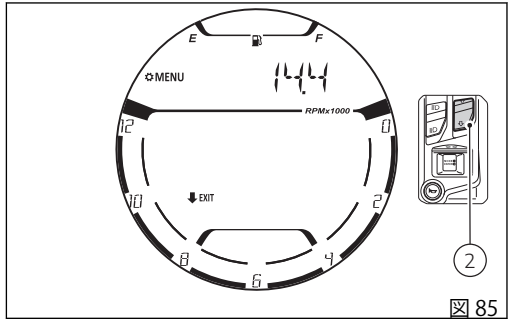


図 85

設定メニュー - 単位の設定 (UNITS SETTING)

この機能は表示単位を設定します。

- 速度 / 走行距離 (SPEED)
- 温度 (TEMP.)

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。
ボタン (1) と (2) を使用して、"UNITS SETTING" を選択します。
機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、最初の項目として速度 / 走行距離の “SPEED” が表示されます (図 87)。

ボタン (1) またはボタン (2) を押すたびに、“TEMP.” 設定 (図 90)、“DEFAULT” の文字枠 (図 92) を順に点滅表示し、その後 “SPEED” の文字の点滅表示に戻ります (図 87)。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

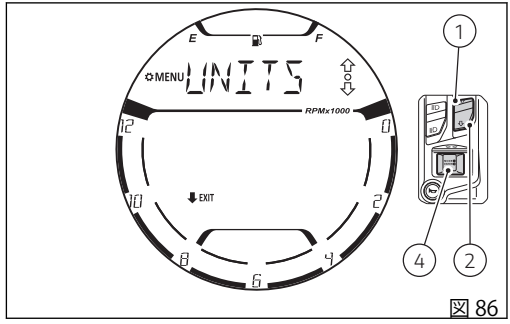


図 86

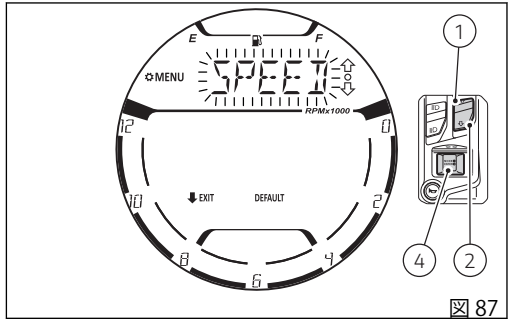


図 87

速度 / 走行距離 “SPEED”：

ボタン (1) および (2) で点滅している項目 “SPEED” (図 88) を選択し、ボタン (4) を押します。

ディスプレイには利用できる 2 種類の単位 “km/h” と “mph” が表示されます。この時点滅している単位が現在設定されている単位です (図 89)。
ボタン (2) を 2 秒間押すと手順を中止することができます。
あるいは、ボタン (1) と (2) を使用して、設定したい単位を点滅させて選択します。ボタン (4) を押して決定します。
その後、ディスプレイは “SPEED” の文字の点滅表示に戻ります (図 88)。

この項目の単位を変更すると、以下の機能の単位が変更されます。

- TOT、TRIP 1、TRIP 2、RANGE (キロ – マイル)
- 車両速度 (km/h – mph)

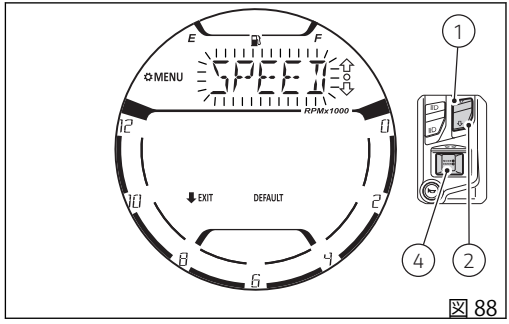


図 88

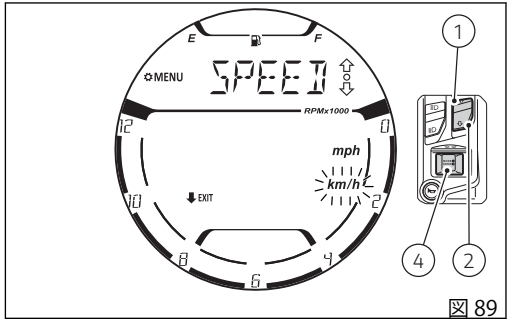


図 89

温度 “TEMP.”：

ボタン (1) およびボタン (2) で点滅している項目 “TEMP.” (図 90) を選択し、ボタン (4) を押します。

ディスプレイには利用できる 2 種類の単位 “C°” と “F°” が表示されます。この時点滅している単位が現在設定されている単位です (図 91)。
ボタン (2) を 2 秒間押すと手順を中止することができます。
あるいは、ボタン (1) と (2) を使用して、設定したい単位を点滅させて選択します。ボタン (4) を押して決定します。
次にディスプレイは “TEMP.” の文字の点滅表示に戻ります (図 90)。

この項目の単位を変更すると、以下の機能の単位が変更されます。

- T-AIR

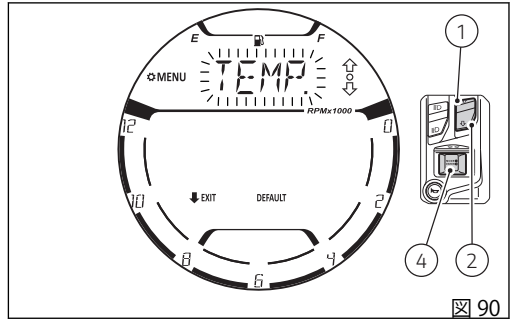


図 90

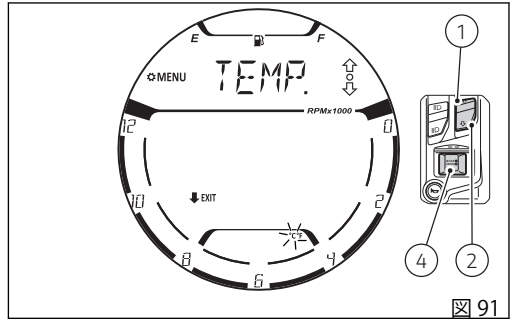


図 91

単位の DEFAUT (デフォルト設定) を回復：

インストルメントパネルに表示されるすべての測定単位のデフォルト設定を回復することができます。
ボタン (1) と (2) で "DEFAULT" (枠が点滅) (図 92) を選択し、ボタン (4) を押します。

ディスプレイに “WAIT..” が 2 秒間表示されます。次に、単位がデフォルト設定に回復されたことを示す "DF - OK" (図 93) がさらに 2 秒間表示されます。
その後、ディスプレイは “SPEED” の文字の点滅表示に戻ります (図 88)。

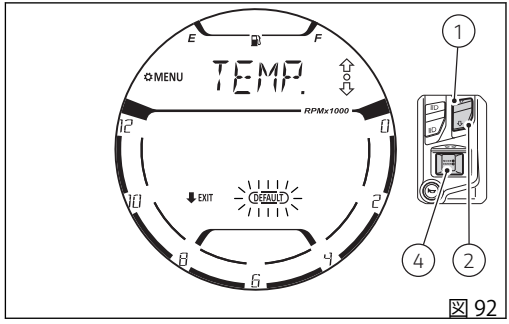


図 92

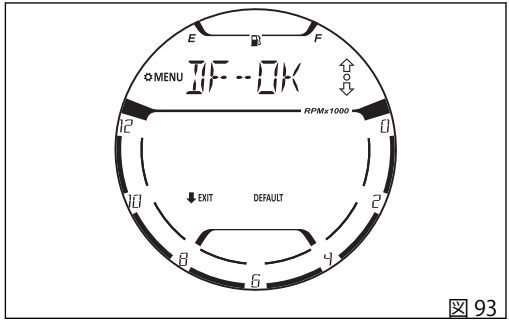


図 93

設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS)

この機能では、ターンインジケーターの自動解除ストラテジーを自動モード (AUTO)、または手動モード (MANUAL) に設定することができます。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。ボタン (1) と (2) を使用して、"TURN INDICATORS" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、現在の設定値が表示されます (図 95)。ボタン (1) および (2) を使って選択できる設定を点滅、スクロールさせて選択することができます。選択できる設定は、“AUTO”、“MANUAL" です。
ボタン (4) を押して選択した値を決定します。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

参考

保存した設定は Key-OFF / Key-ON 後も維持されます。ただし、バッテリー電圧が切れた場合 (Battery OFF) は、電圧回復後の Key-ON 時に “AUTO” モードに自動設定されます。

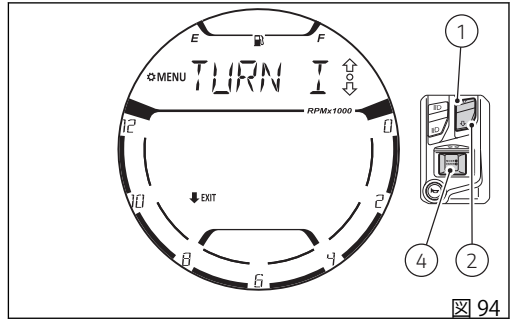


図 94

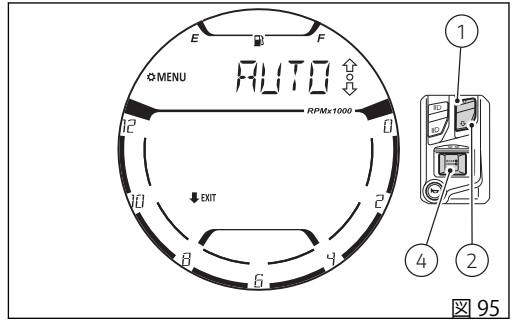


図 95

設定メニュー - エンジン回転数表示 (RPM)

この機能でエンジン回転数 (RPM) データをデジタル表示することができます。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。ボタン (1) と (2) を使用して、"RPM" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

機能に入ると、エンジン回転数 (rpm) データが 50 rpm 単位でデジタル表示されます (図 97)。データ範囲は 0 ～11000 rpm です。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

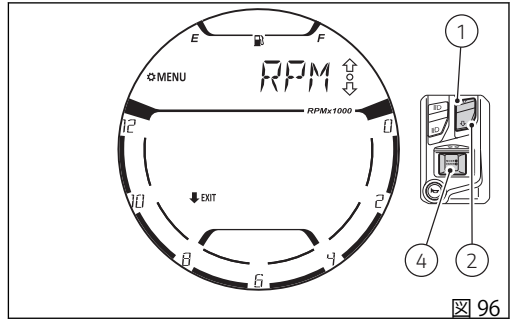


図 96

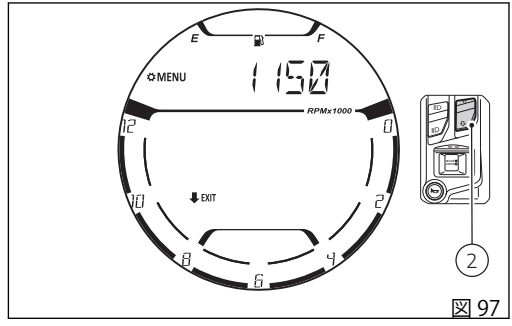


図 97

参考

エラーが発生した場合は、5 本の破線 "-" が点灯します。

設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 ー アクセサリー (BLUETOOTH)

この機能はペアリングデバイスを管理し、デバイスの表示、新規デバイスの追加、ペアリング済みデバイスの削除を行います。Bluetooth モジュールが搭載されている場合のみ利用することができます。

「SETTING MENU」 (設定メニュー) に入ります。ボタン (1) と (2) を使用して、"BLUETOOTH" を選択します。機能が強調表示されたら、ボタン (4) を押します。

ペアリングされたデバイスが存在しない場合、機能に入ると “NO DEV” の文字が表示され、ギア表示の代わりに “0” が表示されます (図 99)。
その場合はボタン (1) またはボタン (2) を押すと、“PAIRING” が選択 (枠が点滅) されます 。
この時点でボタン (4) を押すと、新規デバイスのペアリングに進みます。

機能を終了するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

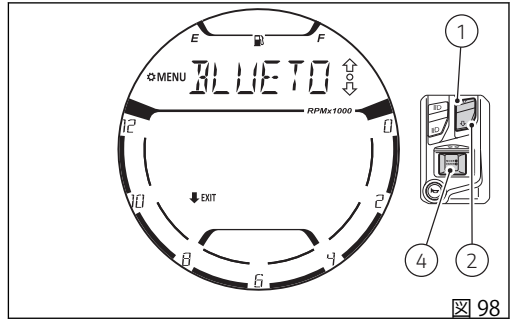


図 98

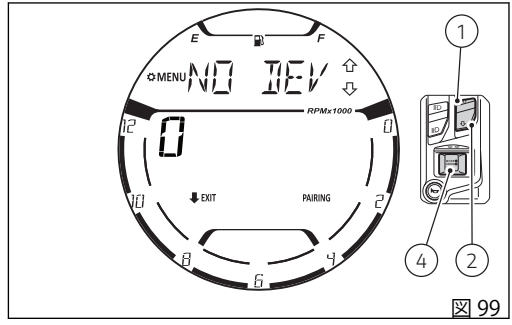


図 99

すでにペアリングしたデバイスが存在する場合は、機能に入ると1番目のペアリングデバイス名(スクロール表示)とデバイスの種類を示すマークが表示されます。また、ギア表示の代わりにペアリング済みデバイス数が表示されます。

参考
完全なデバイス名が最初にスクロールで表示され、その後デバイス名の最初の6文字が表示されます。

以下の通り、デバイスは最大5台までペアリングすることができます。

- スマートフォン　2台
- ライダーヘルメット / インターコム　1台
- パッセンジャーヘルメット / インターコム　1台
- 衛星ナビゲーター　1台

ボタン(1)またはボタン(2)を押して、ペアリングデバイスリストをスクロールし、“PAIRING”を選択(枠が点滅)します。

機能を終了するには、ボタン(2)を2秒間押します。

この時点で目的のデバイスをリストに表示している時にボタン(4)を押すと、リストからそのデバイスが削除されます。

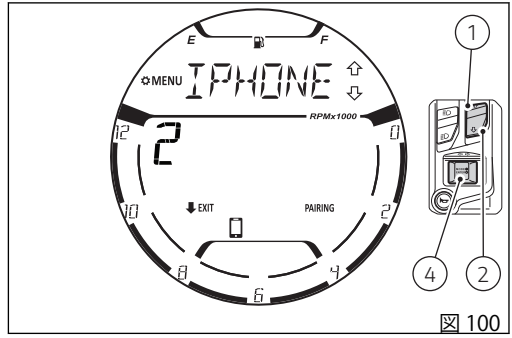


図 100

あるいは、“PAIRING”を選択(枠が点滅)している時にボタン(4)を押すと、新規デバイスのペアリングを行います。

新しいデバイスのペアリング (PAIRING)

新しく Bluetooth デバイスをペアリングするには、まず SETTING MENU に入ります。ボタン (1) またはボタン (2) で "BLUETOOTH" を表示し、ボタン (4) を押します。
機能に入ると、ボタン (1) とボタン (2) で "PAIRING" を選択 (枠が点滅) し、ボタン (4) を押します (図 101)。

重要

インストルメントパネルとペアリングする Bluetooth デバイスの Bluetooth 機能が有効になっていること、デバイスがネットワークから検出可能になっていることを確認してください。詳しくはデバイス本体の取扱説明書をご覧ください。

続いて、インストルメントパネルは車両周辺に存在する Bluetooth デバイスの検索を開始します。検索中は “WAIT..” の文字が表示され、2 本の破線 “ – – “ が点滅します。 (図 102)
検索には数秒かかります。

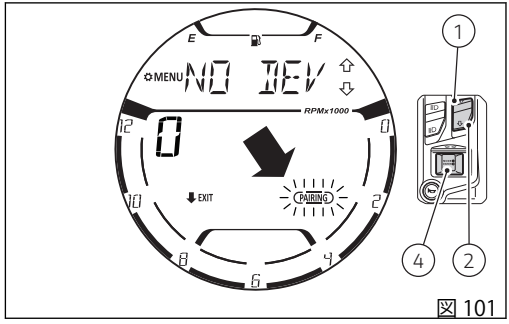


図 101

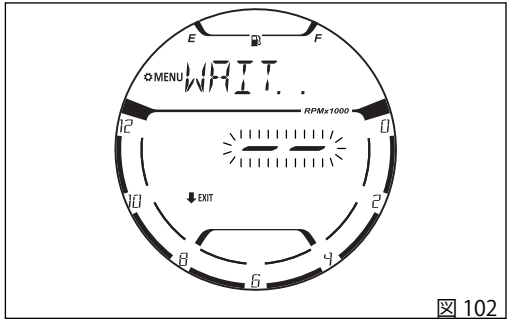


図 102

検索が終了すると、1 番目に検索された Bluetooth デバイス名と検索されたデバイス総数 (図例では “3”) がインストルメントパネルに表示されます (図 103)。

ボタン (1) とボタン (2) を使用して、検索されたデバイスのリストをスクロールすることができます。リストから選択したデバイスのペアリングとデバイスの種類の選択に進むには、ボタン (4) を押します。

ディスプレイにはリストから選択したデバイス名が表示されたまま、スマートフォンマーク “ ” (図 104) が点滅します。ボタン (1) とボタン (2) を使用して、デバイスの種類のマークを以下の順にスクロールすることができます。

- スマートフォン
- ライダーヘルメット / インターコム
- パッセンジャーヘルメット / インターコム
- 衛星ナビゲーター

ボタン (4) を押して、選択したデバイスの種類を決定します。

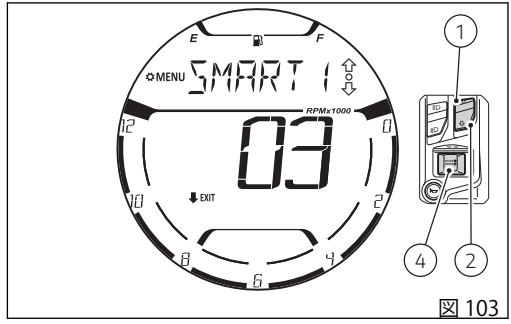


図 103

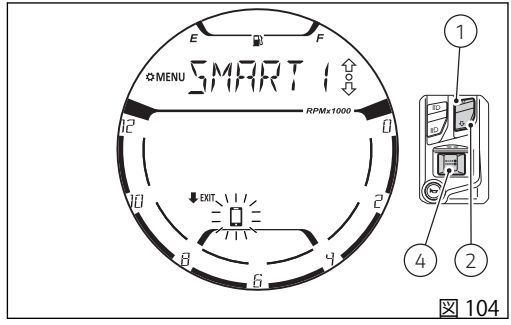


図 104

続いて、ディスプレイに “WAIT..” の文字が 3 秒間表示されます。
インストルメントパネルとのペアリングを正常に完了するには、この段階で Bluetooth ペアリング要求をデバイス側で確定する必要があります。

デバイスのペアリングが終了すると、Bluetooth 機能の入口画面に戻り、ペアリングデバイス数とリストが更新されます。

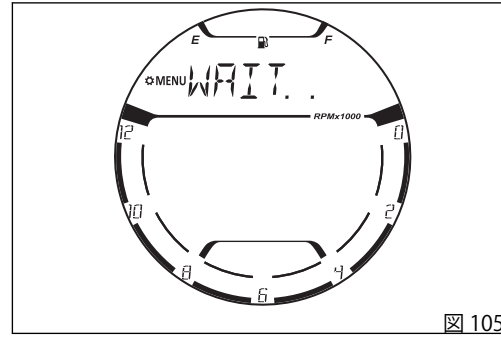


図 105

参考
新規デバイスのペアリング (PAIRING) 段階には時間制限があります。制限時間内にペアリングが実行されない場合やペアリングが確定されない場合、ペアリングは正常に完了しません。

参考
新規デバイスのペアリング (PAIRING) 中に “EXIT” の表示とその前に下向きの黒色矢印が表示される時は、いつでもボタン (2) を 2 秒間押して機能を終了し、設定メニューのメインページに戻ることができます。

ペアリングデバイスの削除

Bluetooth デバイスを削除するには、まず SETTING MENU に入ります。ボタン (1) またはボタン (2) で "BLUETOOTH" を表示し、ボタン (4) を押します。機能 (図 98) に入ると、ボタン (1) とボタン (2) を使用して削除したいデバイスをリストから選択します。削除に進むには、ボタン (4) を押します。

続いて、ディスプレイに “DELETE” の文字が表示されます (図 106)。

参考

削除を中止するには、ボタン (2) を 2 秒間押します。

削除するには、ボタン (4) を押します。ディスプレイに “WAIT..” の文字が表示されます。 (図 107) その後、Bluetooth 機能の入口に戻り、ペアリングデバイス数とリストが更新されます。

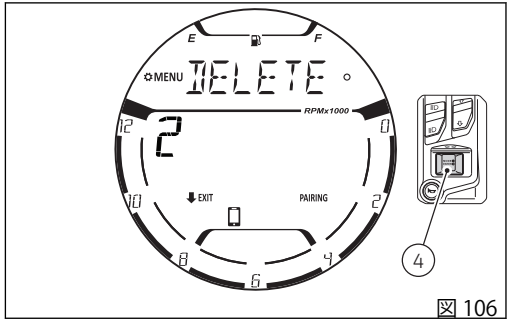


図 106

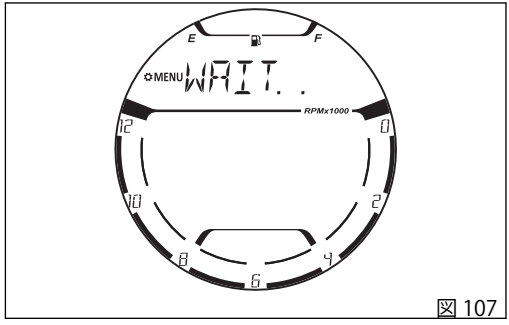


図 107

インフォテインメント ー アクセサリー

Bluetooth コントロールユニットを搭載している場合は、インストルメントパネルに Bluetooth マーク が表示されます。
インストルメントパネルに搭載されているインフォテインメントシステムでは、Bluetooth 接続された種類の異なるデバイスを最大 4 台まで同時に管理することができます。

- スマートフォン　1 台
- ライダーヘルメット インターコム　1 台
- パッセンジャーヘルメット インターコム　1 台
- 衛星ナビゲーター　1 台

Bluetooth デバイスのペアリングまたは削除については、“設定メニュー - Bluetooth デバイス設定 (BLUETOOTH)” (ページ 96) の章を参照してください。
インストルメントパネルにスマートフォンを Bluetooth 接続している場合は、音楽プレーヤー (PLAYER、ページ 51) と通話履歴 (CALLS、ページ 58) の操作が可能です。
次のような場合にインストルメントパネルがどのように作動するかを以下に示します。

- 着信

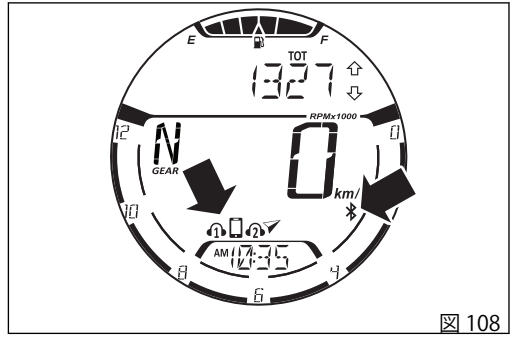


図 108

- 通話中
- 直前の電話番号にリダイヤル (RECALL)
- 不在着信
- 受信したメッセージ / E メール

インフォテインメント – 着信

スマートフォンをインストルメントパネルに Bluetooth 接続している時に着信があると、ディスプレイには次のように表示されます。

- 発信元の名前 / 電話番号 (A)
- 矢印 ⇧ の上に “YES” の文字 (B)
- 矢印 ⇩ の下に “YES” の文字 (C)
- 着信マークの点滅 (D)

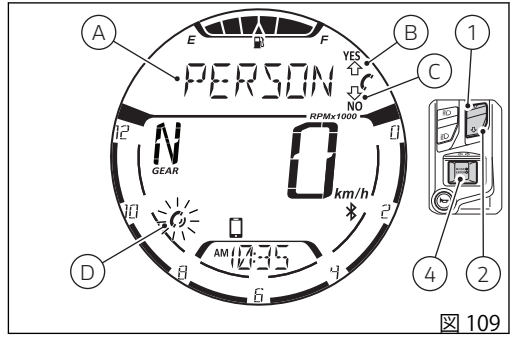


図 109

ボタン (1) とボタン (2) を使って、着信に応答するか着信を拒否することができます。具体的には：

- 着信を受けるには、ボタン (1) を押します。
- 着信を拒否するには、ボタン (2) を押します。

参考

着信中は、ボタン (1) とボタン (2) を押しても機能のブラウズ操作にはならず、着信の応答・拒否を行います。

インフォテインメント – 通話中

CALLS 機能 (ページ 58) を使って着信に応答するか発信すると、インストルメントパネルには次のように表示されます。

- 発信元または発信先の名前 / 電話番号 (A)
- 丸印 O と通話終了マーク (B)
- 着信マーク (C)

通話を終了するには、ボタン (4) を押します。

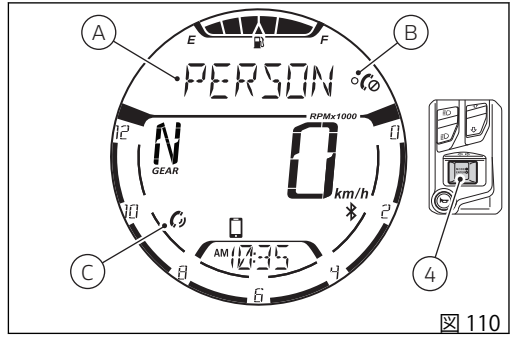


図 110

参考
スマートフォンの他にライダーヘルメットインターコムが接続されている場合は、通話中の会話はヘルメットのイヤホンとマイクを通して再生されます。

インフォテインメント – 直前の電話番号にリダイヤル (RECALL)

通話を終了した場合、または不在着信、着信拒否した場合は、インストルメントパネルは RECALL 機能を 5 秒間有効にし、直前の電話番号にリダイヤルすることができます。

インストルメントパネルの表示：

- "RECALL" の文字 (A)
- 矢印 ⇧ の上に “YES” の文字 (B)

直前の電話番号にリダイヤルするには、ボタン (1) を押します。

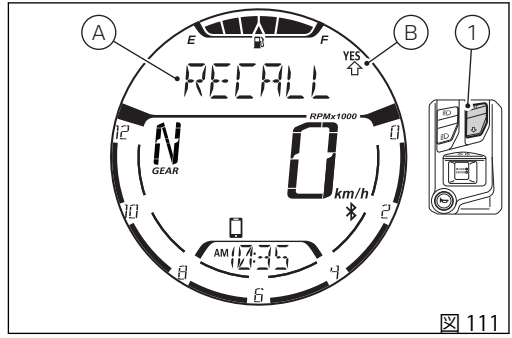


図 111

インフォテインメント – 不在着信

不在着信があると、インストルメントパネルにマーク(A) が 60 秒間表示されます。マークは最初の 3 秒間点滅します。

参考

不在着信の相手番号は表示されません。

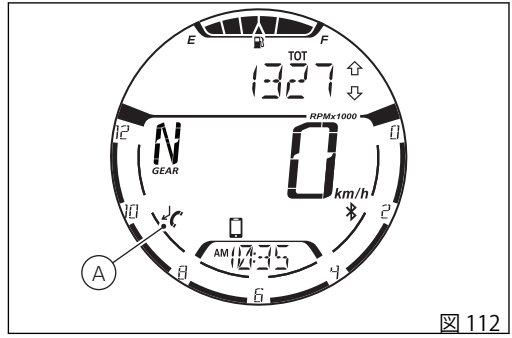


図 112

インフォテインメント – 受信したメッセージ / E メール

メッセージや E メールを受信すると、インストルメントパネルはマーク (A) を 60 秒間表示して知らせます。マークは最初の 3 秒間は点滅します。

参考
メッセージの相手先番号や E メールアドレスは表示されません。

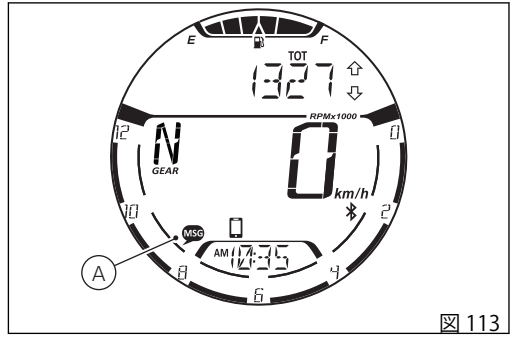


図 113

メンテナンス表示 (SERVICE)

この表示は、Ducati 正規サービスセンターで車両のメンテナンス (定期点検) を実施する必要があることをユーザーに通知します。
メンテナンス表示のリセットは、メンテナンスを行う Ducati 正規サービスセンターでのみ行うことができます。
メンテナンス間隔の種類は図中に示す領域に表示されます。メンテナンスの種類には以下のものがあります。

- OIL SERVICE zero
- ANNUAL SERVICE countdown30
- ANNUAL SERVICE
- DESMO SERVICE countdown1000
- DESMO SERVICE

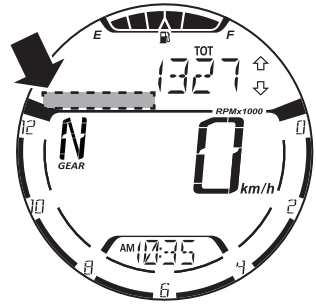


図 114

OIL SERVICE ゼロの表示

OIL SERVICE ゼロのメンテナンス表示は、オドメーターが最初の 1,000 km (600 miles) に達すると起動します。

“SERV” 表示とオイルマーク、“OIL” の文字が、Key-ON する度に 5 秒間点滅して表示されます (図 115)。
その後、"SERV" の文字とオイルマークは、Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯を続けます (図 116)。

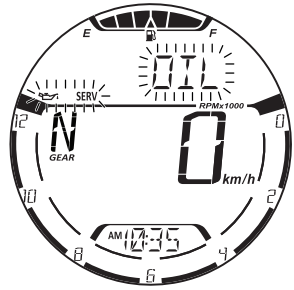


図 115

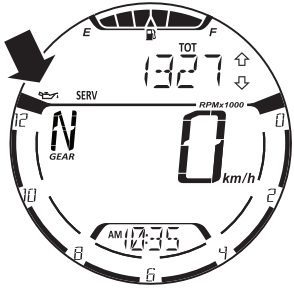


図 116

ANNUAL SERVICE カウントダウン 30 表示

ANNUAL SERVICE countdown30 のメンテナンス表示は、ANNUAL SERVICE の実施まで残り 30 日になると起動します。

残り 30 日に達すると、“SERV” の表示と ANNUAL SERVICE マーク、点線“-”に続いて残りの日数と“DAY”の文字が、Key-ON する度に 5 秒間点滅して表示されます。

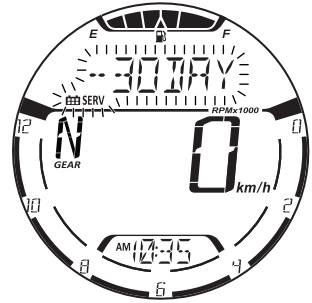


図 117

ANNUAL SERVICE 表示

ANNUAL SERVICE メンテナンス表示は、起動日に達すると表示されます。

“SERV” 表示と ANNUAL SERVICE マーク、“ANNUAL” の文字が、Key-ON する度に 5 秒間点滅して表示されます (図 118)。
その後、"SERV" の文字と ANNUAL SERVICE マークは、Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯を続けます (図119)。

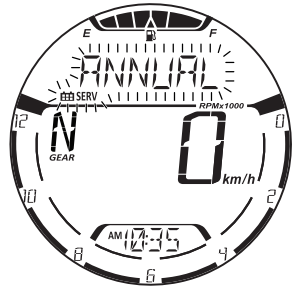


図 118

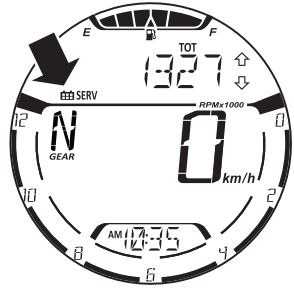


図 119

DESMO SERVICE カウントダウン 1000 表示

DESMO SERVICE countdown1000 のメンテナンス表示は、DESMO SERVICE の実施まで残り 1,000 km (600 miles) になると起動します。

残り 1,000 km (600 miles) に達すると、“SERV” の表示と DESMO SERVICE マーク、点線 “-” に続いて残りの走行距離 (キロまたはマイル) が、Key-ON する度に 5 秒間点滅して表示されます。

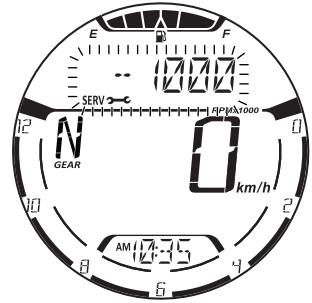


図 120

DESMO SERVICE 表示

DESMO SERVICE メンテナンス表示は、起動設定値に達すると表示されます。

“SERV” 表示と DESMO SERVICE マーク、“DESMO” の文字が、Key-ON する度に 5 秒間点滅して表示されます (図 121)。
その後、"SERV" の文字と DESMO SERVICE マークは、Key-OFF するまで、もしくは Ducati 正規サービスセンターでリセットされるまで点灯を続けます (図122)。

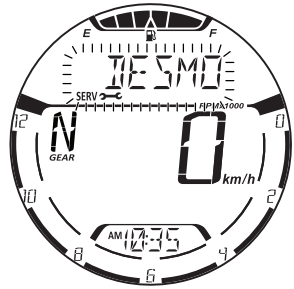


図 121

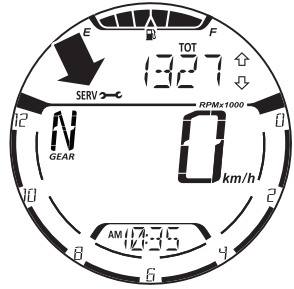


図 122

注意 / 警告

車両の使用中にユーザーに有用な情報を提供するため、インストルメントパネルは一連の注意と警告を管理します。

Key-ON 時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに存在する注意または警告が表示されます。

車両の通常作動時に警告が検知されると、インストルメントパネルのディスプレイに存在する注意または警告が自動的に表示されます。

バッテリーレベル LOW (LOW BATTERY) インジケーター

この機能は車両のバッテリー充電レベルが低下していることを通知します。
バッテリー電圧が 11.0 V 以下になると表示されます。

参考
この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

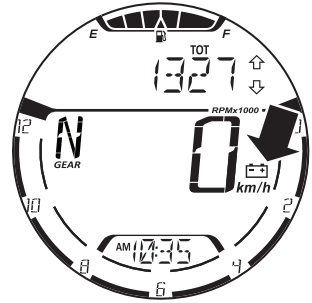


図 123

日付の入力

この注意が表示された場合、設定メニューから日付を入力する必要があることを示します。詳しくは “設定メニュー - 日付の設定 (DATE SETTING)” (ページ 79) を参照してください。
インストルメントパネルは Key-ON 時に "INSERT" (A) と "DATE" (B) の文字を交互に 6 秒間表示します。

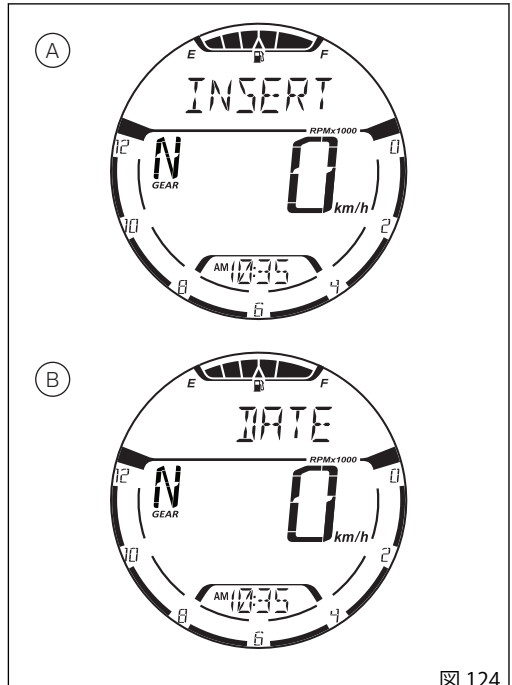


図 124

エンジンの過熱

この機能はエンジン温度の過熱を警告します。

エンジン温度が200° Cを上回ると警告が作動します。時計表示の代わりに“HI”の文字が点滅表示され、温度単位、温度計マークも表示されます。

参考

この警告が作動すると、エンジン温度データが200° C以下に戻るまでインストルメントパネルに時計は表示されません。

参考

エンジン温度センサーにエラーが発生している場合、またはインストルメントパネルがエンジン温度データを受信できない場合は、点線 "- - -" が点滅表示されます。

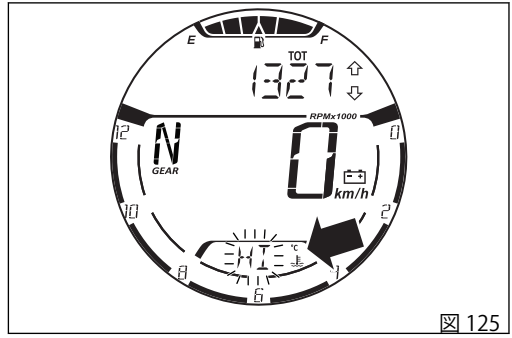


図 125

オイル過熱時のエンジン制限

この機能は、エンジンオイル温度が過熱しているため「エンジン制限」状態に入ったことを通知します。

通知には以下の 2 種類があります。

- エンジン制限ストラテジーが介入しようとしていることを示す事前警告
- オイル温度の過熱により車両が制限状態にあることを示す警告

事前警告 (図 126)

この場合、インスツルメントパネルは次のように表示します。

- “T-OIL” の文字
- "HI" の文字が点滅
- 温度計マークと設定単位
- 一般的エラー警告灯
- “Over-Rev” (ランプ 10、図 4) の点灯(図 4)

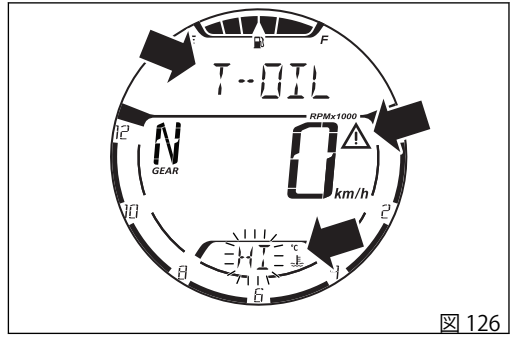


図 126

アラーム (図 127)

この場合、インスツルメントパネルは次のように表示します。

- “T-OIL” の文字が点滅
- "HI" の文字が点滅
- 温度計マークと設定単位
- 一般的エラー警告灯が点滅
- “Over-Rev” (ランプ 10、図 4) が点滅(図 4)

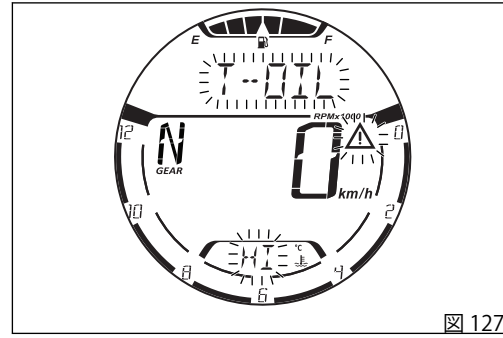


図 127

参考

事前警告または警告が発生している時でも、メニューの機能をスクロールすることはできますが (例えばオドメーターを表示など)、事前警告または警告が起動している間は “T-OIL” の表示に戻ります。

参考

事前警告または警告が起動しており、リミッター機能も作動している場合は、Over-Rev 機能が優先されます。

DRL AUTO / MANUAL 表示ーアクセサリー

この機能は DRL を搭載している場合にのみ利用でき、DRL が “AUTO” (自動制御) または “MANUAL” (手動制御) のいずれに設定されているかを示します。

設定メニューから DRL 制御モードを変更することができます。詳しくは “設定メニュー - DRL モード設定 - 装備している場合 (DRL CONTROL)” (ページ 88) を参照してください。
DRL が “AUTO” モードに設定されている場合に限り、インストルメントパネルにマーク (A) が表示されます。

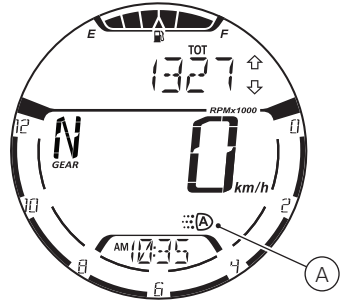


図 128

サイドスタンドの状態表示

この機能はサイドスタンドの状態を表示します。
サイドスタンドが降りている / 開いている時は、インストルメントパネルにマーク (A) が表示されます。

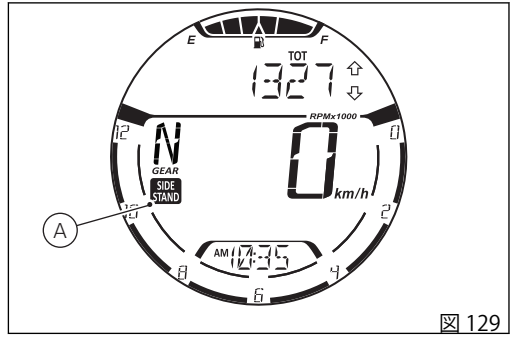


図 129

エラー

インストルメントパネルは車両の不具合をリアルタイムに識別するためにエラー信号を管理します。

車両の Key-ON 時にエラーが検知された場合、インストルメントパネルのディスプレイに MIL ランプ (A) (エンジンコントロールユニットに直接関連するエラー) もしくは一般的エラー警告灯 (B) (その他エラー全般) が点灯します。

車両の通常作動時にエラーが検知されると、インストルメントパネルには MIL ランプ (A) もしくは一般的エラー警告灯 (B) が点灯します。

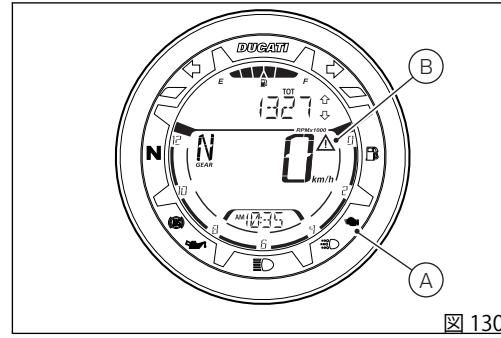


図 130

警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ライトコントロール

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 非搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプのみが点灯します。
エンジンの始動後、ロービームランプが自動的に点灯します。ボタン (7) のポジション (B) とポジション (A) を切り替えて、ロービームランプとハイビームランプを切り替えることができます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3) を押すとライトをフラッシュします。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプが点灯している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

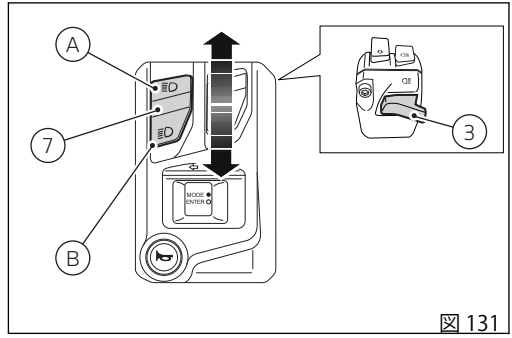


図 131

ロービーム / ハイビームランプ (DRL 搭載バージョン)

Key-ON 時、ロービームランプおよびハイビームランプは消灯 (OFF) したままパーキングランプおよび DRL のみが点灯します。
エンジンを始動した時、AUTO モードに設定されており、インストルメントパネルが外光の弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は、ロービームランプが自動的に点灯します。一方、外光の強い状況 (DAY) を検出した場合には、DRL が点灯を続け、ロービームランプは消灯したままになります。
ロービーム / ハイビームランプを手動で起動してから 60 秒以内にエンジンを始動しないと、ランプは再び消灯 (OFF) します。

ボタン (5) を使用して、DRL とロービームランプの切り替えが可能です。

ロービームランプが点灯した場合、ボタン (7、図 131) のポジション (A) でハイビームランプも点灯するか、ボタン (3、図 131) でライトをフラッシュすることができます。
Key-ON した後にエンジンを始動しない場合でも、左側スイッチのボタン (7、図 131) をポジション (B) と (A) に押してロービーム / ハイビームランプを起動できます。ボタン (3、図 131) を押すとライトをフラッシュします。

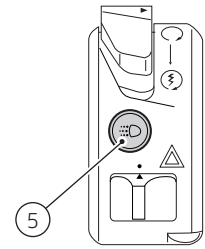


図 132

車両のバッテリー充電状態を維持するため、ハイビームランプ、ロービームランプ、DRL のいずれかが点灯 (ON) している場合にはエンジン始動時にヘッドライトは自動的に消灯します。エンジンが完全に始動した時点で再び点灯します。

DRL (デイタイムランニングライト) — DRL 搭載バージョンのみ

左側スイッチにあるボタン (5) を使用すと、DRL が “MANUAL” に設定されて消灯します。もう一度ボタン (5) を押すと、DRL が点灯して “AUTO” に設定されます。DRL が “AUTO” に設定されている時は、ディスプレイにマーク (A、図 134) が表示されます。
(図 134)

ボタン (5) を押して DRL を “MANUAL” に設定しても、次の Key-ON 時には常に “AUTO” に自動設定されます。一方、設定メニューから “AUTO” または “MANUAL” を設定した場合は、Key-OFF 時も含めて常にその設定が記憶され維持されます。次の Key-ON 時に DRL 制御が直前の設定 (“AUTO” または “MANUAL”) に初期化されます。詳しくは “設定メニュー - DRL モード設定 - 装備している場合 (DRL CONTROL)” (ページ 88) を参照してください。

ボタン (7、図 131) を押すと、ハイビームランプまたはロービームランプが点灯し、DRL が消灯します。ランプボタン (7、図 131) を離すと、DRL が再び自動的に点灯します。

DRL AUTO モード

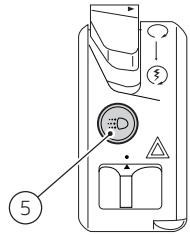


図 133

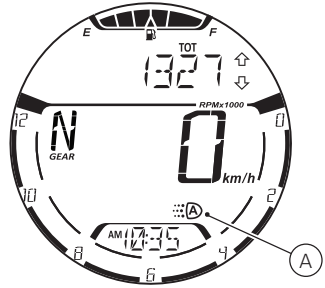


図 134

DRL がこのモードにある時、エンジン始動時にインストルメントパネルが外光が弱い状況 (NIGHT) を検出した場合は DRL が自動的に消灯し、ロービームランプが点灯します。一方、インストルメントパネルが外光の強い状況 (DAY) を検出した場合は、DRL が点灯し続け、ロービームランプが消灯したままになります。このモードでは、インストルメントパネルが検出した外光の明るさに応じて、DRL とロービームを自動的に切り替えます。ディスプレイにはマーク (A、図 134) が表示されます。

警告

外光の弱い状況下、特に霧や曇りの時に DRL を AUTO (自動) モードで使用すると、非常に危険な場合があります。このような場合には、ロービームランプを自動で点灯するようにしてください。

DRL MANUAL モード

設定メニューから DRL をこのモードに設定している時は ページ 88、エンジンを始動しても DRL ステータスは変更されません。DRL を停止 / 点灯するにはボタン (5) を押してください。

警告

外光の特に弱い状況下 (暗闇) で DRL を使用すると、運転中の視界を損なう危険だけでなく、対向車のドライバーの目をくらませるおそれがあります。

参考

日中であれば対向車のドライバーはロービームランプに比べて DRL の方が知覚しやすいため、DRL の日中の使用は視認性を高めます。

ターンインジケーター

インストルメントパネルは、設定メニューからの設定に基づいてターンインジケーターを手動モードまたは自動モードで制御します。詳しくは “設定メニュー - ターンインジケーターのモード設定 (TURN INDICATORS)” (ページ 94) を参照してください。

手動解除：

2 つのうちどちらかのターンインジケーターを起動した後、ボタン (4) で解除することができます。

自動解除：

自動解除：
車両速度、リーンアングル、車両の動的制御の分析から右左折の動作の終了を感知して、ターンインジケーターが自動的に消灯します。

ターンインジケーターの作動中、ターンインジケーターを作動させようとしてターンインジケーターボタンを再び押すと、自動解除機能は再度初期化されます。

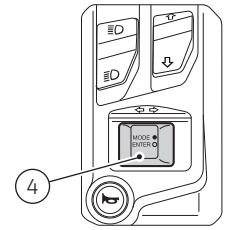


図 135

警告
自動解除システムは、ライダーがターンインジケーターをより快適に操作できるように助ける、ライダー支援システムです。こうしたシステムは、ほとんどの運転において動作するように開発されていますが、ライダー自身がターンインジケーターの動作に注意を払わなくてよくなる機能ではありません (必要に応じて手動で作動/停止)。

ハザード機能 (ターンインジケーターすべて点滅)

ハザード機能は、非常事態を知らせるために 4 つのターンインジケーターすべてを同時に起動します。
ボタン (6) を押してこの機能を起動します。
ハザード機能の作動中は、4 つのターンインジケーターおよびインストルメントパネルの該当するランプ (ランプ 7、図 4) が同時に同期点滅します。

Key-ON 時にハザード機能を起動すると、Key-OFF しても作動を続けます。
Key-OFF 状態でハザード機能が作動している場合、自動的に消灯するのは 120 分後です。
Key-OFF 状態の時にハザード機能を起動することはできません。

参考
"ハザード" 機能の作動中に車両を Key-ON した場合、ハザード機能は作動し続けます (ただし、インストルメントパネルの初期点検中にハザード機能が一時的に中断される場合があります)。

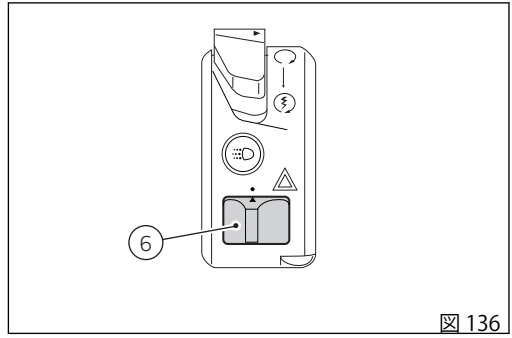


図 136

参考
パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。

参考
"ハザード" 機能は、ターンインジケーターの通常機能より優先されます。そのため、"ハザード" 機能が作動している場合は左右インジケーターを個別に起動することはできません。

イモビライザーシステム

盗難防止機能を高めるため、車両にはエンジンをブロックする電子システム (イモビライザー) が装備されており、インストルメントパネルを消す度に自動的に起動します。
各キーには電子装置が内蔵されており、スイッチ内に組み込まれた特殊アンテナが起動時に発する信号を変調します。
変調された信号は起動毎に異なる "パスワード" から構成され、これによりコントロールユニットはキーを識別します。正常に識別された場合のみエンジンを始動させることができます。

キー

車両には 2 個のキーが付属しています。
キーには "イモビライザーシステムの暗号" が含まれています。
キー (B) は通常時に使用し、以下の操作に必要です。

- 起動
- フィラープラグの開閉
- シートロックの解除

警告

キーは別々に保管し、車両を使用する際は 2 本のキーのどちらか一方を使用してください。

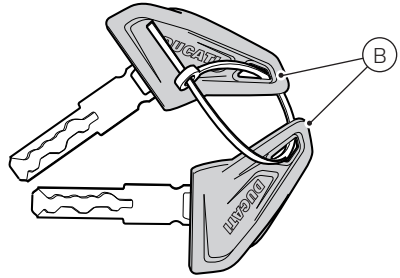


図 137

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、Ducati アシスタンスネットワークにご連絡ください。その際、お手持ちのすべてのキーをお持ちいただく必要があります。
Ducati アシスタンスネットワークでは新しいキーとお手持ちのキーすべての登録を行います。
Ducati アシスタンスネットワークではお客様に車両の所有者確認をさせていただく場合があります。
登録作業中に提示されなかったキーの暗号はメモリーから削除されます。これは、紛失したキーでエンジンを始動できなくするためです。

参考

車両の所有者を変更した場合は、必ず新規所有者にすべてのキーを譲渡してください。

PIN CODE による車両の解除

キー認識システムの不具合、またはキーの不具合の場合、設定メニューから PIN CODE を登録していれば、車両ロックの一時解除のため PIN CODE の入力ができるようになります。

重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

PIN CODE の登録については、“設定メニュー - PIN コード：登録 (PIN CODE)” (ページ 66) を参照してください。

PIN CODE 機能が有効な場合は、インストルメントパネルはロック解除のコードを入力できるようにします。すなわち、“P:” の表示と 4 本の破線 “- - - -” (1 桁目の破線が点滅) が現れます。

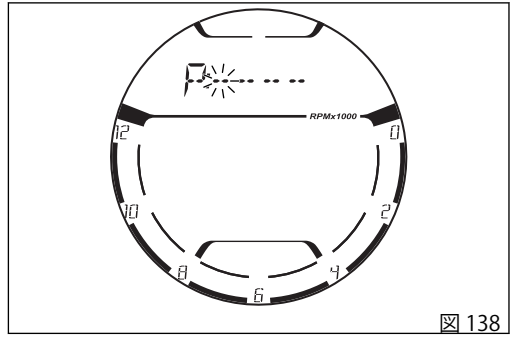


図 138

PIN CODE の入力

ボタン (1) またはボタン (2) を押して PIN CODE 機能に入ると、左側の “0” (入力する 1 桁目) が点滅します (図 139)。
あるいは、PIN CODE を入力せずにボタン (4) を押すと、表示を終了してメイン画面に戻ります。想定されたエラー通知が表示され、エンジンのロック状態は解除されません。

数字を設定するには、ボタン (1) を押す度に数字が "9" までひとつずつ大きくなり、その後 "0" に戻ります。反対に、ボタン (2) を押す度に数字が "0" までひとつずつ小さくなり、その後 "9" に戻ります。
ボタン (4) を押して 1 桁目の数字を確定すると、自動的に次の桁の設定に移ります。同じ手順で 4 桁目まで設定します (図 140)。

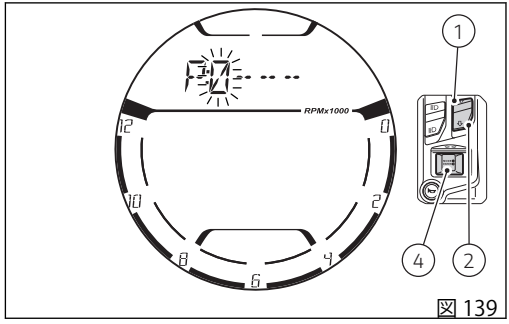


図 139

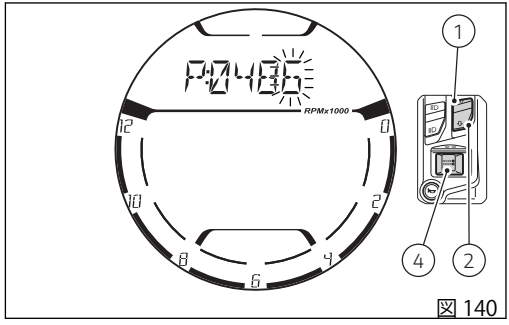


図 140

4桁全ての数字を設定してボタン(4)を押すと(図140)、インストルメントパネルは入力されたPIN CODEが保存されているPIN CODEと一致するか照合します。PIN CODEが一致しない場合は、"WRONG"の文字がディスプレイに3秒間点滅表示されます(図141)。

PIN CODEが一致した場合は、"OK"の文字がディスプレイに3秒間点滅表示されます(図142)。

3秒後にインストルメントパネルはメイン画面に戻り、次にKey-OFF / Key-ONするまでエンジンの始動ができるようになります。

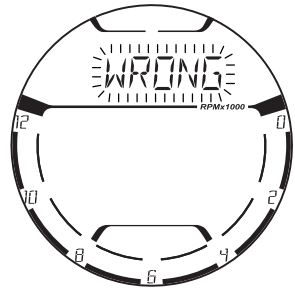


図 141

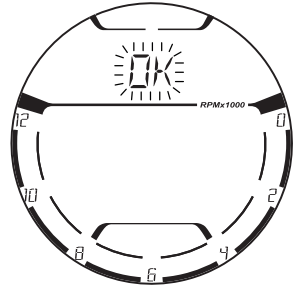


図 142

PIN CODE の入力可能時間は 120 秒に設定されています。この時間内にコードを入力してください。
入力可能時間を過ぎると、インストルメントパネルは “TIME”、“OUT” の文字を 3 秒間点滅させます。
3 秒後にインストルメントパネルはメイン画面に戻り、エンジンのロック状態は解除されません。

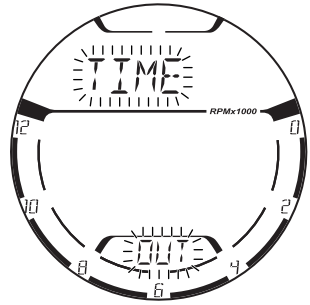


図 143

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置

警告
この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

1) インストルメントパネル
2) イグニッションスイッチ / ステアリングロック
3) 左側スイッチ
4) クラッチレバー
5) リアブレーキペダル
6) 右側スイッチ
7) スロットルグリップ
8) フロントブレーキレバー
9) ギアチェンジペダル

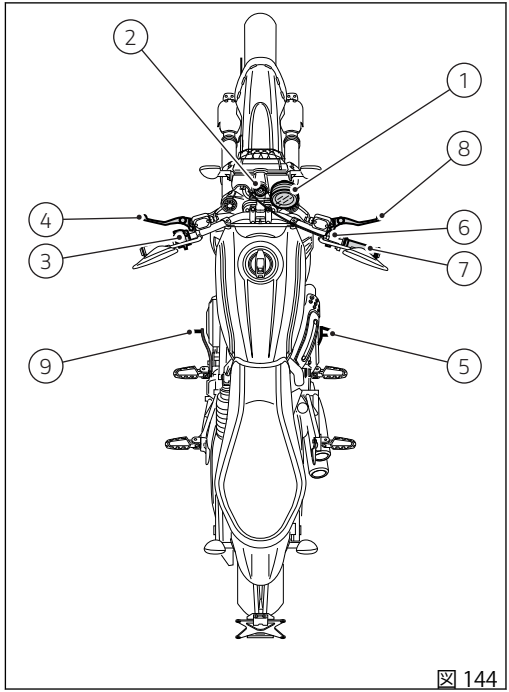


図 144

イグニッションスイッチ / ステアリングロック

燃料タンクの前にあり、4 つのポジションがあります。

A) ∩ ：エンジンおよびランプを ON にする
B) ⊗ ：エンジンおよびランプを OFF にする
C) 🔒 ：ステアリングロック状態
D) P⊂ ：パーキングランプおよびステアリングロック

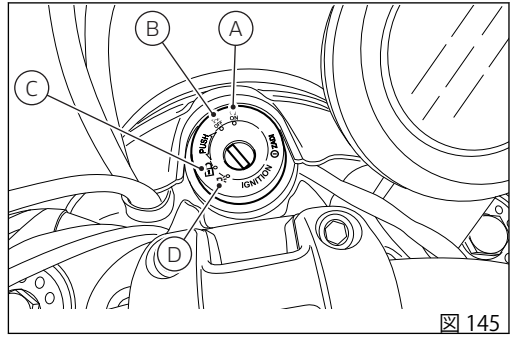


図 145

参考

キーを上記の下二つの位置に合わせるに は、キーを押してから回してください。(B)、(C)、(D) の位置でキーを引き抜くことができます。

ハンドルバー左側スイッチ

1a. ディマースイッチ、ビームの選択、2 ポジション：
— ポジション ≡D ＝ロービームランプ点灯 (A)
— ポジション ≡D ＝ハイビームランプ点灯 (B)
1b. ボタン ≡D ＝フラッシャー (FLASH) およびインストルメントパネルコントロール (E)

2. メニューブラウズボタン、2 ポジション：ディマースイッチ、ライト選択スイッチ、2 ポジション：
— 位置 ⇧ ：UP (C)
— 位置 ⇩ ：DOWN (D)

3. ボタン ＝警告ホーン

4. 3 ポジション、ターンインジケーターボタン ⇔ ：
— 中央 ＝ OFF
— ボタン ⇦ ＝左折
— ボタン ⇨ ＝右折
ターンインジケーターを解除するには、コントロールレバー中央に戻ってから押します。

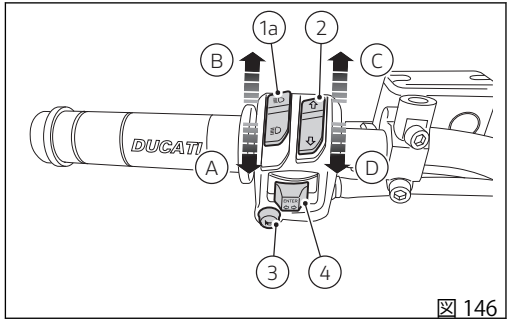


図 146

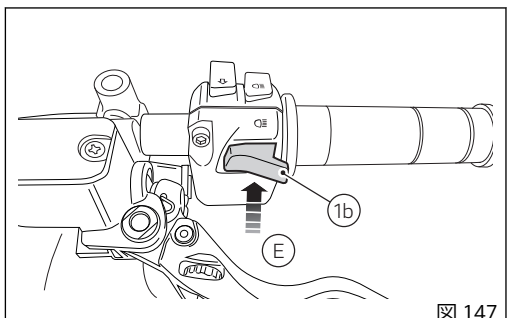


図 147

クラッチレバー

レバー (1) でクラッチの接続を操作します。レバー (1) を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。

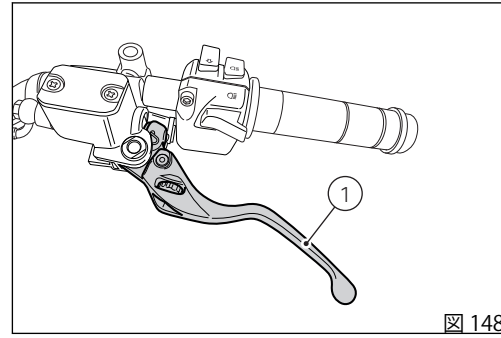


図 148

重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスミッションの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください (この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

ノブ (2) を時計方向 / 反時計方向に回すと、レバー (1) とグリップとの距離を調節できます。

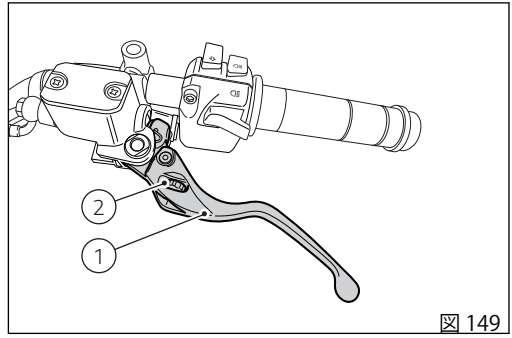


図 149

警告
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

警告
クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

警告
磨耗によるクラッチのすべりがある場合は、上記のようにレバーのアジャスター (2) を絶対に緩めないでください。この場合はアジャスターを締めてください。
すべりが続く場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ハンドルバー右側スイッチ

1) 赤色スイッチ　ON / OFF
2) DRL 起動 / 解除ボタン (中国、カナダ、日本バージョンには装備されません)
3) ハザード起動 / 解除ボタン

スイッチ (1) には 3 つのポジションがあります。

A) この位置を使用する機能はありません。
B) 起動この位置で車両を起動 (Key-ON) できます。
C) 非常停止この位置で緊急時にエンジンを停止 (Key-OFF) します。

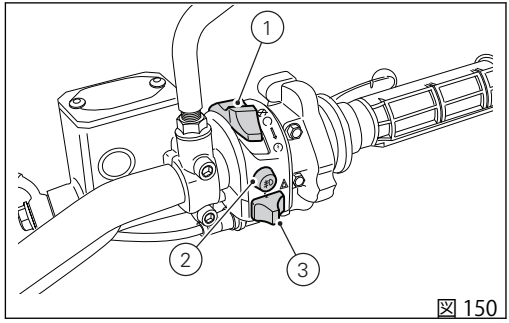


図 150

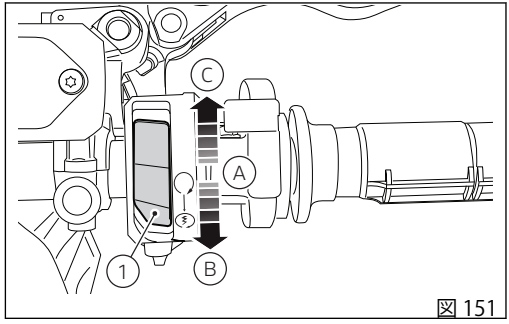


図 151

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ (1) は、スロットルボディのバルブ開閉を制御します。グリップを離すと、自動的に元の位置 (アイドリング状態) に戻ります。

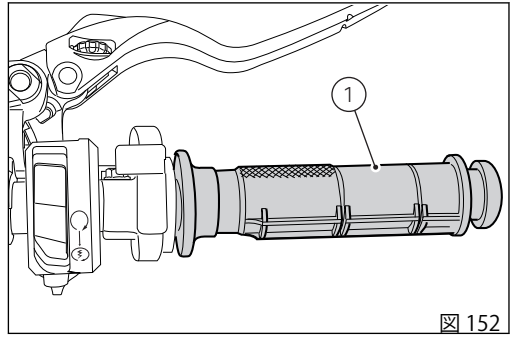


図 152

フロントブレーキレバー

レバー (1) をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。この機種には調整用つまみ (2) が搭載されているため、レバーとグリップとの間隔を調整することができます。

レバーを調節してレバー (1) とグリップの距離を変更するには、レバー (1) を完全に放した状態でノブ (2) を時計方向 / 反時計方向に回します。

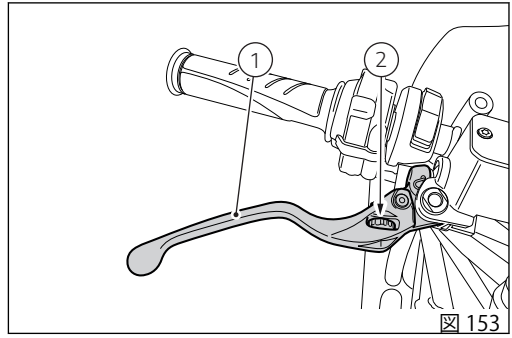


図 153

警告
これらのコマンドを使用する前に "車両の起動および走行" に記載されている内容をお読みください。

警告
フロントブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。

リアブレーキペダル

リアブレーキ (1) をかけるには、ペダルを足で下に押してください。
制御システムは油圧式です。

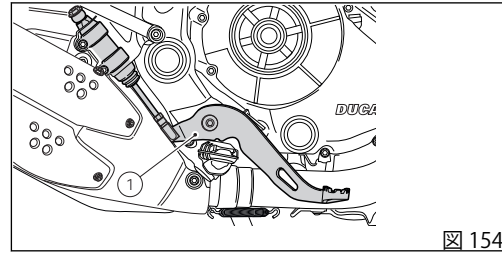


図 154

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダルは中央のニュートラルポジションNに自動的に戻ります。ニュートラルポジションであることはインストルメントパネルのランプNで表示されます。
ペダルは次のように動かせます。

- 下へ＝シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのランプNが消えます。
- 上へ＝ペダルを上へ上げることで、2速から順次3速、4速、5速、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

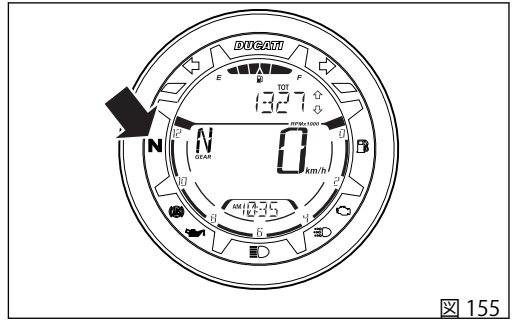


図 155

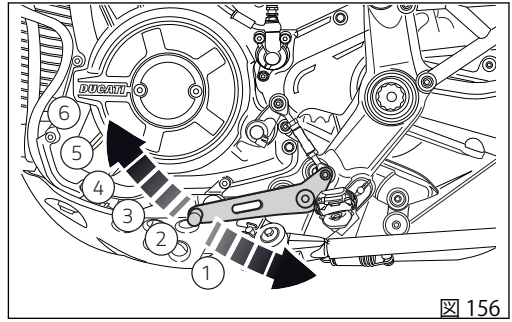


図 156

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。
これらの調整は以下の手順で行ってください。

ギアチェンジペダル

ロッド (1) を固定しながら、ロックナット (2) と (3) を緩めます。

参考
ナット (2) は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、スパナでロッド (1) の六角部分を回します。ロッドに両ロックナットを締め付けます。

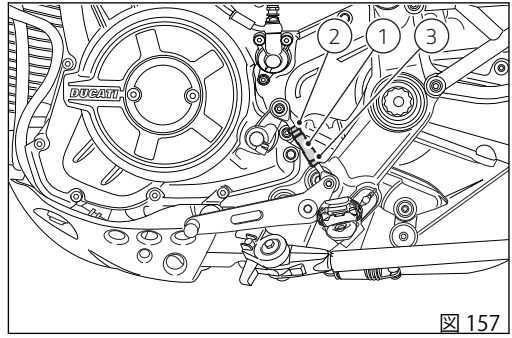


図 157

リアブレーキペダル

ナット (4) を緩めます。
ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー (5) を回します。ロックナット (4) を締め付けます。
ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始めるまでに約1.5〜2 mmの遊びがあるかを確認します。上記のような遊びが確認できない場合は、以下の記載に従いマスターシリンダーのロッドの長さを調整します。
マスターシリンダーのロッドのロックナット (6) を緩めます。
ロッド (7) をフォーク (8) に締め込むと遊びが増加し、緩めると遊びが減少します。
ロックナット (6) を締め付け、再度遊びを点検します。

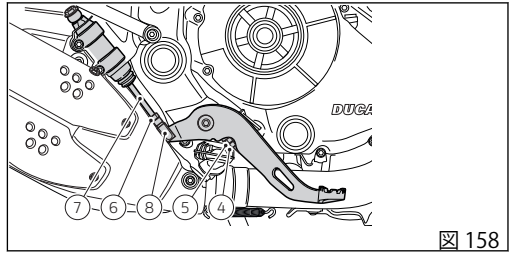


図 158

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

1) フィラープラグ
2) シートロック
3) サイドスタンド
4) リアビューミラー
5) リアショックアブソーバーアジャスター
6) 触媒
7) エキゾーストサイレンサー

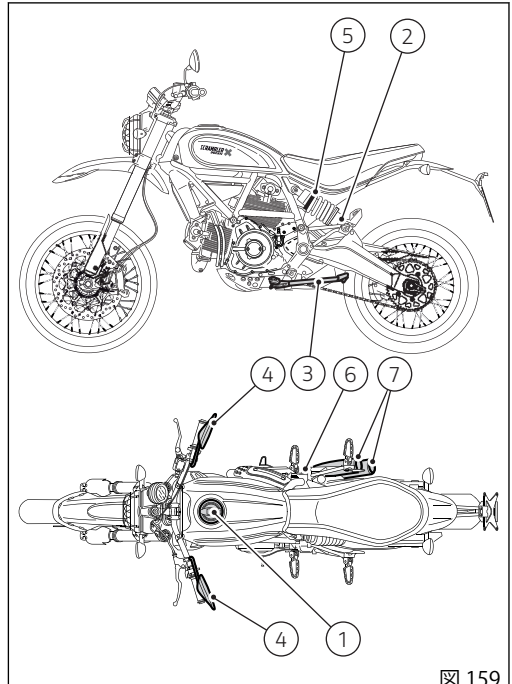


図 159

燃料フィラープラグ

開け方

鍵穴にキーを挿入します。
キーを時計回りに1/4回転させ、ロックを解除します。
プラグ (1) を外します。

閉じ方

キーを挿入してプラグ (1) を閉じ、プラグを押します。
キーを反時計回りに元の位置まで回し、抜き取ります。

参考
キーが挿入された状態でのみキャップを閉めることが可能です。

警告
燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じていることを確認してください。

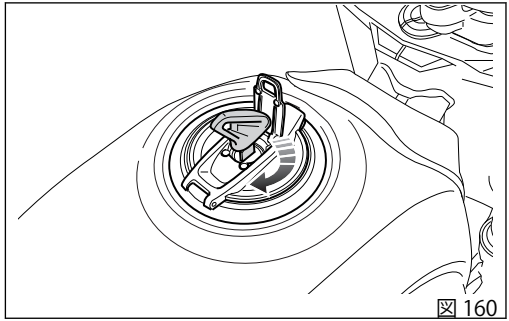


図 160

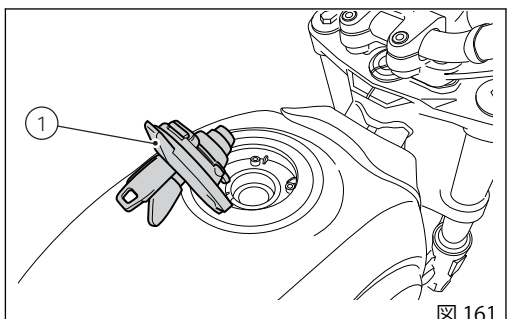


図 161

シートロック

開け方

キー (1) を鍵穴に差し込み、時計方向に回します。同時にラッチ付近を下に押してピンを外します。
シート (2) を後ろに引っ張りながらフロントリテーナーから抜き取ります。

閉じ方

すべての部品がシート下に正しく配置され、固定されていることを確認します。
シート底部の前端部 (A) をフレームマウントの取り付け位置 (B) の下に挿入します。

カチッと音がしてロックされるまでシート (2) の最後部を押します。
シートがフレームにしっかりと固定されたことを確認し、鍵穴からキー (1) を抜きます。

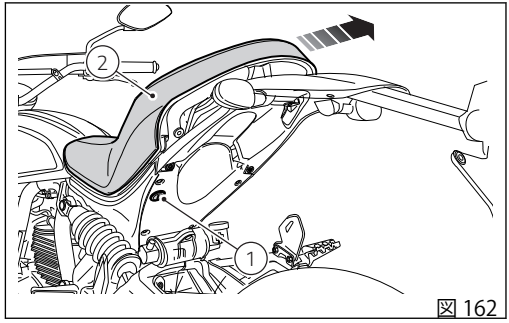


図 162

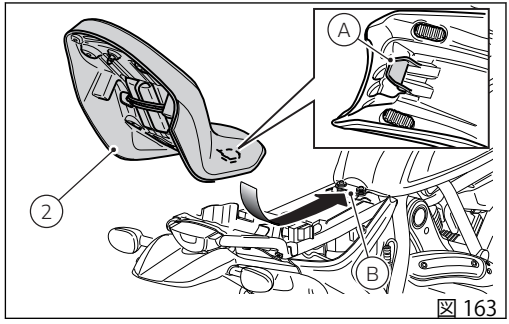


図 163

サイドスタンド

重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなったアスファルト等に駐車すると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、必ずリアホイールを斜面下側にして駐車してください。
サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック (1) を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと地面に着くまで、車体を徐々に傾けます。
サイドスタンドを元の位置 (水平位置) に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム (1) を持ち上げます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

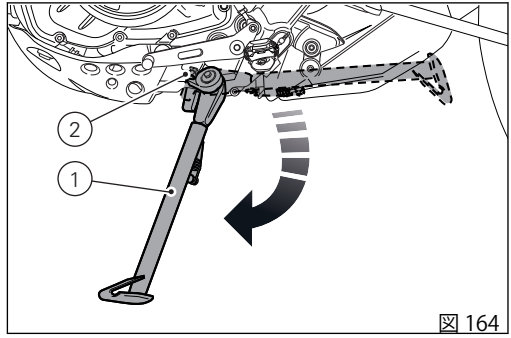


図 164

警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。

参考

定期的にスタンド (内側と外側 2 つのスプリングの状態) と安全センサー (2) の作動を点検することをお勧めします。

USB コネクター

モーターサイクルには 5V USB コネクターが装備されています。USB コネクターは最大 1 A の電流をサポートします。
USB コネクター (1) はシート下に位置し、カバーで保護されています。カバーを持ち上げてコネクターを使用します。

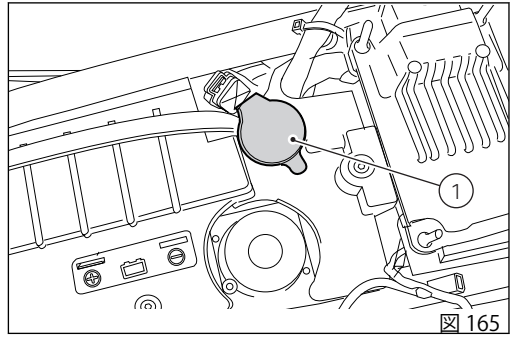


図 165

重要

Key-ON 状態でエンジンを停止している時は、車両のバッテリーが上がるおそれがありますので、長時間装置を USB コネクターに接続したままにしないでください。

警告

USB コネクターを使用していないときは、USB コネクター保護キャップをいつも必ず閉じてください。

警告

雨天の場合は、決して USB ソケットを使用しないでください。

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング(リターン)、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。
両レッグのスプリングプリロードは調整できますが、コンプレッションダンピングは左レッグ、リバウンドダンピングは右レッグの調整が可能です。
調整はアジャスターを使用して行います。

1) リバウンドダンピング調整 (図 166)
2) スプリングプリロード調整 (図 166)、(図 167)
3) コンプレッションダンピング調整 (図 167)

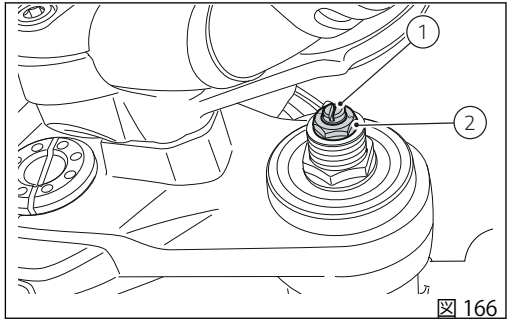


図 166

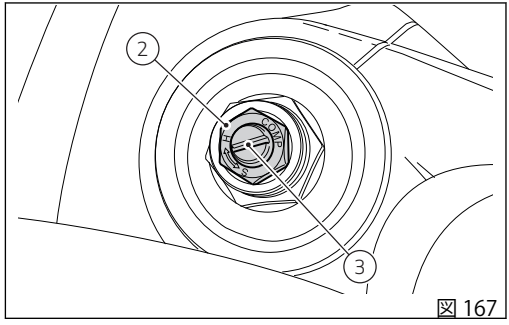


図 167

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。所定のドライバーで右フォークレッグの先端にあるアジャスター (1) を回転させ、リバウンドダンピングを調整します。ドライバーで左フォークレッグの先端にあるアジャスター (3) を回転させ、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター (1) および (3) を回すと、カチッと音がします。それぞれがダンピングの 1 クリックに相当します。
アジャスターをいっぱいに締め込むと "0" 位置になり、ダンピングが最強にセットされます。
この位置から反時計回りに回すとカチッと音がします。それぞれが "1"、"2"、・・・の位置に相当します。
標準設定は以下の通りです。

「公道」走行
コンプレッション：8 クリック (すべて閉じた位置から)
リバウンド：8 クリック (すべて閉じた位置から)
スプリングプリロード：7 回転 (すべて緩めた状態から)。

「オフロード」走行
コンプレッション：全開
リバウンド：14 クリック (すべて閉じた位置から)
スプリングプリロード：10 回転 (すべて緩めた状態から)。

各レッグのスプリングプリロードを変更するには、アジャスター (2、 図 166)、(2、 図 167) を六角レンチで反時計回りに完全に回してすべて緩めた位置に合わせます。この位置からアジャスターを時計回りに回し、プリロードを調整します。1 回転がスプリングプリロード 1 mm (0.04 in) に相当します。

警告
スプリングプリロードのアジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバーの調整

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外付けアジャスターを装備しています。エンジンにショックアブソーバーの上部を固定している位置の左側にあるアジャスター (1) は、リバウンドダンピング (リターン) を調整します。
アジャスター (1) を時計回りに回すとダンピングが強くなり、反時計回りに回すと弱くなります。
ショックアブソーバー下部のリングナット (2)、(3) はスプリングプリロードを調整します。
スプリングプリロードを変更するには、下部固定リングナット (3) を緩めます。締めたり緩めたりすることで、上部リングナット (2) はプリロードを増大させたり減少させたりします。
希望のプリロードに調整したら、下部固定リングナット (3) を締め付けます。

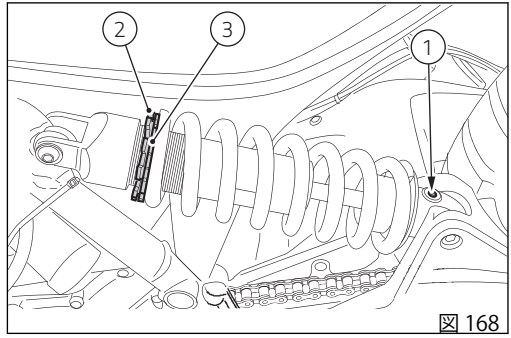


図 168

すべて閉じた位置からの標準設定は以下の通りです(時計回り)。

「公道」走行
「公道」標準設定

- リバウンド：3/4 回転 (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード：14 mm (0.55 in) スプリングの面から奥いっぱいまで (A)。

「公道」標準設定

- コンプレッション：8 クリック (すべて閉じた位置から)
- リバウンド：8 クリック (すべて閉じた位置から)
- スプリングプリロード：7 回転 (すべて緩めた状態から)。

「オフロード」走行
「オフロード」標準設定

- リバウンド：1.5 回転 (すべて閉じた状態から)
- スプリングプリロード：18.5 mm (0.73 in) スプリングの面から奥いっぱいまで (A)。

「オフロード」標準設定

- コンプレッション：全開
- リバウンド：14 クリック (すべて閉じた位置から)

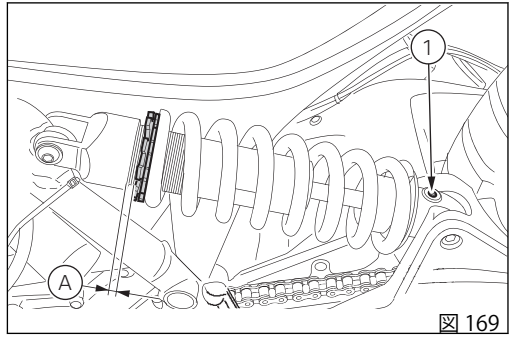


図 169

- スプリングプリロード：10 回転 (すべて緩めた状態から)。

警告
プリロードアジャスターを回すにはピンレンチを使用します。作動中にリングナットのすき間にレンチのソケット部分が急に落ちた場合に車両の他の部品に手を強くぶつけてケガをしないよう十分注意してください。

警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

運転の方法

慣らし運転の方法

エンジン最高許容回転数

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最高許容回転数：
1) 1,000 km まで
2) 1,000 km～2,500 km まで

1,000 km まで

最初の 1,000 km まではタコメーターに注意し、5,500～6,000 rpm を決して超えないようにしてください。
最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジン負荷と回転数を色々変えて走行することをお勧めします。
エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を走行することが理想的です。
最初の 100 km は、ブレーキディスクにパッドをよく慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキングや長いブレーキングは避けてください。
すべての機械部分を互いに馴染ませるため、またエンジンの主要部分の寿命に悪影響を及ぼさないために、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたるエンジン高回転は避けてください。
定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑してください。

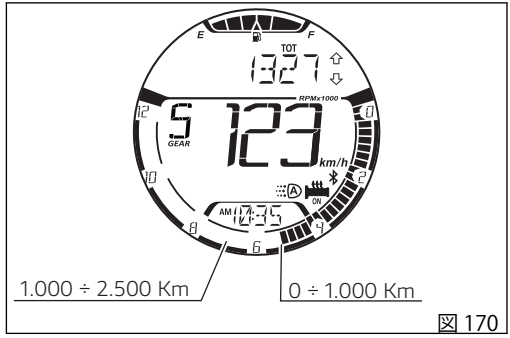


図 170

1,000 km～2,500 km まで

1,000 km～ 2,500 km までは、エンジンからよりパワーを引き出すことは可能ですが、7,000rpm を決して超えないようにしてください。

重要

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整やオーバーホールの回数を抑えることができます。

走行前の点検事項

警告
走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量
  タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (“燃料の補給” をご覧ください)。
- エンジンオイル量
  クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要であれば補充してください (”エンジンオイルレベルの点検“ をご覧ください)。
- ブレーキおよびクラッチフルード量
  各フルードタンクのフルードレベルを点検してください (”ブレーキフルードレベルの点検“ をご覧ください)。
- タイヤコンディション
  タイヤ空気圧と摩耗度を点検します (“タイヤ” をご覧ください)。
- コマンド機能
  ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。
- ランプ類、インジケーター
  ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。電球が切れている場合には交換してください (”電球の交換“ をご覧ください)。
- ロック類
  フィラープラグのロック (”燃料フィラープラグ“ 参照) とシートのロック (”シートロック“ 参照) を点検します。
- サイドスタンド
  サイドスタンドがスムーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (”サイドスタンド“ をご覧ください)。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプは点灯し続けます。
走行速度が 5 km/h (3 mph) を越えた時点でランプが消灯して、ABS システムが正常に作動していることを示します。

警告
異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

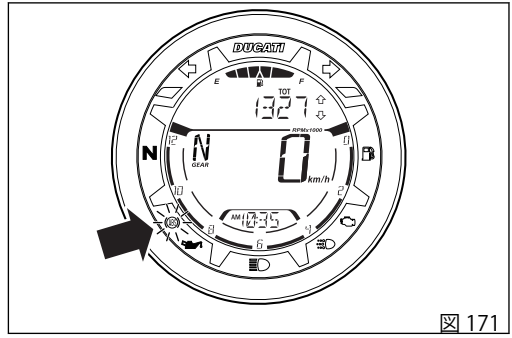


図 171

ABS 装置

フロントフォニックホイール (1) とリアフォニックホイール (2) が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

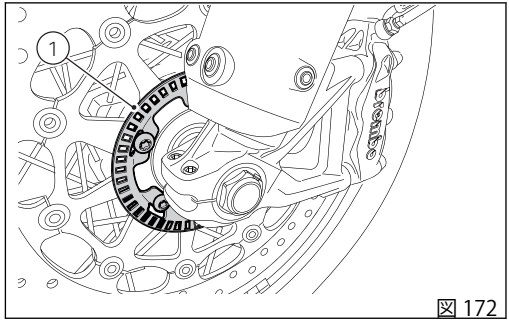


図 172

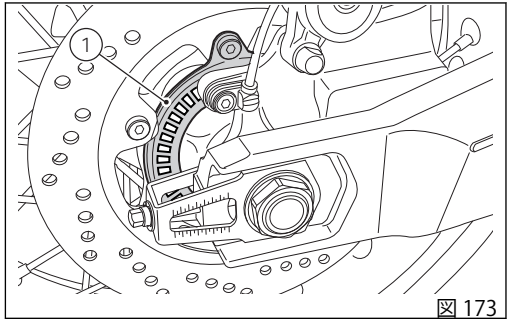


図 173

エンジンの始動

警告
エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。

警告
屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

イグニッションキーを (1、図 174) の位置に回します。インストルメントパネルの緑のランプ N (A) と赤のランプ (B) が点灯していることを確認してください。

重要
オイル圧警告ランプはエンジンを始動してから数秒後に消えなければなりません。

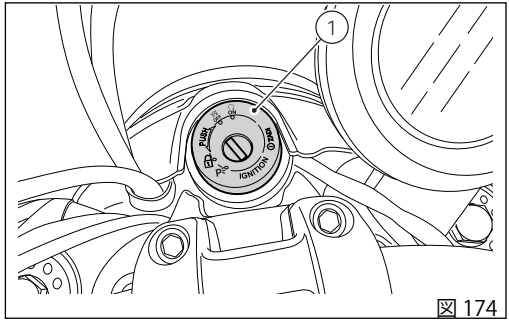


図 174

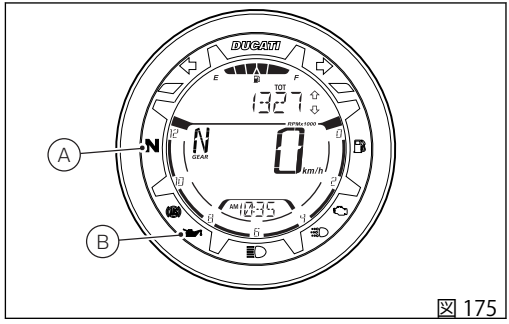


図 175

警告
サイドスタンドが完全に上げられて(水平)いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

参考
サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください(この時サイドスタンドは上がっていなければなりません)。

非常用起動 / 停止スイッチ (2) がポジション (A) ○ (RUN) にあることを確認してください。
スイッチ (2) を下 (B) に押して放します。
スロットルコントロールを操作せず、車両が自然に起動するまで待ちます。

参考
バッテリーが上がっている場合、システムは自動的にスターターモーターの起動を停止します。

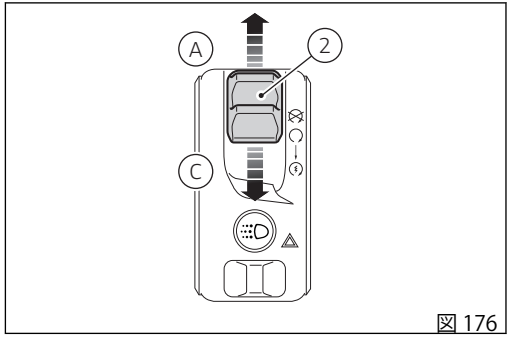


図 176

重要
エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

車両の発進

1) クラッチレバーを引いてクラッチを切ります。
2) ギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げてギアを 1 速に入れます。
3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々に放していくと、車両は発進し始めます。
4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
5) シフトアップするには、スロットルを戻してエンジン回転を落とします。クラッチを切り、ギアチェンジペダルを上げ、クラッチをつなぎます。

シフトダウンは次のように行います。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチレバーを放します。
これらの操作は適切に素早く行ってください。上り坂を走行する際には、車速が落ちてきたら直ちにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けてください。

警告
急な加速操作は、オーバーフローやトランスミッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。

警告
ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

時間に余裕を持って減速し、シフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、両方のブレーキを操作してブレーキをかけます。車両が停止する前にクラッチを握り、エンジンが急に切れないようにします。

ABS システム

困難な条件下でのブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、グリップによるバランス力を失うため車両のコントロールを失います。

アンチロックブレーキシステム (ABS) は、緊急時や悪路、悪天候下での走行時にブレーキ性能を最も効果的に発揮させるために開発されたものです。

ABS は電子制御油圧システムです。ホイールがロックしそうになると、ホイールのセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内の油圧を制御します。

一時的に油圧が下がることで、タイヤは理想的なグリップを維持したまま回転を続けることができます。コントロールユニットはブレーキ回路内の油圧を再び上げてブレーキを作動させます。ホイールロックのリスクが完全になくなるまでこのサイクルを繰り返します。

ブレーキング時 ABS が作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダルに軽く振動する抵抗が感じられます。

フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABS もフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。

このシステムを解除したい場合は、"ABS システムの起動 / 解除 (ABS:ON/OFF)" (ページ 48) 機能を使用してインストルメントパネルから解除することができます。

警告

ABS システムが解除された状態では、車両のブレーキシステムは標準的なブレーキとして機能します。このため、2 つのブレーキコマンドのうち片方だけを使用した場合、車両のブレーキ性能は低下します。急激に過度の力を掛けてブレーキコマンドを操作しないでください。ホイールがロックし、車両のコントロールを失うおそれがあります。雨天時や滑りやすい路面の走行ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をしてください。急ブレーキを掛けると車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用し、ブレーキは短く断続的に使用するようにしてください。ブレーキを長時間連続して使用すると、ブレーキパッドの過熱を招き、ブレーキ性能の著しい低下の原因となります。規定空気圧に満たないタイヤでの走行はブレーキ性能を低下させるだけでなく、正確な運転とカーブでの安定性を損ないます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は徐々にスピードを落とし始めます。
シフトダウンしながら 1 速まで落とし、最後にニュートラルに入れます。
ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。
エンジンを停止するには、キーを (2) の位置に回します。

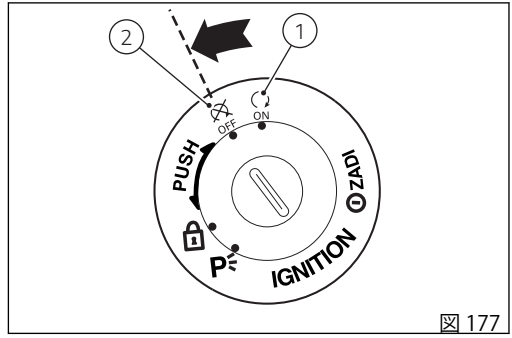


図 177

重要

エレクトリカル部品の破損を防ぐため、エンジンを切った状態でキーを ON、(1) の位置のまま放置しないでください。

パーキング

停止車両をサイドスタンドで支えて駐車します。盗難防止のため、ハンドルを左に振りきり、キーを (3) の位置に回します。車両をガレージやその他の建物内に駐車する際には、換気が充分され、車両の近くに熱源が無いことを確認してください。必要に応じ、キーを (4) の位置に回してパーキングランプを点灯させたままにすることができます。

重要

長時間キーを (4) の位置のままにしないでください。バッテリーが上がってしまうおそれがあります。監視できない場所に停車するときは、キーを付けたままにしないでください。

警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

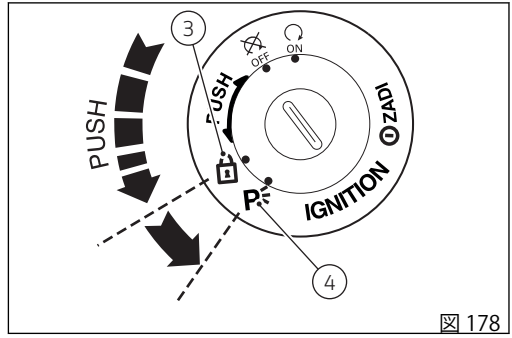


図 178

警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック (ディスクロック、リアスプロケットロック等) は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、燃料の入れすぎに注意してください。燃料レベルはフィラープラグ (1) が収まる給油口より低くなければなりません。

警告

極端な場合には、キャップを開ける時にタンク内の圧力によって燃料が噴き出る可能性があります。
キャップを開ける時は十分注意して、ゆっくりと開けるようにしてください。
キャップを開けている時にシューという音が聞こえたら、音が聞こえなくなるのを待ってからキャップを完全に開けてください。
このノイズは燃料タンク内の圧力が外に逃げている時に鳴る音です。音がしなくなったということは、残っていた圧力が完全に外へ逃げたことを意味します。
上記のような状況は、特に暑い気候の時に起こりやすくなります。

警告

オクタン価が 95 以上の鉛含有量の低い燃料を使用してください。

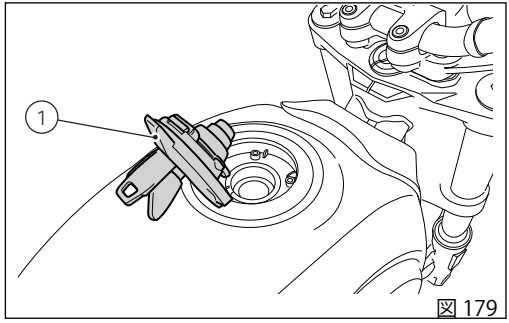


図 179

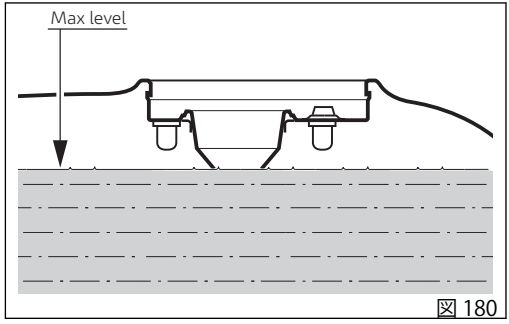


図 180

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

付属アクセサリー

シート下にはツールキット (1) が装備されています。ツールキットに含まれる内容は以下の通りです。

- ドライバー
- ドライバーのハンドル
- 六角レンチ 3 mm
- 六角レンチ 4 mm
- プリロード調整レンチ
- プリロード調整レンチ用ハンドル
- ヒューズ用ピンセット
- 六角レンチ
- 六角レンチ
- 六角パイプレンチ
- 六角パイプレンチ用ロッド

ツールキットを取り出すには、シートを取り外しますページ 150。

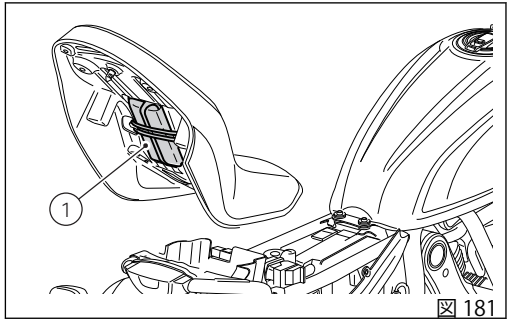


図 181

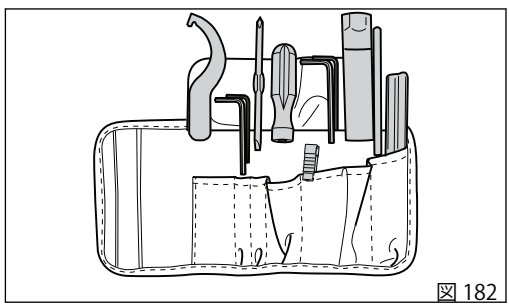


図 182

ブレーキフルードレベルの点検

フルードレベルは各リザーバータンクのMIN目盛りを絶対に下回らないようにしてください。(図183) はフロントブレーキフルードのリザーバータンク、(図184) はリアブレーキフルードのリザーバータンクです。
フルードレベルが下がりすぎると、回路内にエアが混入し、システムの作動に悪影響を及ぼします。
また、保証書内の定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充および交換は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのにブレーキレバー、ブレーキペダルに過度の遊びがある場合は、Ducati正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡いただき、システムの点検とエア抜きを行ってください。

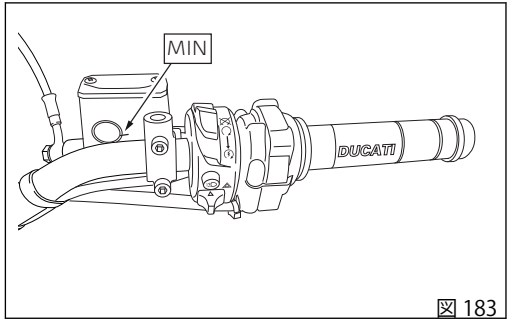


図 183

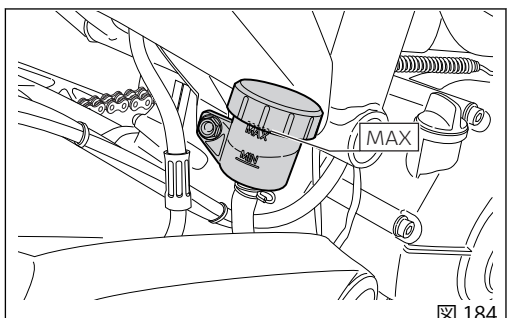


図 184

警告

ブレーキフルードはプラスチックおよび塗装部分に損傷を与えますので、こぼさないようにして下さい。
これらの液体は腐食性ですの損傷やケガを引き起こすおそれがあります。異なる品質のオイルを混ぜないでください。ガスケットの状態を点検してください。

エアフィルターの交換

重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部からパッドの摩耗を点検します。
どちらか片方でもパッドの厚さが約1 mmになっている場合は、両方のパッドを交換します。

警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうおそれがあります。

重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

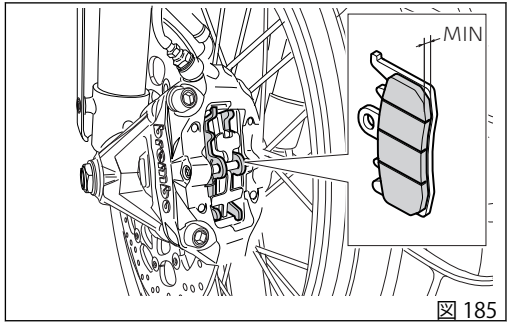


図 185

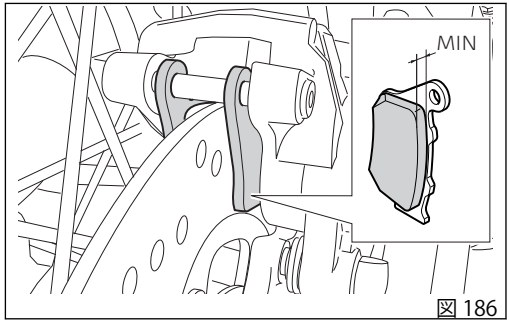


図 186

バッテリーの充電

警告
バッテリーの取り外しはDucati正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

バッテリーの作業を行うには、シートを取り外しますページ150。固定バンド(C)とスクリュー(D)を外し、バッテリーカバー(A)を取り外します。スクリュー(1)を緩めて外し、陽極ケーブル(2)および陽極ケーブル(ABS)(3)をプラス端子から、陰極ケーブル(4)および陰極ケーブル(ABS)(5)をマイナス端子から取り外します。取り外しは必ずマイナス側(-)から始め、所定の位置からバッテリーを引き抜きます。

警告
バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

充電は換気の良い場所で行ってください。
端子に充電器のコンダクターを接続します。赤い端子がプラス(+)、黒い端子がマイナス(-)です。

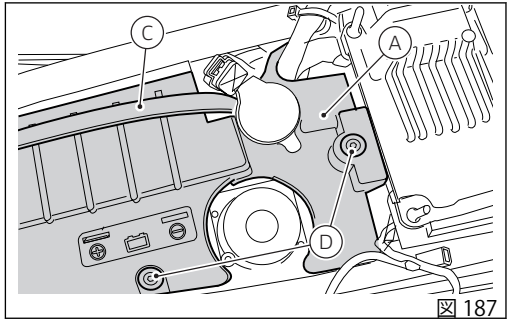


図 187

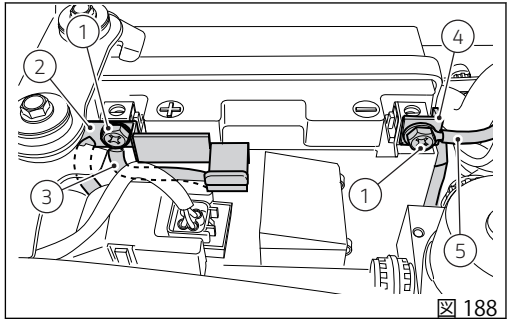


図 188

重要

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス (+) 端子から行ってください。

スクリュー (1、 図 188) にグリースを塗布します。バッテリーを配置し、陽極ケーブル (2、 図 188) および ABS 陽極ケーブル (3、 図 188) をバッテリーのプラス端子に、陰極ケーブル (4、 図 188) および ABS 陰極ケーブル (5、 図 188) をマイナス端子に接続します。接続は必ずプラス側 (+) から始め、スクリュー (1、 図 188) を差し込みます。

警告

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーを 0.9A で 5 ～10 時間充電します。

外部エンジンスターターを接続してエンジンを緊急始動する必要がある場合、バッテリーを車両から取り外さずにスターターを接続することができます。外部エンジンスターターのプラスをバッテリーのプラス極に、外部エンジンスターターのマイナスをバッテリーのマイナス極に接続します。バッテリーカバー (A、図 187) を取り付けます。固定バンド (C、図 187) を取り付け、スクリュー (D、図 187) を 5 Nm ± 10 % のトルクで締め付けます。

警告

バッテリーを車両に取り付けた状態で電極に外部エンジンスターターを接続する際は、車両のほかの金属部分に触れないように注意してください。

冬季のバッテリー充電およびメンテナンス

本車両のシート下にはコネクター (1) が装備されています。このコネクターには専用バッテリーチャージャー (2) (バッテリーメンテナーメンテナンスキット (部品番号：69924601A) (各国) またはバッテリーメンテナーキット (部品番号：69924601AX) (日本、中国、オーストラリアのみ)) を接続することができます。専用バッテリーチャージャーは当社販売店にてお求めいただけます。

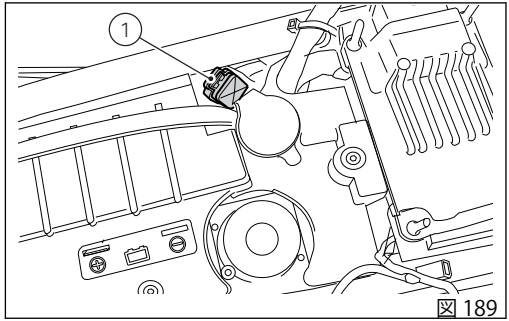


図 189

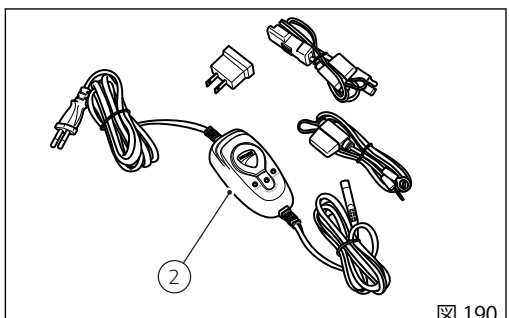


図 190

参考

本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

重要

所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。

参考

車両を使用しない期間 (およそ 30 日以上)、Ducati バッテリーメンテナー (バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ) の使用をお勧めします。電力をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大 1.5 A/h です。メンテナーを車両後部にある診断ソケットに接続します。

参考

Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

ジョイント部の潤滑

定期的にスロットルコントロールケーブル、およびスターターコントロールケーブルのアウターガードの状態を点検する必要があります。外側のプラスチックコーティングがつぶれていたり、ひびが入っていてはなりません。コントロールを操作し、インナーケーブルが滑らかに作動することを確認します。摩擦や引っかかりがある場合は Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに交換を依頼してください。
このような問題を防止するため、定期的に各フレキシブルトランスミッションケーブルの先端にグリース SHELL Advance Grease または Retinax LX2 を塗布して潤滑してください。
スロットルトランスミッションの場合、2 本の固定スクリュー (1) を緩めてコントロールを開き、ケーブルの先端およびプーリーにグリースを塗布します。

警告

プーリーにケーブルを挿入し、注意してコントロールを閉じます。

カバーを取り付け、スクリュー (1) を 1.8 Nm のトルクで締め付けます。
サイドスタンドのジョイント部の円滑な動作を維持するには、汚れをきれいに取り除いた後、摩擦が起きる部分すべてにグリース SHELL Alvania R3 を塗布します。

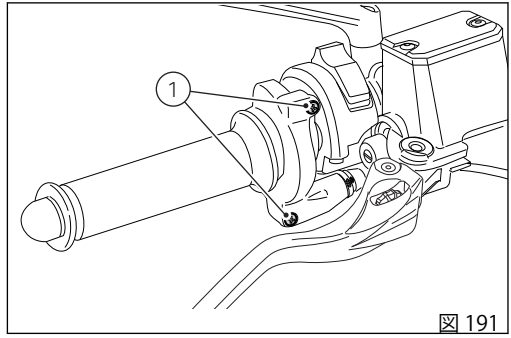


図 191

スロットルケーブルの調整

スロットルケーブルは、ハンドルバーのどの位置においても、グリップ端部で測定した場合にスロットルグリップの遊びが 2〜4 mm なければなりません。これは図中 (A) を参照した値です。
調整する必要がある場合は、スロットルコントロール上に設けられた専用アジャスター (1) を操作します。

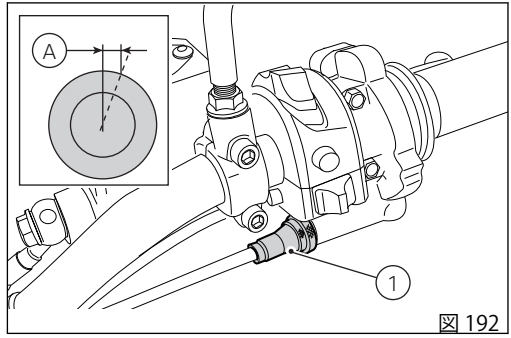


図 192

トランスミッションチェーン張力の点検

重要
チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。サイドスタンドで車両を支えて駐車します。チェーンの測定位置を指で一度だけ下に押し、放します。チェーンが休止した位置から上方向への移動距離を測定します。値は、A = 48 ～ 50 mm (1.89 ～ 1.97 in) でなければなりません。

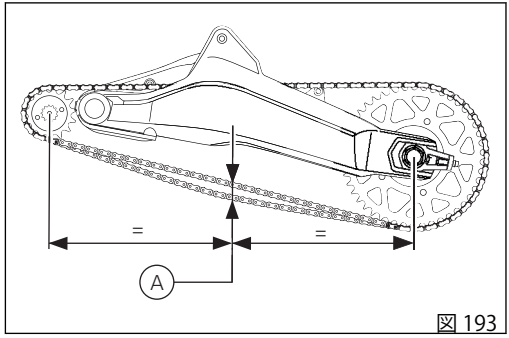


図 193

重要
この手順は、納車時と同じ標準設定の車両に対してのみ有効です。

重要
ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

警告
安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー (1) の正しい締め付けが重要です。

重要
チェーンの張りが不適切だとトランスミッション部品の磨耗を早めます。

スイングアーム両側の位置決めマーキングが合っていることを確認します。これにより正確なホイールアラインメントを取ることができます。ホイールシャフトのナット (2) のネジ山に SHELL Retinax HDX2 を塗布し、145 Nm のトルクで締め付けます。アジャスタースクリュー (1) のネジ山に SHELL Alvania R3 を塗布し、10 Nm のトルクで締め付けます。

重要
チェーンが常に最高レベルの性能を維持し、かつ長持ちするようにするため、チェーンの洗浄、チェック、張りに関する情報に従うことを推奨します。

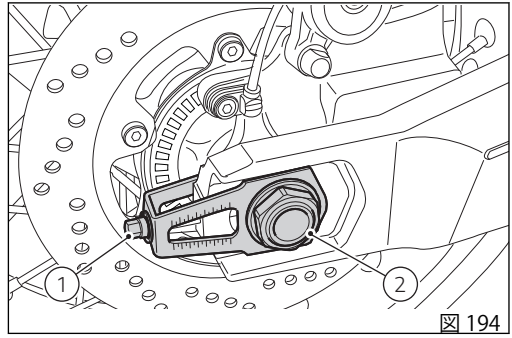


図 194

チェーンの潤滑

重要

ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

ドライブチェーンの清掃および潤滑

本車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑状態を長く保つ O リングガスケット付きチェーンが装着されています。
チェーンの潤滑を行う前に、チェーンを正しく洗浄し、清掃することが重要です。

チェーンの清掃は、その寿命を伸ばすために非常に重要なことです。従って、チェーン上に泥や土、砂、その他一般的な汚れが見られる場合は、それらの汚れをウォータージェットで取り除き、その後すぐに 30cm (11.81 インチ) 以上離れたところから圧縮空気で乾燥させてください。

警告
蒸気やガソリン、溶剤、硬いブラシやその他、Oリングを傷つけるものは使用しないでください。さらにバッテリー電解液との接触を避けてください。図のように、リンクに小さなひび割れができるおそれがあります。

警告
特にバイクをオフロードで使用する場合は、チェーンガイドスライダーとの接触により、リンクが過度に摩耗することがあります。摩擦によりチェーンが過熱し、チェーンの熱処理が損なわれ、その結果特にリンクがもろくなるおそれがあります。

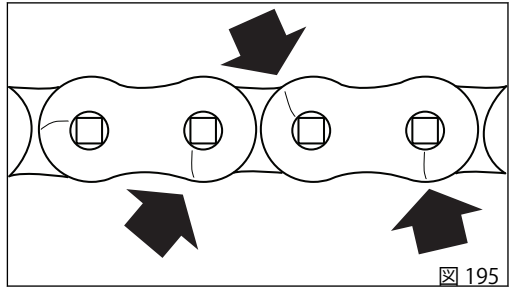


図 195

ドライブチェーンの潤滑

重要
ドライブチェーンの清掃は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告
潤滑には SHELL Advance Chain を使用してください。規定以外の潤滑剤を使用すると O リングや、それに伴ってトランスミッションシステム内部を損傷することがあります。

チェーンの潤滑は、新しい潤滑剤がリンク間の内外に染み込み、保護作用がより効果的に発揮されるよう、バイクの使用後、車両が冷えるのを待たずに行ってください。

リアパドックスタンドに車両を駐車します。リアホイールを進行方向とは逆の方向に速く回転させてください。

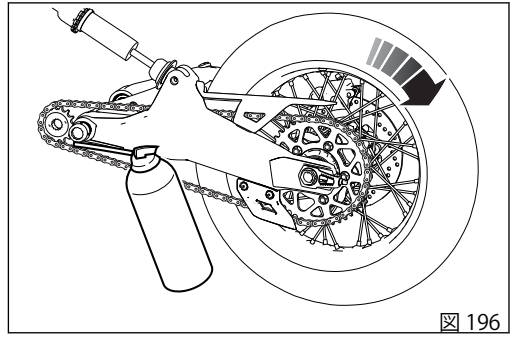


図 196

チェーン内部のリンクの内側と外側に、スプロケットとのかみ合わせの直前の箇所 (2) で、潤滑剤 (1) のジェットを噴射します。

遠心力によりスプレーの中身が液状になり、潤滑剤がピンとブッシュの間の作動部分に行き渡り、完璧な潤滑を保証します。

潤滑剤のジェットをチェーンの中央部 (5) に配置して作業を繰り返し、図のようにニードルベアリング (4) および外側のプレート (6) を潤滑します。

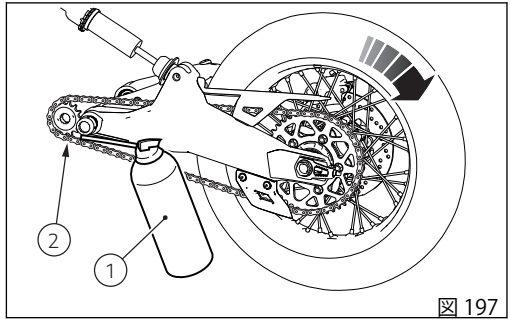


図 197

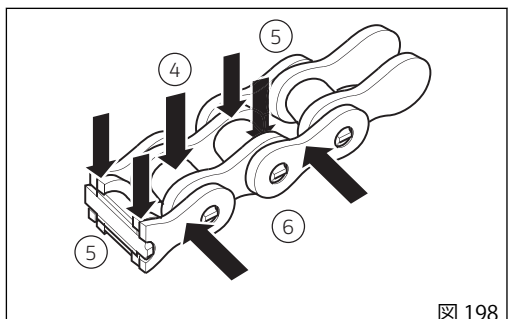


図 198

潤滑の終了後10～15分待ち、チェーンの内側と外側表面に潤滑剤を行き渡らせ、その後余分な潤滑剤を布でふき取ります。

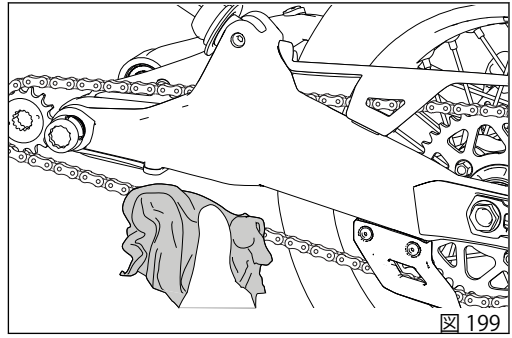


図 199

重要

チェーンの潤滑後、すぐにバイクを使用しないでください。潤滑の直後は潤滑剤がまだ流れやすく、外側に向かって飛び散り、後輪やライダーフットペグを汚す可能性があります。

重要

チェーンのチェックを頻繁に行い、プログラムされた表に従って、少なくとも1000 km (621マイル)毎に行ってください。外気温度が高い(40° C)土地での使用時、または長距離におよぶ高速道路での走行の後は、より頻繁(約400 km (248マイル)毎)に潤滑を行ってください。

ヘッドライドの電球の交換

重要

電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

切れた電球を交換する前に、新しい電球が ページ 223 の"エレクトリカルシステム" の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。
左側から作業します。2本のスクリュー (1) を緩めて外し、ヘッドライトマウントのクランプ (2) を回収します。

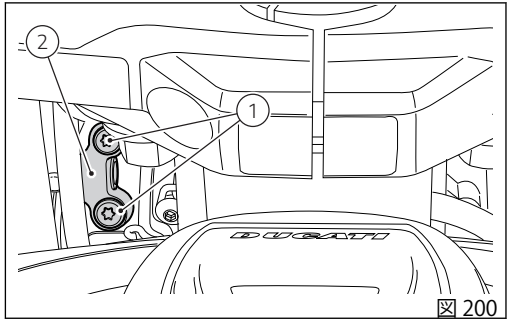


図 200

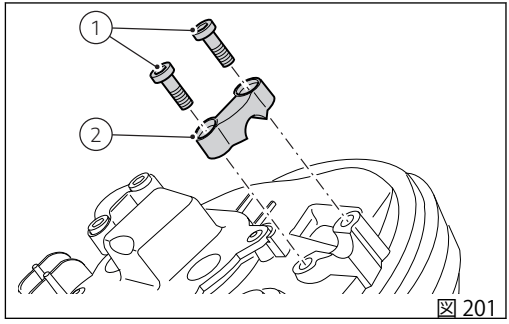


図 201

ヘッドライト右側から割ピン (A) を抜き取ります。

スクリュー (3) を緩めて外し、スプリング (B) を回収します。

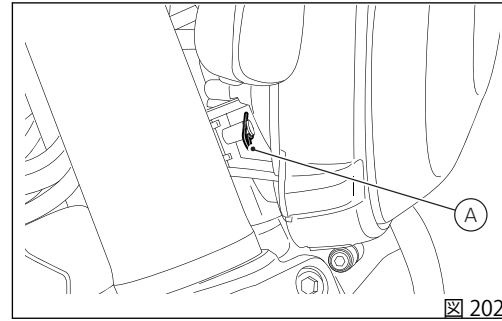


図 202

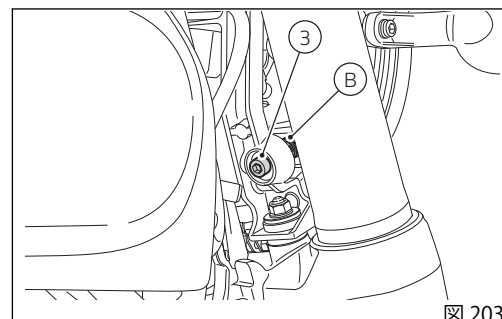


図 203

ナット (C) を緩めて外し、温度センサー (D) をブラケットと一緒に抜き取ります。

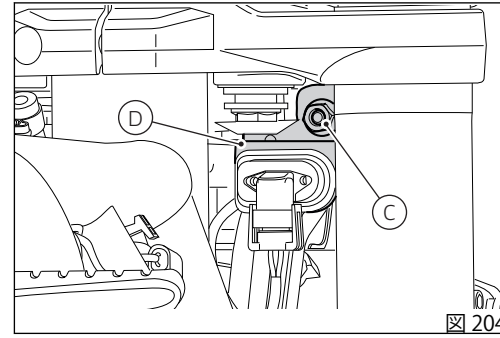


図 204

右クランプ (E) をピン (F) から抜いてヘッドライトを左方向に抜き取り、フロントマッドガード側に傾けます。

ヘッドライトを適切に支えます。電球カバー (5) のスクリュー (4) を緩めて外し、カバーを取り外します。

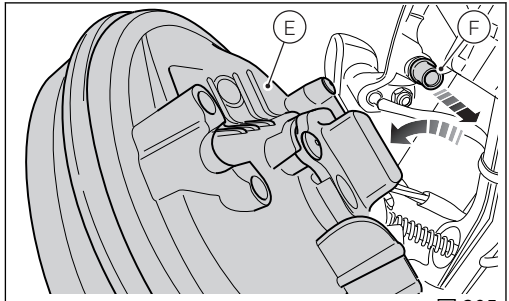


図 205

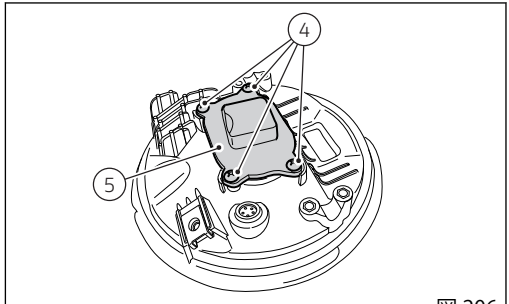


図 206

コネクター (6) を切り離します。
クリップ (7) を外します。
電球 (8) はバイヨネットベースタイプなので、取り外すには押しながら反時計回りに回します。電球を交換し、新しい電球を押しながら時計回りにカチッという音がするまで回して取り付けます。

参考
レンズの部分は絶対に指で触れないでください。電球の光度が落ちる原因となります。

取り付けの際は、取り外した部品を取り外し時とは反対の手順で取り付け、スクリュー (1、図 200) を 5 Nm のトルクで締め付けます。

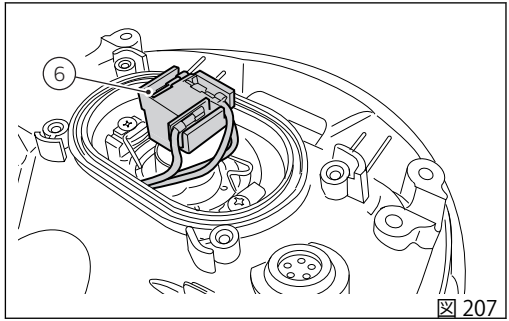


図 207

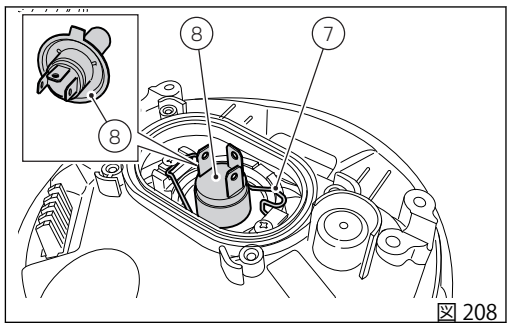


図 208

ヘッドライトの光軸調整

参考
ヘッドライトには左右の光軸調整用に 2 つのアジャスターが付いています。

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員1名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドライトの中心と同じ高さで水平に線を引き、車体の縦軸に対応する垂直線も引きます。この点検は薄暗い場所で行ってください。ロービームランプを点灯し、左右の光軸調整を行います。照射領域の上限が、床面からヘッドライトの中心までの高さの 9/10 以下でなければなりません。

参考
この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

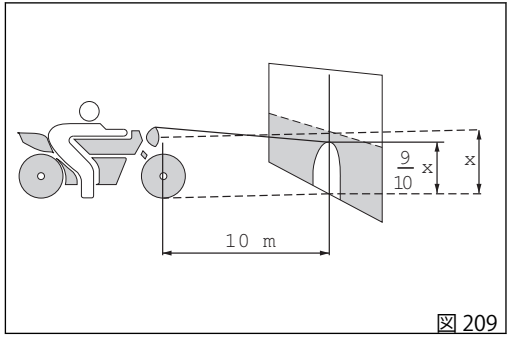


図 209

ヘッドランプの光軸調整

ヘッドライトの垂直方向の調整は、スクリュー (1) をマニュアルで操作して行います。

重要
ヘッドランプの調整スクリューにエンドストップはありません。

警告
雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

警告
付属のヘッドライトグリル (2) は、一般道路走行用の保安基準に適合しておりません。

ヘッドライトグリル (2) は、クローズドサーキットにおける競技車両専用に製作された製品です。一般道路での使用は、法律により禁じられています。

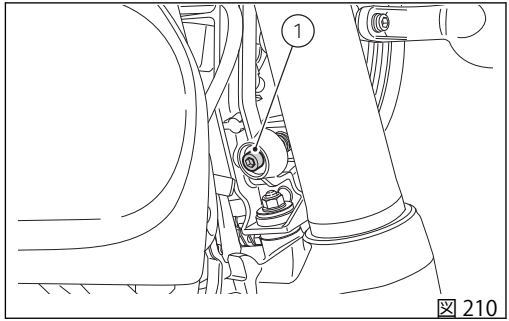


図 210

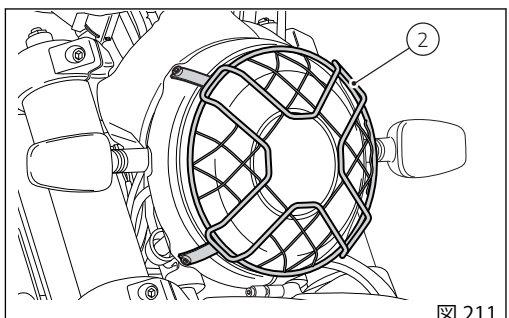


図 211

リアビューミラーの調整

リアビューミラー (A) を手動で好みの位置に調整します。

警告

ミラーを調節する際は、無理な力をかけてミラーを破損しないように慎重に調節してください。

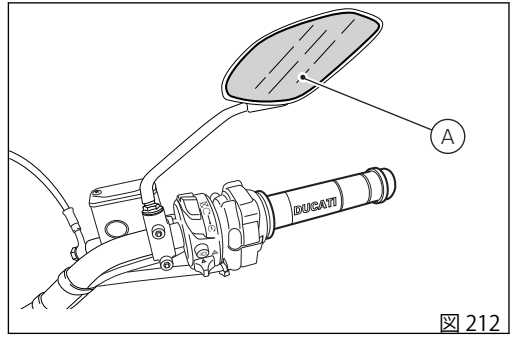


図 212

固くてミラーの調節が難しいときは、調節しやすいようにジョイント部を操作してください。
この調節を実施するには、ゴム製キャップ (1) を下側に抜き取ってください。

次にカバー (3) を抜き取ります。

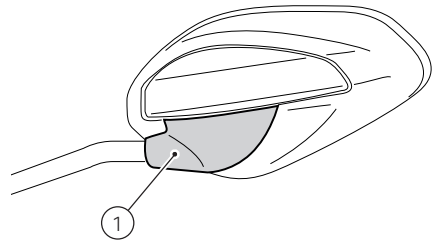


図 213

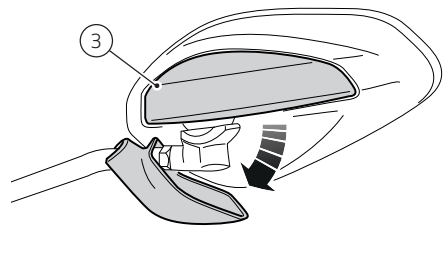


図 214

ボールジョイント (4) を軽く緩めます。
カバー (3) を再び取り付けます。
ゴム製キャップ (1) を配置します。

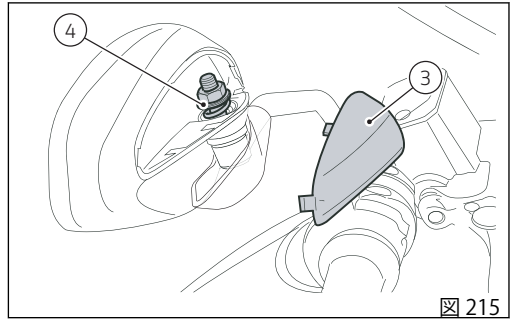


図 215

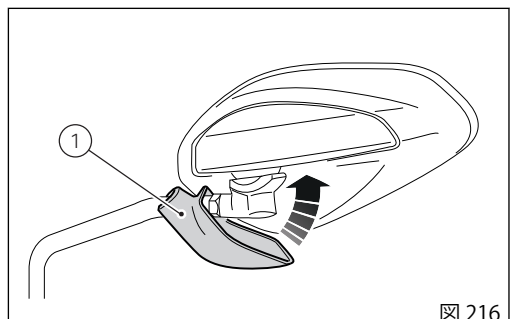


図 216

上述のように好みの位置が見つからない場合は、ステムに対するミラー本体の位置を変更してより正確な調整を実施することができます。
この調節を実施するには、ゴム製キャップ (1) を下側に抜き取ってください。
ナット (2) を外します。

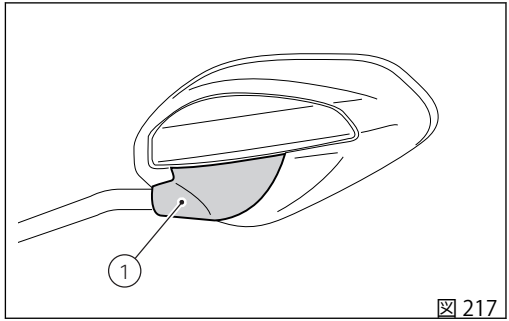


図 217

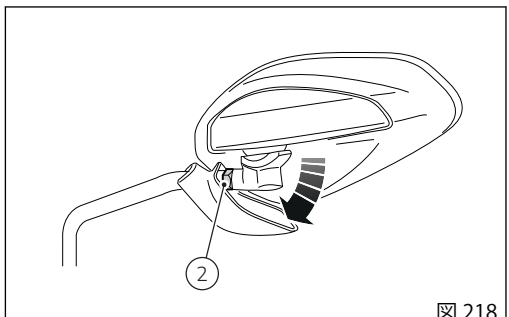


図 218

ステム軸上でミラー (A) を回転することができます。
正しい位置が見つかったら、ナット (2) を 2.4 ± 1 Nm のトルクで締め付けます。
ゴム製キャップ (1) を配置します。

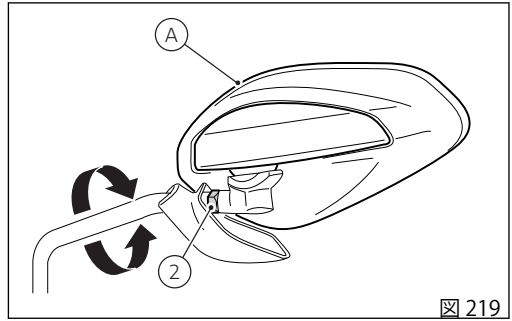


図 219

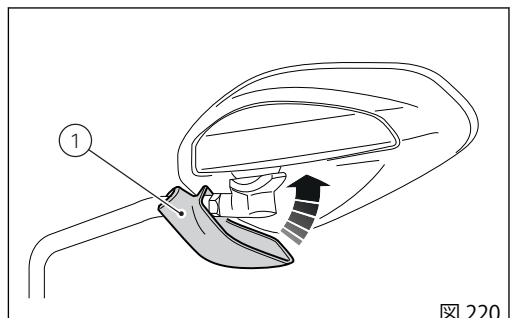


図 220

タイヤ

フロントタイヤ空気圧：
2.2 bar (32 PSI) (ライダーのみ) - 2.2 bar (32 PSI) (最大積載時)
リアタイヤ空気圧：
2.2 bar (32 PSI) (ライダーのみ) - 2.6 bar (38 PSI) (最大積載時)
タイヤの空気圧は外気温や高度によっても変化します。標高の高い場所や気温差のある場所を走行する時は、その都度点検と調整を行ってください。

重要
タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2〜0.3 bar (2.9〜4.35 PSI) 上げてください。

タイヤの修理、交換

タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。
チューブに穴が開いたり破損した場合は、チューブを速やかに交換してください。修理したチューブは、新品のものと同様の信頼性が得られないことがあり、運転中にパンクする可能性もあります。

警告
パンクした場合は、タイヤとチューブを交換してください。交換の際は、タイヤとチューブの両方を標準装備のものと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかり締まっていることを確認してください。チューブレスタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤがつぶれ、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

重要
タイヤとチューブは両方共、標準装備のものと同じメーカー、タイプのものを使用してください。

警告
タイヤを交換する際にはチューブも必ず交換してください。使用済みのチューブは弾力性がない場合があります。新しいタイヤに入れて使用した場合、回復できない損傷を与えるおそれがあり、その結果ライダーやパッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。

警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。

参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所 (S、 図 221) の溝の深さを測定します。溝の深さは 2 mm (0.08 in) 以上でなければならず、また現地法で定めれた規定値以下であってはなりません。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

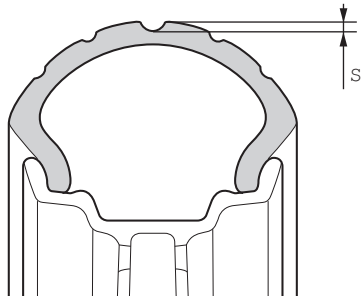


図 221

エンジンオイルレベルの点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓(1)から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時に行ってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。
ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です (JASO：MA2、API：SN)。
フィラーキャップを外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。

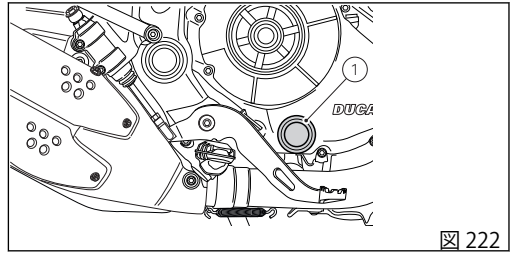


図 222

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API (米国での分類) および JASO (日本標準) は、オイルが有する特徴を表します。

重要
保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格：SN
- JASO 規格：MA2。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。
スパークプラグの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

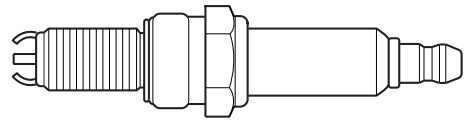


図 223

車両の清掃

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。
プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。
アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。

参考

研磨材付きスポンジやスチールウールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象になりません。

重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。
洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。
洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露(くもり)を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。
エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスミッション系統(チェーン、フロント/リアスプロケット等)に脱脂剤が付着しないように注意してください。

車両をぬるま湯で良くすすぎ、表面全体をセーム革で拭いて乾かします。

警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABS システムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーを傷めますので、強力な洗剤や溶剤の使用は避けてください。

重要

ドライブチェーンの清掃や潤滑は、「ドライブチェーンの潤滑」を参照してください。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします。

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダー内に少量のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1 ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検を実施し、必要であればバッテリーの充電または交換を行ってください。
結露を防止し塗装を保護するため、車体をカバーで覆います。
車体カバーは Ducati Performance にて取り扱っております。

重要注意事項

国によっては (フランス、ドイツ、イギリス、スイス等) 排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。
法律で義務付けられている定期点検を実施し、交換が必要な部品については各国の規制に適合する Ducati 純正パーツと交換してください。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム： ディーラーでおこなうメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
DDS による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃		●					-
バルブクリアランスの点検と調整			●	●	●	●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	-
エアフィルターの清掃			●		●		-
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●	●	●	●	●	12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換		●	●	●	●	●	12
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	-
ホイールハブベアリングの点検				●		●	-
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ (チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット)、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	-
フロントフォークオイルの交換					●		-
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検 (装備している場合)		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	12	24	36	48	期間 (月)
	マイル x1000	0.6	7.5	15	22.5	30	
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
セカンダリーエアシステムの機能点検			●	●	●	●	-
セキュリティ電気装置の作動点検 (サイドスタンドセンサー、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー)		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
安全装置 (ABS など)、アイドリングの動作点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類 (サービスブック) への記入		●	●	●	●	●	12

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

メンテナンスプログラム： お客様が行うメンテナンス

重要

ぬかるみや乾燥したほこりっぽい環境など過酷な状況でモーターサイクルを使用すると、トランスミッション、ブレーキシステム、エアフィルター等の部品の摩耗を早める可能性があります。エアフィルターが汚れていると、エンジンが損傷するおそれがあります。そのため規定されている定期点検の間隔より早く、定期点検や摩耗しやすい部品の交換が必要な場合があります。

メンテナンス項目/作業内容 (km/mile 毎、または経過時間 *)	Km x1000 マイル x1000 月	1 0.6 6
エンジンオイルレベルの点検		●
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検		●
タイヤ空気圧、磨耗点検		●
チェーン張力の点検と潤滑		●
ブレーキパッドの点検必要であれば、ディーラーにて交換してください。		●

* 走行距離 (km、mi) または経過時間 (月) のうち、どちらか先に到達した時点で点検を実施してください。

テクニカル仕様

重量

車両重量 (燃料 90% を含むすべての液体類を装備 - 93/93/CE ガイドラインに準拠)：
209 kg (460.77 lb)
車両重量 (液体類およびバッテリーを除く)：
193 kg (425.49 lb)
車両総重量 (最大負荷重量)：
380 kg (837.8 lb)

警告
重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

サイズ

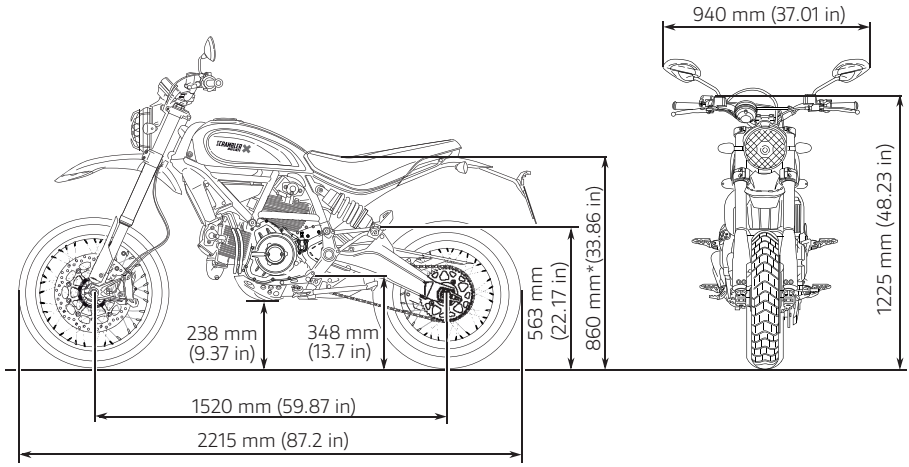


図 224

* アクセサリー設定、ローシート 840 mm (33.07 in)。

補給

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットル (0.88 UK ガロン) を含む	オクタン価が 95 以上の無鉛ガソリン SHELL V-Power を使用してください。	13.5 リットル (2.97 UK ガロン)
エンジンクランクケースおよびフィルター	ドゥカティ社推奨オイルは SHELL Advance 4T Ultra 15W-50 (JASO：MA2、API：SN) です。	3.4 リットル (0.75 UK ガロン)
フロント/リアブレーキシステム、クラッチ	DOT 4	-
電極保護液	電気系統の保護スプレー	-
フロントフォーク	SHELL Donax TA	668 cm^3 (40.8 cu in) (レッグごと)

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

90° L 型、2 気筒

ボア mm：88 mm (3.46 in)

ストローク mm：66 mm (2.6 in)

総排気量 cm^3：803 cm^3 (49 in^3)

圧縮比：11 ± 0.5:1

クランクシャフト最高出力、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X、kW /HP：
54 kW / 73 HP / 8,250 rpm

クランクシャフト最大トルク、規制 (EU) No. 134/2014 添付 X：
67 Nm / 6.8 kgm / 5,750 rpm

最高回転数、rpm ：9,200

重要

走行中いかなる状況においても、決して最高回転数を超えてはいけません。

参考

記載されている出力/トルクデータは、基準適合規則に従って静的テストベンチを使用して測定されたもので、認証時に測定され車両登録証に記載されているデータと同じになります。

タイミングシステム

デスモドロミックシステム：シリンダーごとに2本のバルブ、4本のロッカーアーム(2オープニングロッカーアーム、2クロージングロッカーアーム)、オーバーヘッドカムシャフトスパーギア、プーリー、コグドベルトを介してクランクシャフトで制御されます。
デスモドロミックタイミングシステム

1) オープニング(アッパー)ロッカーアーム
2) オープニングロッカーシム
3) スプリットリング
4) クロージング(ロア)ロッカーシム
5) クロージングロッカーアームリターンスプリング
6) クロージング(ロア)ロッカーアーム
7) カムシャフト
8) バルブ

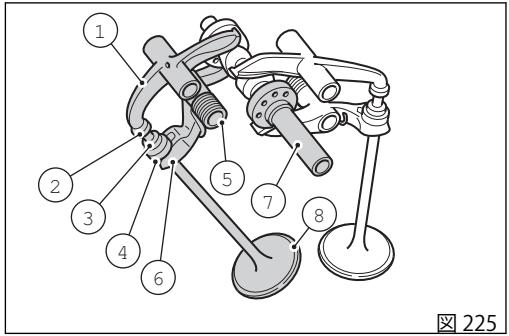


図 225

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく守り、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

サイドバッグ装着時、トップケース装着時、サイドバックとトップケース装着時の最高速度は 160 km/h (93 mph) を超えないでください。いずれの場合も法定速度を遵守してください。

重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー：NGK
タイプ：DCPR8E

燃料供給

Siemens Synerject Continental 間接式エレクトロニックインジェクションシステム。
シリンダーごとのインジェクター数：1
スロットルボディ直径：50 mm (1.97 in)
インジェクター孔数：8
ガソリン燃料：95-98 RON

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキのアンチロックシステムは、両タイヤに装備されたホール効果センサーで制御されます。ABS の解除が可能です。

フロント
モノブロックラジアルマウント、コーナリング ABS 標準装備
ブレーキシュー材質：ステンレス

ハウジング材質：ステンレス
ブレーキディスク厚：5 mm (0.2 in)
ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：4.5 mm (0.18 in)
ディスク径：330 mm (13 in)
右側ハンドルレバーのアジャスタブルレバーによる油圧コントロール
4 ピストン モノブロックラジアルマウントフロントブレーキキャリパー
ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO
ピストン数：M4 x 32 b (4x32)
ブレーキパッド材質：TT 2182 FF
ポンプタイプ：PS 13/22、アジャスタブルレバー装備

リア
穴付き固定ディスク、スチール製
ハウジング材質：ステンレス
ディスク径：245 mm (9.6 in)
ブレーキディスク厚：4.2 mm (0.2 in)
ブレーキディスク厚 (摩耗限界)：3.8 mm (0.15 in)
フローティングキャリパー
車体右側ペダルによる油圧コントロール
メーカー：BREMBO
ピストン数：PF 32 b (1x32)
ブレーキパッド材質：FERIT I/D 450 FF
ポンプタイプ：PS 11

警告
ブレーキフルードは腐食性があります。
万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスミッション

湿式多板クラッチ、ハンドルレバー左側の油圧コマンドによる操作。
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。
6 速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作
一次減速比：33/61
二次減速比：15/46

変速比：
1 速 13/32
2 速 18/30
3 速 21/28
4 速 23/26
5 速 22/22
6 速 26/24

チェーンによるギアボックスとリアホイール間の駆動伝達
メーカー：DID
タイプ：520 VP2
寸法：5/8″ x 1/4″
リンク数：108

重要
上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

警告
リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。
この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム
クロムモリブデン鋼製トレリスパイプフレーム
ステアリングアングル (片側)：35°
キャスター角：24°
トレール mm：112

ホイール
ワイヤースポークホイール

フロント
寸法：MT 3.00 x 19″

リア
寸法：MT 4.50 x 17″

両ホイールともシャフトの取り外しが可能です。

タイヤ
フロント
Pirelli SCORPION RALLY STR
寸法：120/70 R19

リア
Pirelli SCORPION RALLY STR
寸法：170/60 R17

サスペンション
フロント

KAYABA 製フルアジャスタブル倒立フォーク。
インナーチューブ径：
46 mm (1.8 in)
ホイールトラベル：200 mm (7.9 in)

リア

プログレッシブタイプ。ショックアブソーバーは、リバウンドダンピングとスプリングプリロードの調整が可能です。
リアホイールトラベル：200 mm (7.9 in)
ストローク：76.5 mm (3.01 in)

エキゾーストシステム
膨張室と消音室を有する、アルミニウム製エンドカバー付きステンレス製シングルサイレンサー。
触媒コンバーター、ラムダセンサー 2 個付き。

カラーバリエーション
ホワイトトリコロール

フューエルタンクのカラー構成順序：

フィラーベース 供給元 PALINAL コード 873I2713
プライマー 供給元 Lechler コード DS20052
一次ベース ホワイト 供給元 Palinal コード 929D.398
二次ベース レッド 供給元 PPG コード 473.101
クリアー グロッシー 供給元 Lechler コード 96230

トリコロールホワイトカラーのプラスチック部品カラー構成順序：
プライマー 供給元 Lechler コード DS20052
一次ベース ホワイト 供給元 Palinal コード 929D.398
クリアー グロッシー 供給元 Lechler コード 96230

フレームカラー レッド 供給元 TOA-PC コード PU CA03–90

ワイヤースポークホイール

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。
ヘッドランプ：
ロービーム / ハイビームランプ：H4 ランプ (12V – 60/55W)
パーキング / DRL ランプ：LED Stanley HCNW115AJTE　4 個
ハンドル上スイッチ
ターンインジケーター：
フロント：LED NICHIA NFSA 123DT　3 個
リア：LED NICHIA NFSA 123DT　3 個
警告ホーン
ストップランプスイッチ
バッテリー　12V-10 Ah、ドライ
ジェネレーター 14V-490W
電子レギュレーターは、ヒューズボックス (C、図 228) 近くに設けられた 30A ヒューズで保護されています。
スターターモーター：12V-0.7 kW
テールライト：
パーキングランプ：LED OSRAM E6SF　12 個
ストップランプ：LED OSRAM E6SF　12 個 + LED OSRAM G6SP　6 個
ナンバープレートランプ：
LED CREE CLA1A　3 個

参考

電球の交換は、"ハイ/ロービーム電球の交換" を参照してください。

ヒューズ

電装品保護するために、ヒューズボックス内に 7 個、スターターコンタクター上に 1 個のヒューズが設置されています。ヒューズボックス内には 2 個の予備ヒューズが用意されています。
ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。
ヒューズボックス (A、図 226) はシート下に設置されています。ヒューズを交換するには、シートとバッテリーカバーを取り外します。ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

ヒューズボックス (B、図 227) は (A、図 226) の隣に設置され、ABS システムに関連する 2 個のヒューズが収納されています。

ヒューズボックス (A、図 226) 凡例(図 226)		
配置	保護装置	容量
1	Key-ON	10 A
2	充電	15 A
3	インストルメントパネル/ランプ	10 A
4	コントロールユニット	5 A
5	インジェクション	20 A
6	IMU	5 A
7	オプション	5 A
–	スペア	20 A
–	スペア	5 A

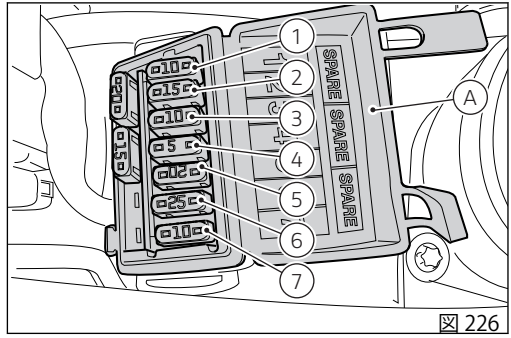


図 226

ヒューズボックス (B、図 227) 凡例(図 227)		
配置	保護装置	容量
8	ABS	10 A
9	ABS モーター	25 A

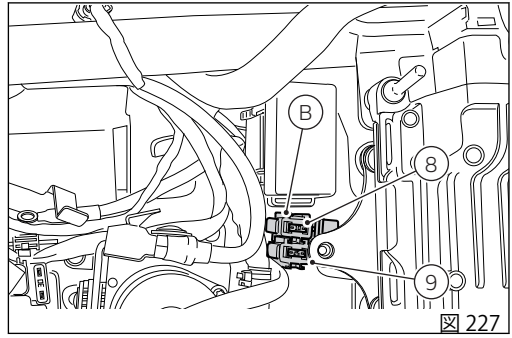


図 227

メインヒューズ(C)はスターターコンタクター(D)上に設置されています。メインヒューズを交換するには、保護キャップを取り外してください。切れたヒューズは、インナーフィラメント(F)が溶断しているかどうかで確認することができます。

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーをOFFにしてください。

警告

表示されている規定以外のヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

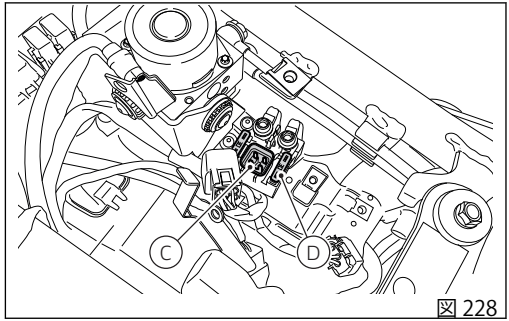


図 228

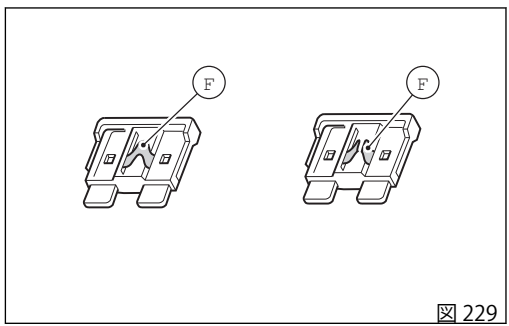


図 229

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

1) フロントストップスイッチ
2) クラッチスイッチ
3) ハンドルバー右側スイッチ
4) キースイッチ
5) ハンドルバー左側スイッチ
6) ヒューズボックス
7) IMU コントロールユニット
8) USB ソケット
9) Bluetooth モジュール (オプション)
10) フロントスピードセンサー
11) リアスピードセンサー
12) スターターモーター
13) ヒューズコンタクター
14) バッテリー
15) 盗難防止装置 (オプション)
16) レギュレーター
17) ジェネレーター
18) 右リアターンインジケーター
19) ナンバープレートランプ
20) 左リアターンインジケーター
21) テールランプ
22) 燃料ポンプ
23) 燃料ポンプアース
24) メインリレー
25) 燃料ポンプリレー
26) バーチカルラムダセンサー
27) ホリゾンタルラムダセンサー
28) ホリゾンタルコイル
29) ホリゾンタルコイル
30) ホリゾンタルインジェクター
31) バーチカルインジェクター
32) ポテンシオメーターモーター (TPS)
33) セカンダリーエアアクチュエーター
34) MAP センサー
35) ECT センサー
36) パージバルブ
37) サイドスタンド
38) オイル圧センサー
39) リアブレーキセンサー
40) データ取得/ 診断 (DDA)
41) エンジン回転数/タイミングセンサー
42) 気温センサー
43) コントロールユニット
44) ステッパーモーター
45) ギアセンサー
46) 燃料レベルセンサー
47) 外気温
48) インストルメントパネル
49) トランスポンダーアンテナ

50)　左側ヒーテッドグリップ
51)　右側ヒーテッドグリップ
52)　左フロントターンインジケーター
53)　ヘッドライト
54)　右フロントターンインジケーター
55)　警告ホーン
56)　ABS コントロールユニット

配線カラー表

B 青
W 白
V 紫
Bk 黒
Y 黄
R 赤
Lb ライトブルー
Gr グレー
G 緑
Bn 茶
O オレンジ
P ピンク

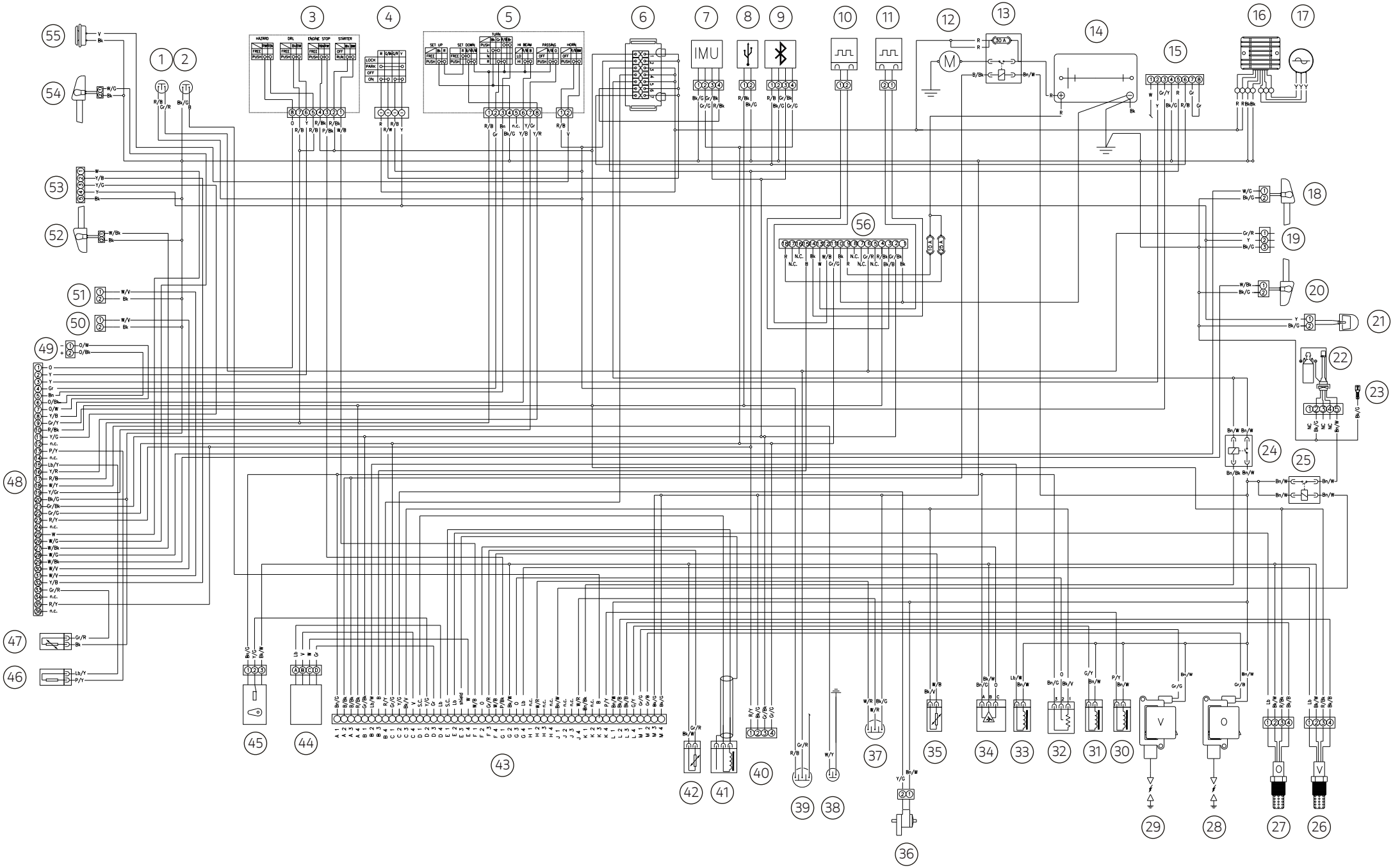
参考
配線図はマニュアルの最後部にあります。

定期点検メモ

定期点検メモ

キロ	マイル	ドゥカティサービス名	走行距離	日付
1,000	600			
12,000	7,500			
24,000	15,000			
36,000	22,500			
48,000	30,000			
60,000	37,500			

Stampato 06/2019 Cod. 913.7.427.1B



Scrambler 800 Desert Sled

SCRAMBLER DUCATI

cod. 913.7.427.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
subject to the Management
and Coordination activities
of AUDI AG